2025年度

病院年報

社会医療法人財団 白十字会
白十字病院



「社会医療法人財団白十字会　シンボルマーク」

hakujyujikaiの頭文字のｈを未来に羽ばたく羽のようにデザインし、市民の皆様や患者様を表す３つの丸を優しく見守っています。

羽の中心には、白十字を置き、私たち職員の職業精神の基本であり、誇りを表しています。

ｈは、heart（ハート・心）、hospitality（ホスピタリティ・親切なおもてなし）、human（ヒューマン・人間らしさ）、health（ヘルス・健康）を表し、健康に寄与する私たち白十字会職員の統一した意思を象徴しています。

「新たな成長」

2025年度は団塊世代が75歳以上となり、医療・介護需要が最大化することを踏まえた地域医療構想のゴールの年とされていました。また、当法人におきましては、新たに碇　秀樹理事長体制となり、前理事長の富永雅也は会長に就くこととなった年でした。

その様な中、当院は新病院移転・分院して5年目の年となり、“病院機能の成長”を年間の重点目標に掲げ、職員一体となって取り組みました。手術件数、救急車受け入れ件数、初診紹介患者数、新規入院患者数、病床稼働率等において過去最高の結果を挙げ、特に高い病床稼働率（年間99.9%）で病床逼迫にも関わらず、職員の協力体制により沢山の患者受け入れを行うことができました。同年6月より軽症患者を早期に転院搬送する救急患者連携搬送（所謂「下り搬送」）により空床を作り、新たな患者を受け入れるシステムを作ったことは、まさに病院機能の成長であったと思います。受け入れていただく契約病院は徐々に増え、2025年度末（2026年3月）までに6病院となりました。この体制を更に拡充していくことは、各病院機能の役割分担となり地域医療の充実に繋がると考えられます。また、救急センターとICUを一元化し救急、重症患者の受け入れから治療への流れを円滑にすることもできました。

物価高騰の中、ご多聞に漏れず病院経営は厳しい状況にあったので、“経費適正化・コスト節減”をもう一つの年間の重点目標として掲げ、職員全員で実践しました。また、省エネ推進を強化し、見事な成果を示すことが出来ました。

松尾文恵先生（乳腺外科）が4人目の副院長に就任し、主に多職種協働推進、倫理委員会、認知症ケア推進などを担当し、病院機能が更に充実しました。

白十字病院が福岡石丸の地に開院して43年（1982年開院）。2025年10月26日に白十字会福岡地区で初めてとなる「白十字会地域感謝祭～ありがとう～」を開催しました。地域住民をはじめ近隣の医療機関・介護事業所の皆様が、約1,000名来場しました。地域から信頼され愛される施設、私たちにとっても価値ある職場であることを実感することができました。

今後も、白十字病院は地域医療支援病院として、盤石な多職種協働と地域医療連携の土台の上に“高度専門医療”、“救急医療”、“在宅療養後方支援”、“健康なまちづくり”を4本柱として、福岡市西部～糸島地域の連携医療機関の皆様と共に地域医療に貢献できるよう鋭意努力して参ります。

ここに2025年度（令和7年度）の白十字病院の様々な実績・業績を年報としてまとめました。白十字病院の成長がお分かり頂けることと思います。是非、ご一読ください。

2026年（令和8年）4月

社会医療法人財団 白十字会　白十字病院

病院長　渕野 泰秀

目　次

はじめに …… 1
1．病院概要 …… 4
基本理念・基本方針 …… 4
名称・所在地・開設者・管理者・病床数 …… 4
診療科 …… 4
センター …… 4
専門外来 …… 4
学会認定・教育施設 …… 4
診療内容 …… 5
専門診療施設 …… 5
社会医療法人財団 白十字会　組織図 …… 6
社会医療法人財団 白十字会　白十字病院　組織図 … 7
職種別人員数 …… 8
2．2025年度　白十字病院のあゆみ …… 9
3．各種センター紹介 ……14
脳卒中センター ……14
糖尿病センター ……16
消化管内科・内視鏡センター ……17
乳腺センター ……17
透析センター ……18
肝胆膵センター ……18
心臓・弁膜症センター ……20
4．診療統計 ……22
2025年度　2週間以内サマリー作成率 ……22
2025年度　ICD10大分類別　入院患者数　年推移 ……23
年齢階級別退院患者数 ……24
診療情報提供（カルテ開示）件数 ……24
5．各診療科実績 ……25
糖尿病内科 ……25
脳・血管内科 ……26
腎臓内科 ……27
肝臓・胆のう・膵臓内科 ……28
消化管内科 ……30
心臓血管内科 ……31
呼吸器内科 ……32
総合診療科 ……34
外科 ……37
乳腺外科 ……39
心臓血管外科 ……41
脳神経外科 ……47
整形外科 ……50
形成外科 ……51
泌尿器科 ……52
眼科 ……53
歯科・歯科口腔外科 ……54
救急科 ……56
救急車受入れ台数年次推移（2016年度～ 2025年度）…57
2025年度　曜日別救急搬送件数 ……58
2025年度　性別・年齢別の救急搬送件数 ……59
2025年度　救急隊別搬送数と入院率 ……60
2025年度　救急搬送入院　疾患別件数（DPC 2 桁分類）…60
放射線科 ……62
病理診断科 ……63
麻酔科 ……64
6．看護部 ……66
7．薬剤部 ……72
8．放射線技術部 ……75
9．臨床検査技術部 ……77
10．臨床工学部 ……81
11．リハビリテーション部 ……83
12．栄養管理部 ……86
栄養サポートチーム（NST） ……88
13．眼科技術部 ……89
14．事務部門 ……91
入院動態患者数（退院を含む） ……91
入院静態患者数 ……91
1日平均外来患者数 ……91
診療報酬に対する査定率 ……92
入院患者診療単価 ……92
外来患者診療単価 ……92
2025年度　主要医療機器・環境設備等導入一覧 ……93
15．安全管理部 ……94
16．感染制御部 ……97

17. 患者支援センター ……98
18. TQMセンター ……102
19. 資格取得奨励支援制度利用状況 ……104

1．病院概要

■ 基本理念・基本方針

1）基本理念
患者さん・利用者さんが 1 日も早く社会に復帰されることを願います。
2）基本方針
・患者さん・利用者さんの権利を尊重し、快適な療養・生活環境を提供いたします。
・地域医療機関との連携に努め、市民のニーズにあったサービスを提供することにより、社会に貢献いたします。
・職員の総和をもって、納得の医療・介護サービスを推進し、地域から信頼され、愛される施設を作ります。
・最新の知見と設備を導入し、日進月歩の医療・介護に正面から取り組みます。
・社会人として白十字会職員として、信頼される人格を持った責任ある人間を育成いたします。
・すべての職員はかけがえのない人財であり、職員にとって価値ある職場であるよう努力いたします。

■ 名称・所在地・開設者・管理者・病床数

基幹型臨床研修病院、内科専門医研修プログラム基幹施設、救急告示病院、地域医療支援病院、へき地医療拠点病院、開放型病院、（財）日本医療機能評価機構認定施設

名　称：社会医療法人財団白十字会　白十字病院
開設者：社会医療法人財団白十字会理事長　碇　秀樹
管理者：渕野　泰秀
所在地：福岡県福岡市西区石丸 4 - 3 - 1

病床数:許可病床数 282 床［ICU 病床 12 床、SCU 病棟 6 床、一般病床 219 床、地域包括ケア病床 45 床］

■ 診療科

内科、糖尿病内科、脳･血管内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、肝臓･胆のう･膵臓内科、消化器内科、心臓血管内科、脳血管内治療科、内分泌内科、血液内科、呼吸器内科、放射線科、精神科、皮膚科、総合診療科、外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、眼科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科　以上 37 診療科

■ センター

脳卒中センター、心臓･弁膜症センター、肝胆膵センター、糖尿病センター、内視鏡センター、透析センター、乳線センター、救急センター、手術センター、高度画像センター、創傷治癒センター　以上 11 センター

■ 専門外来

もの忘れ外来、睡眠時無呼吸症候群外来、肺がん外来、腹膜透析外来、腎療法選択外来、肩関節外来、膝・股関節外来、背椎抹消神経外来、弁膜症スクリーニング外来、ペースメーカー外来

■ 学会認定・教育施設

日本透析医学会専門医認定施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本乳癌学会認定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
胸部ステントグラフト実施施設証明書
腹部ステントグラフト実施施設証明書
日本脈管学会認定研修関連施設
日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
基幹型臨床研修指定病院
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本医学放射線学会画像診断管理認定施設
日本病理学会研修登録施設
日本口腔外科学会認定准研修施設
日本有病者歯科医療学会研修施設
日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設
日本神経学会専門医制度准教育施設

■ 診療内容

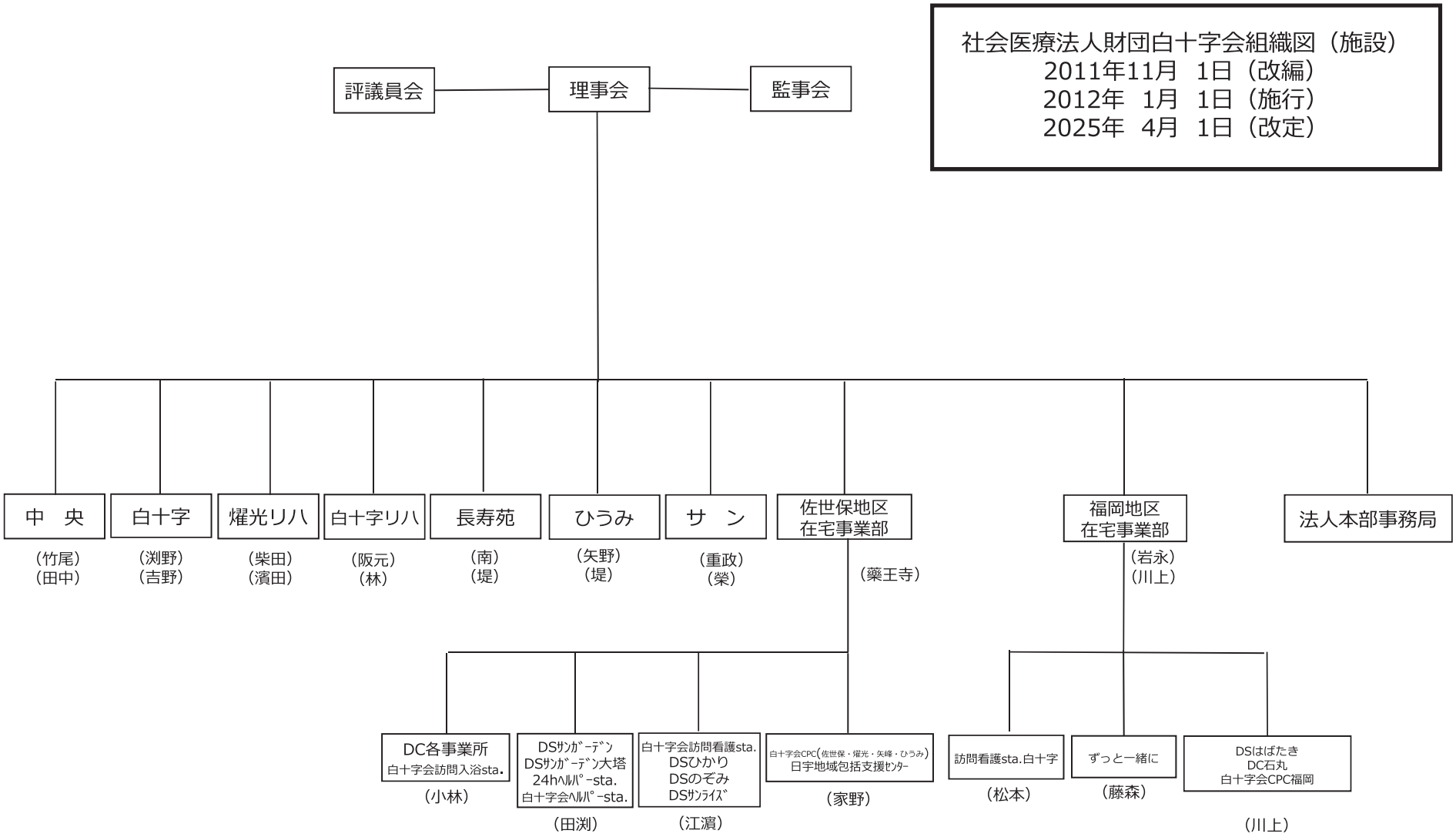
診療科目		内容
内科	糖尿病	糖尿病、糖尿病合併症、低血糖症、肥満、代謝性疾患、内分泌疾患
	脳・血管	虚血性脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）、中枢神経感染症、頸動脈狭窄症など
	消化管	消化管疾患一般、消化管悪性腫瘍、消化管良性腫瘍、消化管出血、炎症性腸疾患、消化管感染症、消化管異物
	肝胆膵	胆膵疾患検査治療（ERCP・EUS）、肝癌治療（RFA・TACE・薬物療法）、静脈瘤治療（EVL･EIS･APC）、抗ウイルス治療、肝硬変治療（CART･デンバーシャント）
	腎臓	腎臓、腎生検、保存期腎臓病治療、血液透析、腹膜透析、ブラッドアクセス手術、シャントPTA、腎臓リハビリテーション、腎代替療法選択、慢性腎臓病透析予防指導
	心臓血管	心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈インターベンション、高速回転式経皮的冠動脈形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、下肢血管造影、下肢血管内治療、運動負荷心電図、ホルター心電図、長時間心電図、動静脈血管エコー検査、（経食道）心エコー検査、心筋シンチグラフィ、心肺運動負荷試験（CPX）、心臓リハビリテーション、終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査、心筋生検、心嚢ドレナージ、カテーテルアブレーション、心臓電気生理学的検査
	呼吸器	気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎、肺癌、呼吸器感染症など呼吸器疾患全般
	総合診療	原因不明の症状、多症状・多臓器、紹介先不明症例（外来診療）
外科		食道、胃・十二指腸、大腸、小腸、虫垂、肛門、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、ロボット支援内視鏡手術、腹腔鏡下手術、ERCP（胆・膵内視鏡）、PTBD（胆道経皮的治療）、ヘルニア、腹部救急疾患、癌化学療法、癌終末期医療
乳腺外科		乳腺疾患、乳癌検診
整形外科		スポーツ障害、膝関節疾患、肩関節疾患、外傷（骨折･脱臼）、骨粗鬆症、変形性関節症、関節鏡手術、膝骨切り手術、人工関節手術
形成外科		瘢痕、ケロイド、熱傷、顔面外傷、褥瘡、皮膚腫瘍、爪疾患、手の外傷、眼瞼下垂、手根管症候群、皮膚潰瘍
脳神経外科		未破裂脳動脈瘤、くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）、脳出血、脳動脈瘤解離、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頚動脈狭窄症、脳腫瘍、頭部外傷、頚椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、手根管症候群、殿皮神経障害、肘部管症候群、足根管症候群、腰痛、手足の痺れ、特発性正常圧水頭症
心臓血管外科		心臓弁膜症手術（低侵襲心臓手術：MICS手術含む）、冠動脈バイパス手術、胸部・腹部大動脈瘤手術、ステントグラフト手術、閉塞性動脈硬化症（外科手術、血管内治療）
泌尿器科		尿路結石症（ESWL･TUL･PNL）、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、尿路感染症、前立腺肥大症、ロボット支援内視鏡手術、内視鏡的手術、腹腔鏡下手術、尿路変向、前立腺生検、尿失禁
眼科		糖尿病網膜症、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、網膜色素変性症、加齢黄斑変性、網膜剥離、眼循環、角膜・結膜疾患、屈折矯正コンタクトレンズ、ドライアイ、神経眼科、全身性眼疾患、眼感染症、ロービジョン外来、角膜疾患
放射線科		CT、MRI、RI、IVR、放射線診断
歯科口腔外科		口腔外科、基礎疾患のある方の歯科治療、歯科心身症

■ 専門診療施設

施設名	担当責任者	
脳卒中センター	脳神経外科	井上　亨
心臓・弁膜症センター	心臓血管外科	江石清行
肝胆膵センター	外科	谷　博樹
糖尿病センター	糖尿病内科	岩瀬正典
内視鏡センター	消化管内科	井浦登志実
透析センター	腎臓内科	平野直史
乳腺センター	乳腺外科	松尾文恵

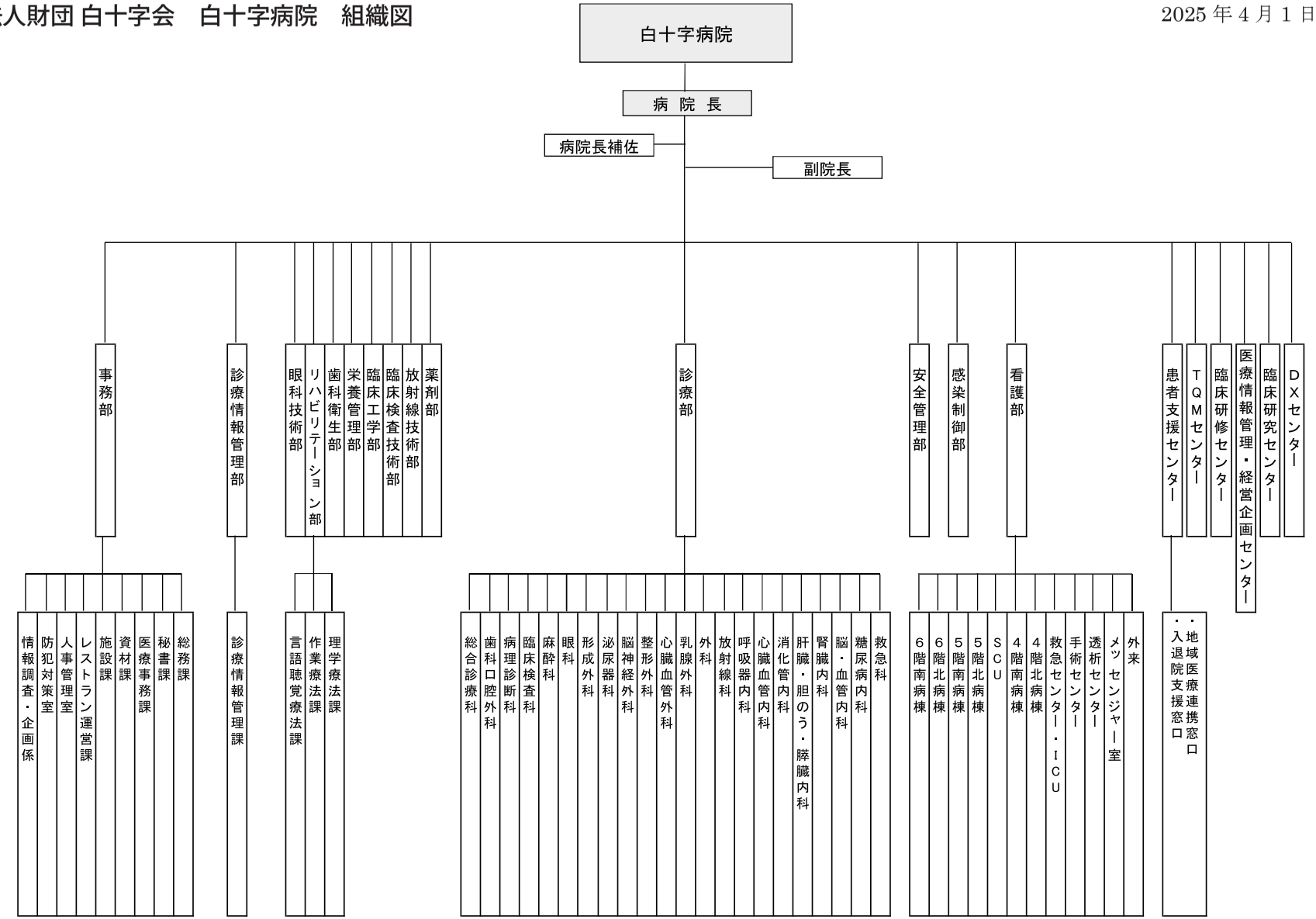
■ 社会医療法人財団 白十字会　組織図

2025 年 4 月 1 日



■ 社会医療法人財団 白十字会　白十字病院　組織図

2025 年 4 月 1 日



■ 職種別人員数

2025 年 4 月 1 日

（ 白十字病院 ）

職種	常勤		非常勤		職種	常勤		非常勤	
	男	女	男	女		男	女	男	女
医師（歯科医師含む）	69	22	55	15	理学療法士	14	10	0	2
診療看護師	5	0	0	0	リハビリ助手	0	1	0	1
看護師 放射線・検査（パ）・含む	35	274	0	28	作業療法士	4	10	0	1
准看護師 検査（パ）含む	0	3	0	2	言語療法士	1	5	0	3
ケアスタッフヘルパー	3	10	3	15	臨床工学技士	13	5	0	0
介護福祉士	1	5	1	2	臨床工学部助手	0	0	0	1
リハビリ秘書	0	0	0	0	視能訓練士	1	2	0	0
外来アシスタント	0	2	0	29	救急救命士	4	0	0	0
安全・感染看護師	0	3	0	0	M・S・W	1	7	0	0
薬剤師	9	14	0	0	事務員	12	63	0	44
薬剤師助手	0	0	0	6	事務員（在宅）	0	0	0	0
検査技師	10	13	0	0	施設課（車輌）	5	0	0	0
臨床検査技術部アシスタント	0	0	0	3	SE	5	2	0	0
放射線技師	12	4	0	0	病棟クラーク	0	2	0	12
歯科衛生士	0	4	0	0	施設課（設備）	2	0	0	0
歯科助手	0	0	0	1	清掃作業員	0	0	0	0
管理栄養士	2	9	0	0	厨房助手	0	0	0	0
ケアマネジャー	1	0	0	0	調理師	1	0	0	0
合計	147	363	59	101	合計	63	107	0	64
白十字病院合計	904 名（常勤		680 名・非常勤		224 名）				
総合計	1,244 名（常勤		987 名・非常勤		257 名）				

（ 在宅事業部 ）

職種	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
ケアマネージャー	1	9	0	0
社会福祉士	0	0	0	0
社会福祉主事任用	0	0	0	0
介護福祉士	7	8	0	4
ケアスタッフヘルパー	1	2	0	2
看護師	0	4	0	0
准看護師	0	0	0	0
事務員	0	2	0	0
合計	9	25	0	6
在宅事業部合計	40 名			
（常勤 34 名・非常勤 6 名）				

（ 訪問看護 ST ）

職種	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
看護師	0	11	0	2
理学療法士	1	1	0	0
作業療法士	1	1	0	0
事務員	0	1	0	0
合計	2	14	0	2
訪問看護 ST 合計	18 名			
（常勤 16 名・非常勤 2 名）				

2．2025 年度　白十字病院のあゆみ

2025 年

4 月 1 日　入社式
新入職員研修
8 日～ 9 日　1 年次研修（新入職員研修）
24日　いしまるしぇ健康講座
「脳卒中を知る～基礎知識と発症予防、リハビリテーションまで」
講師：白十字リハビリテーション病院　リハビリテーション科　副院長
三浦　聖史
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
救急患者連携搬送料（新規）
麻酔管理料 I （変更）
神経学的検査（変更）
画像診断管理加算 2（変更）

5 月　あいさつ強化月間
10日　いしまるしぇユマニチュード講座
「認知症に対する白十字会の取り組み」
講師：社会医療法人財団白十字会　会長　富永　雅也
「ユマニチュードってなに？」
講師：社会医療法人財団白十字会　人事本部　ケア技術向上推進室　主任
山浦　由紀子
19日～28日　職員健診
21日　第 130 回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（ 第 24 回 ）
講演『チームで取り組む ACP』
講師：白十字病院　がん看護専門看護師　看護管理室　課長　浜谷　千枝子
24日　第 16 回白十字駅伝大会（雨天の為中止）
28日　いしまるしぇ健康講座「正しい血圧測定」
講師：白十字病院　看護部

6 月 2 日～30日　さいとぴあ（福岡市西部地域交流センター）にて福岡地区施設紹介ポスター展示
4 日　新任監督者研修
6 日　いしまるしぇ健康講座「熱中症対策～総合診療医と一緒に学ぶ熱中症予防のポイント～」
講師：白十字病院　総合診療科　医長　最勝寺　佑介
11日　法人内認定資格者授与式
いしまるしぇ健康講座「男性の病気前立腺がん～早期発見と的確な治療のために～」
講師：白十字病院　副院長・泌尿器科部長　阿部　裕典
25日　いしまるしぇ健康講座「正しい血圧測定」
講師：白十字病院　看護部
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
麻酔管理料 I （変更）
リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算（新規）
認知症ケア加算 1（新規）
医療 DX 推進体制加算（新規）
脳卒中ケアユニット入院医療管理料（変更）
無菌製剤処理料（新規）
歯科外来診療医療安全対策加算 1（変更）
歯科外来診療感染対策加算 1（変更）
歯科外来診療感染対策加算 1（変更）

7月　　安全・安心いっぱい月間

5日　　医療安全・感染対策・個人情報合同研修会
個人情報保護研修会『病院における個人情報の適切な取り扱い』
講師：福岡リーガルクリニック法律事務所　中村　伸理子　先生
防犯対策研修会『患者も守るそして自分も守る』
講師：白十字病院　防犯対策室　室長　柴田　建一
病院感染対策研修会
『院内感染症と呼吸器感染症（RS ウイルス感染症、COVID-19 感染症）』
講師：白十字病院　呼吸器内科　部長　松本　武格
『AMR（薬剤耐性）アクションプランについて』
講師：白十字病院　薬剤部　瀬戸山　和希
DPC 戦略委員会『DPC について』
講師：白十字病院　診療情報管理課　次長　松元　潤

7日　　ピュアキッズ「七夕まつり」

7日～8日　　2年次研修

10日～11日　　3年次研修

9日　　いしまるしぇ健康講座「尿のお悩み　夜間頻尿、排尿困難について」
講師：白十字病院　副院長・泌尿器科部長　阿部　裕典

16日　　第 131 回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第 25 回）
講演『西区における骨粗鬆症連携』
講師：かつの整形外科　リハビリテーション科　院長
勝野　雷二郎　先生

21日　　ICLS 研修

22日　　新任考課者フォローアップ研修会

23日　　いしまるしぇ健康講座「美味しく減塩のススメ！」
講師：白十字病院　栄養管理部　部長　島井　里佳

25日　　キッズ医療体験

26日　　医療安全・感染対策・個人情報合同研修会（動画研修）

29日　　前期 OJT 研修
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）（新規）
処置の休日加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1）（新規）
処置の時間外加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1）（新規）
処置の深夜加算1（医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1）（新規）
手術の休日加算1（医科点数表第2章第10部処置の通則の12に掲げる処置の休日加算1）（新規）
手術の時間外加算1（医科点数表第2章第10部処置の通則の12に掲げる処置の休日加算1）（新規）
手術の深夜加算1（医科点数表第2章第10部処置の通則の12に掲げる処置の休日加算1）（新規）
ベースアップ評価料 62（変更）
認知症ケア加算 2（辞退）

8月1日　　新任考課者研修（初期研修①）

8日　　新任考課者研修（初期研修②）

19日　　選択型研修①

20日　　選択型研修②

21日　　選択型研修③

26日　　いしまるしぇ健康講座「胃の健康チェック、お薬相談／健康相談」
講師：ココカラファイン薬局
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
ベースアップ評価料 60（辞退）

9月5日　第2回白十字×福大救命　救急医療合同研修会
講演『薬物情勢等について』
座長：福岡大学病院　救命救急センター長　仲村　佳彦　教授
講師：福岡県警察本部　暴力団対策部　薬物銃器対策課　課長補佐
小野　聡　警部

6日　いしまるしぇユマニチュード講座「ユマニチュードってなに？」
講師：社会医療法人財団白十字会　人事本部　ケア技術向上推進室　主任
山浦　由紀子

10日　石丸小学校3年生総合学習で来院

11日　管理者研修①

12日　管理者研修②

20日　いしまる祭り出店

24日　いしまるしぇ健康講座「脳卒中の治療に使われる代表的なお薬と注意点」
「市販薬の注意点」
講師：白十字病院　薬剤部　部長　髙津　宏典
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
重症患者初期支援充実加算（新規）
医療DX推進体制加算5（区分変更）

10月2日　いしまるしぇ健康講座「心臓を知る～早めに見つけよう心臓病～」
講師：白十字病院　心臓血管外科　徳永　峻吾

7日　監督者研修（ハラスメント防止・職場マネジメント実践）

8日　監督者研修（職場コミュニケーションに大切な人間力向上研修）

9日　新入職員フォローアップ研修

10日　新入職員フォローアップ研修

11日　医療安全・感染対策・個人情報合同研修会
病院感染対策研修会『標準予防策』
講師：白十字病院　感染制御部　課長　山口　佐月
『抗菌薬と耐性菌のキホン』
講師：白十字病院　薬剤部　瀬戸山　和希
医療放射線管理研修会『医療被ばくの防護の最適化』
講師：白十字病院　放射線技術部　熊谷　衛
第2回保険診療に関する研修会
講師：白十字病院　医療事務課　課長　山田　佳代
※第2回医療安全研修会　セーフティマネジメント大会はeラーニングにて実施

21日～23日　特定業務従事者健康診断

26日　白十字地域感謝祭

31日　ピュアキッズ「ハロウィンパレード」
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
医療DX推進体制加算6（区分変更）

11月11日　福岡市西保健所立入検査
13日～14日　御堂筋監査
18日　新任考課者フォローアップ研修
19日　第 132 回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第 26 回）
講演『患者を守る　自分を守る』
講師：白十字病院　防犯対策室　室長　柴田　建一
21日　ピュアキッズ「勤労感謝の日」
23日　ICLS 指導者養成ワークショップ
25日　OJT 後期フォローアップ研修
26日　【初級】リーダー研修
27日　【中級】リーダー研修
〔診療報酬改正　施設基準届出〕
麻酔管理料 I （変更）
医療 DX 推進体制加算 5（区分変更）

12月　安全・安心いっぱい月間
3 日　いしまるしぇ健康講座「ヒートショックに注意～寒い季節を安全に過ごすためのヒートショック対策～」
講師：白十字病院　総合診療科　最勝寺　佑介
6 日　「ユマニチュード ® を学ぼう～あなたのやさしさ伝えましょう～」
講師：本部　ケア技術向上推進室　主任
ユマニチュード ® インストラクター　山浦　由紀子
9 日　いしまるしぇ健康講座「減塩×おせち料理～シェフと管理栄養士が教えます～」
講師：白十字病院　レストラン部／栄養管理部
11日　防火避難訓練
18日　永年勤続表彰式
19日　病院忘年会
25日　ピュアキッズ「クリスマス会」

2026 年

1月21 日　第 133 回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第 27 回）
講演『高度肥満診療について』
講師：白十字病院　糖尿病内科　部長　井手　均
21日　いしまるしぇ健康講座
「腎臓は縁の下の力持ち～気づかないうちに進む腎臓病とは？～」
講師：白十字病院　透析センター長　平野　直史
29日　いしまるしぇ健康講座
「あなたの「我が家」は本当に安全ですか？～転倒・骨折を防いでいつまでも元気で暮らすために～」
講師：白十字病院　リハビリテーション部　次長　福井　哲
30日　2 年目考課者フォローアップ研修
31日　認知症ケア・医療安全・臨床倫理合同研修会
第 1 部　認知症ケアチーム研修会
『認知症と BPSD（行動心理症状）』
講師：白十字病院　医療情報管理・経営企画センター長　入江　克実
『認知症を知ろう』
講師：白十字病院　認知症ケア専任看護師　八尋　裕美
白十字病院　薬剤部　福田　舜
第 2 部　医療安全管理委員会・臨床倫理検討部会
『認知症の方の意思決定支援における臨床倫理－誰の意思を、どのように支援するのか？－』
講師：宮崎大学附属病院　病院長補佐　臨床倫理部部長　板井　孝壱郎　先生

2月3日　ピュアキッズ「節分」

9日　いしまるしぇ健康講座「認知症予防～大切な3つの柱～」
講師：白十字リハビリテーション病院　看護部　認知症看護認定看護師
宇佐　靖史

12日　緩和ケア委員会主催研修会
『在宅医療における緩和ケアについて考える』
講師：医療法人すずらん会　たろうクリニック　院長　内田　直樹　先生

23日　ICLS研修

26日　いしまるしぇ健康講座「アイフレイル～目の健康寿命をのばそう～」
講師：白十字病院　眼科技術部　視能訓練士　係長　岩﨑　聡

〔診療報酬改正　施設基準届出〕
特定集中治療室管理料5 早期栄養介入管理加算（新規）
脳卒中ケアユニット入院医療管理料 早期栄養介入管理加算（新規）

3月5日　保険診療に関する研修会特別講演
『令和8年度診療報酬改定の動向～白十字病院はいかに対応するか～』
講師：一般社団法人　日本血液製剤機構　事業本部　事業戦略部　主席
谷澤　正明　先生

7日　エコウォーク

13日　第30回救急医療研修会
講師：福岡大学　救命救急医学講座　臨床教授　田中　潤一　先生

18日　第134回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第28回）
講演『形成外科におけるオンライン診療』
講師：白十字病院　形成外科　部長　眞鍋　剛

25日　考課者研修（学び直し、振り返り研修）

27日　第47回いい仕事人表彰式

28日　個人情報書類破棄

作成：濵地香菜子　確認：吉野典功

3．各種センター紹介

● 脳卒中センター

脳卒中センター長　井上　亨

脳卒中センターは、脳神経外科医、脳神経内科医、脳血管内治療医、脳卒中専属 NP、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種体制により、脳卒中疾患（脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血）および脳腫瘍、頭部外傷、脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患など各科と連携をとりながら 24H/7D で治療を行っています。当センターは日本脳卒中学会より一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）の認定を受けていましたが、2022 年には実績を認められ PSC コアセンターに認定されました。また、これまでの 4 南脳卒中専用の病棟（Stroke Unit：SU）に加えて、2023 年 8 月には念願の脳卒中専用の ICU（Stroke Care Unit：SCU）が開設しました。当センターは日本脳卒中学会研修教育施設にも認定されており、西区・糸島地区における脳卒中診療において中心的な役割を担っています。

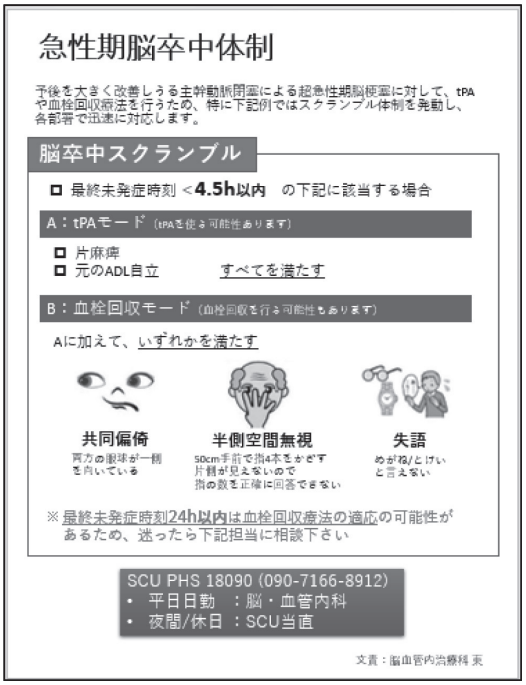
脳卒中が疑われる患者さんに対しては、緊急頭部 CT・MRI 撮影が可能です。さらに、看護部、放射線部、臨床検査部、臨床工学部その他の部門と協力して脳卒中スクランブル体制を敷いており、脳梗塞超急性期患者に対して 24H/7D で rt-PA 静注療法、脳血栓回収療法が可能です。手術が必要な脳出血に対しては、神経内視鏡を用いた低侵襲手術を行い早期にリハビリテーションを開始しています。くも膜下出血に対しては、従来の開頭脳動脈瘤クリッピング術に加え、カテーテルを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術を行い良好な成績を上げています。2022 年 11 月からは、医師・メディカルスタッフ専用の脳卒中担当医師への直通電話「白十字病院脳卒中センターホットライン」の運用が開始されました。

入院患者さん・家族に対しては、脳卒中クリニカルパスを導入すると共に、脳卒中リハビリテーション認定看護師が脳卒中教室を開催し再発予防に努めています。また、PSC コア施設に義務化された脳卒中相談窓口を設置し、脳卒中患者に対するシームレスな医療・福祉連携の充実を目指しています。

当センターの特記すべきことは、脳卒中の機能予後を大きく左右する急性期リハビリテーションにおいて、従来のリハビリに加えてロボットスーツ HAL®を使用した最先端のリハビリを行なっていることです。センター所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が HAL®チームを結成、毎朝の脳卒中センター症例カンファレンスに参加して重症度を把握した上でリハビリ専門医の指導のもと行っています。回復期においても、隣接する白十字リハビリテーション病院に転院し HAL®を使用したリハビリを継続することが出来ます。また、SCU・SU では、院内の栄養対策チームや褥創対策チームと連携し患者さんの早期回復に努めています。

最後に、当センターは福岡大学病院脳神経外科教室、救急救命センターと密に連携し全身合併症を有する患者さんに対しても最善の治療を提供しています。西区・糸島地区における脳卒中診療において、地域医療連携、病棟連携、先進的チーム医療に取り組み、白十字リハビリテーション病院などとの垂直統合で脳卒中患者さんの早期在宅復帰を推進します。

【脳卒中スクランブル】



【脳卒中ホットライン】



【単関節 HAL チームに配属されました！どうする！！】 2024 年 12 月 1 日発行





2025 年度はドイツ語に翻訳されました！

「脳卒中センタースケジュール」

・脳卒中センター症例カンファレンス（月－金）	毎朝
・脳神経外科回診（月） 脳神経内科回診（木） 脳卒中リハビリ回診（月）	1 回／週
・脳血管内治療症例検討会（水）	〃
・脳卒中症例合同カンファランス（福岡大学脳神経外科教授）（木）	〃
・脳卒中 HAL®リハビリテーションカンファレンス（金）	〃
・脳卒中 Journal Club（金）	〃
・脳卒中センターミーティング（多職種合同）（水）	1 回／月
・脳卒中センター DX 会議（金）	2 回／月

作成：天本宇昭　確認：井上　亨

● 糖尿病センター

糖尿病センター長　　岩瀬　正典

Ⅰ：構成員

医師 6 人（ 1 人非常勤） 看護師 10 人　管理栄養士 11 人　理学療法士 4 人　薬剤師 4 人
臨床検査技師 4 人　視能訓練士 1 人
福岡糖尿病療養指導士 29 人　日本糖尿病療法指導士 3 人
法人内認定糖尿病療養指導者 5 人

Ⅱ：診療実績

外来（糖尿病センター）

患者数 1, 203 人（ 1 型糖尿病 79 人、インスリン治療 279 人、糖尿病地域連携 40 人）
看護師　療養支援 1, 457 人　新患指導 155 人　外来教育パス 114 人
自己注射指導 86 人　血糖自己測定指導 33 人
持続血糖モニタリング導入 53 人、
フットケア 163 人、フットチェック 108 人
管理栄養士　個人栄養指導 1, 223 人、療養支援 751 人
糖尿病内科からの消化管内視鏡検査（上部、下部）依頼件数 263 件

肥満症外来 22 人

入院（6 北病棟）

患者数 258 人（糖尿病教室参加 33 人） 他科コンサルト 4, 031 人
糖尿病ケトアシドーシス 7 人、高血糖高浸透圧症候群 9 人、低血糖昏睡 15 人
管理栄養士　個人栄養指導 115 人
網膜症判定（網膜電図）52 人

理学療法士　運動指導　36 人

臨床検査部　HbA1c の毎月の推移

2025年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検体数	660	583	666	627	603	605	674	549	666	599	594	634
平均(%)	7.44	7.4	7.35	7.34	7.29	7.24	7.3	7.33	7.31	7.46	7.59	7.5

Ⅲ：研究業績

各部門をご参照ください。

Ⅳ：現状と展望

1）2025 年度は外来患者数が増加し、DM センターでの外来糖尿病教育パス、フットケア、持続血糖モニタリング導入、自己注射指導が増加した。DM センター看護師は 6 北病棟に所属し、病棟と外来で糖尿病指導のスペシャリストとして機能している。また、超高齢化社会を反映して高齢の定期通院患者が増え、診療に時間がかかるようになった。長年糖尿病外来に通院して

元気にされている患者さんが多いのは嬉しいことではあるが、今後とも糖尿病地域連携を指向していきたい。

2）画期的な肥満治療注射薬が上市され、肥満治療が大きく変わった。同薬は処方可能施設が制限されており、当院は福岡市西部地区で数少ない処方可能施設である。そのため肥満外来への紹介が急増している。薬物治療に加えて、食事、運動などの生活習慣の是正が肥満治療に必須であるためDMセンターの多職種で対応している。減量により将来の糖尿病や循環器疾患、肝疾患、整形外科疾患が減少することが期待されている。

3）入院に関しても高齢の高血糖緊急症や低血糖昏睡が増加し、福岡西部地区において糖尿病救急に対応可能な主要な施設として機能している。一方、働き盛りの糖尿病教育入院患者は減少しているが、教育入院プログラムは糖尿病内科に必須であり、今後とも多職種協働体制で継続する。

4）今年度も多くの他科入院患者の血糖管理を行った。特筆すべきは免疫チェックポイント阻害薬による劇症1型糖尿病患者2名を救命できたことである。

作成者：岩瀬正典　確認者：井手　均

● 消化管内科・内視鏡センター

内視鏡センター長　　井浦　登志実

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医2名、専門医1名、学会員1名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。2025年度の診療実績としては、紹介件数は892件、上部消化管内視鏡検査は2,207例、下部消化管内視鏡検査は1,307例、内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は43例、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミーは合計587例、内視鏡的止血術は143例、異物除去術は13例、胃瘻造設と交換は54例でした。新型コロナウィルス感染症は収束しつつありますが、当科では引きつづき日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

作成：工藤哲司　確認：井浦登志実

● 乳腺センター

乳腺センター長　　松尾　文恵

白十字病院移転後5年が経ち、乳腺センターでは3名の非常勤の先生方が加わり、益々精力的に手術や外来診療を行っております。2025年5月からはラジオ波焼灼術も開始し4例実施いたしました。また近隣の医療機関からのご紹介件数も増え、手術件数も増加傾向にあります。乳がん患者さん同士が気軽にお話できる「おしゃべりサロン」も開催しております。

医師・スタッフ共に女性のみで、各分野においてスペシャリストが集まり、患者さん一人ひとりに寄り添い治療を乗り越えるためのお手伝いを精一杯させていただきます。

作成：松尾文恵　確認：松尾文恵

● 透析センター

透析センター長　　平野　直史

透析センターでは、腎臓病や透析治療に精通した医師や看護師、臨床工学技士、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など専門スタッフを配置し、患者さんの透析治療を適切に管理し、安全性と効果を確保するために協働しています。

2025 年度血液透析導入は 31 名、シャント造設術は 39 名、腹膜透析導入は 1 名でした。

現在、透析室のコンソールは 27 台です。50 名強の当院血液透析患者さんに加え、他施設で維持透析中で合併症治療のため当院へ入院となる患者さんも、できる限り受け入れています（2025 年度 114 名）。シャントトラブルに対してのシャント PTA は、入院、外来含め 50 名となっています。重症患者さんに対しては ICU で HD または CHDF のいずれも実施可能で、その他敗血症に対するエンドトキシン吸着療法や潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法、血漿交換などの急性血液浄化なども行っています。

運動･食事･精神的などの包括的なサポートプログラムとして透析中に運動を行う腎臓リハビリテーションを実施し、透析患者さんの生命予後や QOL（生活の質）などを改善する取り組みも行っています。多職種協働で、療法選択チーム、ACP チーム、災害対策チームを形成し、今後もさらなる飛躍を目指します。

他施設の維持透析患者の合併症　　114 名（2024 年度数　133 名）

泌尿器科	3 名（ 8）	肝・胆・膵内科	5 名（ 4）
脳神経外科	8 名（ 2）	腎臓内科	26 名（25）
整形外科	12 名（20）	消化管内科	6 名（15）
外科	7 名（12）	脳・血管内科	2 名（ 7）
乳腺外科	1 名（ 0）	心臓血管内科	18 名（25）
心臓血管外科	8 名（ 2）	糖尿病内科	1 名（ 0）
眼科	6 名（ 8）	呼吸器内科	1 名（ 1）
歯科口腔外科	2 名（ 0）	救急科	0 名（ 1）
形成外科	5 名（ 2）	内科総合	3 名（ 1）

作成：平野直史　確認：木村廣志

● 肝胆膵センター

肝胆膵センター長　　谷　　博樹

胆石症に関連して発症する急性胆道炎（胆管炎・胆嚢炎）は、急性期に適切な診断と治療が必要であり、重症例は死亡する危険を伴います。白十字病院の胆石症センターは、地域の急性期医療の一端を担うものと自負し、昼夜を問わず胆石症および急性胆道炎と闘っています。

胆石は、肝臓でつくられる胆汁が固まったもので、胆汁が存在する胆管か胆嚢に発生します。3 cm を超えるものから、砂や泥の様に小さなものまで、大きさは様々です。胆石の治療は、結石が存在する場所が、胆管か胆嚢かで異なります。両方に結石が存在する場合は、一般的に胆管の治療を優先します。

胆管結石治療は、内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を利用した内視鏡的治療を第一に行います。患者さんの負担が少ない低侵襲治療であり、90 歳以上の超高齢者も含めて安全に配慮しながら積極的に取り組んでいます。胆管の出口である十二指腸乳頭括約筋に切開（EST）やバルーン拡張（EPBD）を加え、結石を破砕除去（EML,　EPLBD）します。必要に応じて胆管ステント（EBS）を留置します。

胆嚢結石治療は、手術による胆嚢摘出術であり、ほぼ全例に腹腔鏡手術を行っています。手術後の看護も含めて低侵襲治療を実践しています。クリニカルパスを使用することで標準的医療を安定して提供する一方、年齢や全身状態に応じた個別の最適な医療を提供しています。またチーム医療を実践し、より安全な医療環境の提供が出来るように努力しています。

当院の急性胆道炎診療は、内科と外科で協力し、途切れず（seamless）、連続的（sequential）に診断・治療を行っており、精度向上、安全管理、コスト削減、入院期間短縮、合併症低減などに貢献しています。また若手外科医師の内視鏡およびIVR技術トレーニングにも注力しています。今後は超音波内視鏡（EUS）の症例増加に伴い、超音波内視鏡下組織採取（EUS-TA）を行えるように準備しています。

肝癌や胆道癌、膵癌など悪性腫瘍に対しても精細に診断し、綿密な治療計画を立てます。この肝・胆・膵の領域は治療が困難であることが多く、手術は高難度で長時間におよび、合併症が深刻になることも少なくありません。合併症の少ない安全第一の手術を行いながら、高い根治性を目指しています。肝転移など遠隔臓器に転移がある進行症例は、手術適応がないと判断されることも少なくありません。そのときは、化学療法や放射線療法など適切な治療を提案しています。

胆石症センターは、新病院移転に伴い肝胆膵センターに名称変更しました。胆石症にとどまらず、肝胆膵領域の疾患により強く取り組む気持ちで決意しました。今後も地域の急性期医療に大きく貢献できるように努力し、超高齢者にも安全で優しい治療を行います。日進月歩の医学に正面から取り組み、高水準の治療を展開します。

手術

臓器	手術術式	症例数	腹腔鏡数
肝臓	肝切除術（鏡視下）	17	(14)
	肝嚢胞天蓋切除術（鏡視下）	1	(1)
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術（鏡視下）	152	(151)
	胆管切除術	0	
	総胆管切開切石術（鏡視下）	2	(2)
膵臓	膵頭十二指腸切除術	13	
	膵尾側切除術（鏡視下）	3	(3)
	バイパス術	0	

特殊検査・治療

検査・治療	症例数
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	305
・内視鏡的乳頭バルーン拡張術（EPBD）	3
・内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）	131
・内視鏡的逆行性胆管ドレナージ：チューブステント（EBS）	161
：金属ステント（SEMS）	11
・内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）	0
・内視鏡的機械砕石（EML）	21
・内視鏡的乳頭大口径バルーン拡張術（EPLBD）	0
経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）	2
経皮経肝胆管ドレナージ（PTBD）	2
・胆管金属ステント（SEMS）	0

（重複あり）

作成：谷　博樹　確認：松元慶亮

● 心臓・弁膜症センター

心臓・弁膜症センター長　　江石　清行

白十字病院の心臓・弁膜症センターは2021年の新病院開院に合わせて開設され、2025年度で5年目を迎えました。心臓・弁膜症センターは心臓センターであり、その中心に弁膜症センターがあるという意味で、循環器疾患全般を対象としています。弁膜症は加齢とともに増え、高齢化の進む日本では入院が困難な心不全の患者さんが急増し、2018年には健康寿命を延ばし、医療・介護費の負担軽減を図ることを目的として「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、循環器病センター、脳卒中センターを中心とした地域包括ケアシステムの構築が進められています。

センター長の私は長く心臓弁膜症の手術治療に従事し、人工物を用いない「弁形成術」と、身体に優しい「低侵襲手術MICS」をライフワークとしてきました。心臓・弁膜症センターには、その他、不整脈治療や冠動脈のステント治療の名医、ステントグラフトの専門医、心臓専門の診療看護師など多くの専門プロフェッショナルが集まっています。2023年度からは心臓弁イメージングの第一人者も加わりました。外科スタッフ6名と内科スタッフ5名が中心となりました。手術室は大変広く、最先端の透視装置を備えたハイブリッド室や、数センチの心臓弁を140センチモニターに40倍以上に4K3D画像で構築し、あたかも巨大な心臓の中に入り込んで精緻な手術を行っているようなオーブアイシステムなど最先端の装置が準備されています。このシステムで行うMICS心臓弁形成術はロボット手術を上回る低侵襲で、極めて精度の高い手術が可能となっています。



左）Sony-Olympasの4K3Dビデオ顕微鏡ORBEYEシステム　　右）手術風景

白十字病院ではさまざまな管理やリハビリを、専門的に研究・訓練している専門スタッフが大変充実しています。リハビリセンターの専門スタッフのおかげで、以前は痛みを我慢しながら体を緊張させていた患者さんが、術後すぐに緊張をほぐし、全身をリラックスすることができます。そうすると、みるみる患者さんは楽になり、笑顔が見られ、翌日には立ち上がり、食事、トイレ歩行などをスムーズに開始できます。

その他にも、患者さんたちの安全快適な回復のための温かなメンバーがチームワークよく働いています。これらの専門スタッフによる心臓・弁膜症センターのおかげで、心臓病の先端治療が安心して快適に受けられるようになっています。

県内及び県外から多くの患者さんが低侵襲で高質の僧帽弁形成術、大動脈弁形成術あるいは三尖弁形成術などの目的で来院してくださっています。狭心症、心筋梗塞の患者さんも多く受け入れられる

ようになりました。今後も地域の循環器診療に貢献できるよう、「弁膜症スクリーニング外来」も設置し Fax あるいはお電話一本で、いつでも対応できる体制にいたしました。また、センターの活動をインスタグラムでも紹介しておりますのでお目通しいただければ幸いです。

弁膜症スクリーニング外来

紹介状をお持ちの方	白十字病院　コールセンター（平日/8:30～17:00） フリーダイヤル：0120-19-8912
医療機関からのご予約	白十字病院　地域医療連携課（平日/8:30～17:00） TEL：092-834-2507（直通）　　FAX：092-891-2558

作成：江石清行　確認：住　瑞木

４．診療統計

１．年齢階級別退院患者数

2025 年度の年齢階級別退院患者数は 70 代の方が多くを占めました。2025 年度の平均年齢は 73. 1 歳（前年より −0. 2 歳）、後期高齢者（75 歳以上）は全体の 57. 0%（前年より −0. 5%）を占めており、前年度よりやや減少していますが、90 歳以上の方の入院も年々増えているため高齢化が進んでいる傾向が表されます。産科や小児科が標榜されていませんが、若年の症例も一定数入院しております。

２．サマリー

2025 年度のサマリー作成率は 98. 81%で、2024 年度より 0. 14%下回る結果となりましたが、診療録管理体制加算 1 の条件である、退院翌日から起算して 14 日以内の退院サマリー作成率 90%以上は年間を通じて満たしております。今後も定期的なカルテ監査を実施し、医師・診療支援課の方々のご協力を頂きながら、引き続き高い作成率が維持出来るよう取り組んでまいります。

３．疾病分類

2025 年度の入院患者の ICD−10 大分類の集計は、前年度より 147 件増加しました。その中で最も増加した分類は、癌などが含まれる「第Ⅱ章　新生物〈腫瘍〉」で 93 件増加しました。ダヴィンチや ESD などの手術が増えており、胃がん（＋ 29 件）乳がん（＋ 27 件）大腸がん（＋ 23 件）の患者数が増加しています。

疾病分類に用いる ICD−10 コーディングは DPC 制度により詳細な分類が求められます。当課では、留意すべき ICD−10 コード（部位不明・詳細不明コード）を減らすよう、毎月カンファレンスを行い適切なコーディングを行っています。この部位不明・詳細不明コードの使用率が全体の 10%以上となりますと DPC 対象病院の基準に違反することになってしまいますので、今後も慎重かつ正確なコーディングを行ってまいります。

当課で作成する統計データは上記の疾病統計を含んだ DPC データを用いて作成しております。今後もより正確な統計・分析ができるよう取り組みます。

４．カルテ開示

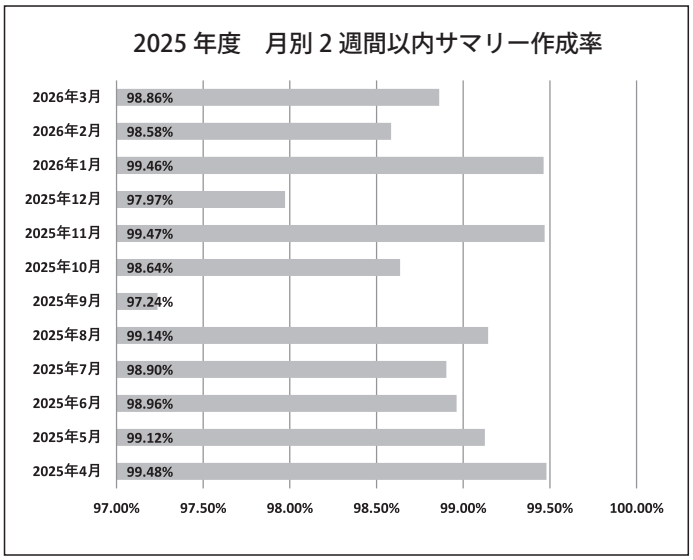
2025 年度は 35 件のカルテ開示を行い、前年度と比較して 17 件減少しました。カルテ開示とは、患者さんご本人やご家族、任意代理人など、権利を有する方に対して診療録等の閲覧や謄写交付を行うことです。診療録は医療機関における大切な個人情報であるため、開示にあたっては厳格な手続きを定めており、申請から実際の開示まで一定のお時間をいただいております。今後も診療録監査部会を中心に、より適切で質の高い診療録の作成に努めてまいります。引き続き、職員一同、患者の皆様に十分ご納得いただける診療情報の提供を心掛けてまいります。

今後も、診療情報管理課は正確な情報管理に努めてまいります。

作成：池田太郎　益吉明日香　白石翔子　谷川みう　確認：新銅ゆうみ

【2025 年度　2 週間以内サマリー作成率】　※退院後 2 週間以内に確定されたもの

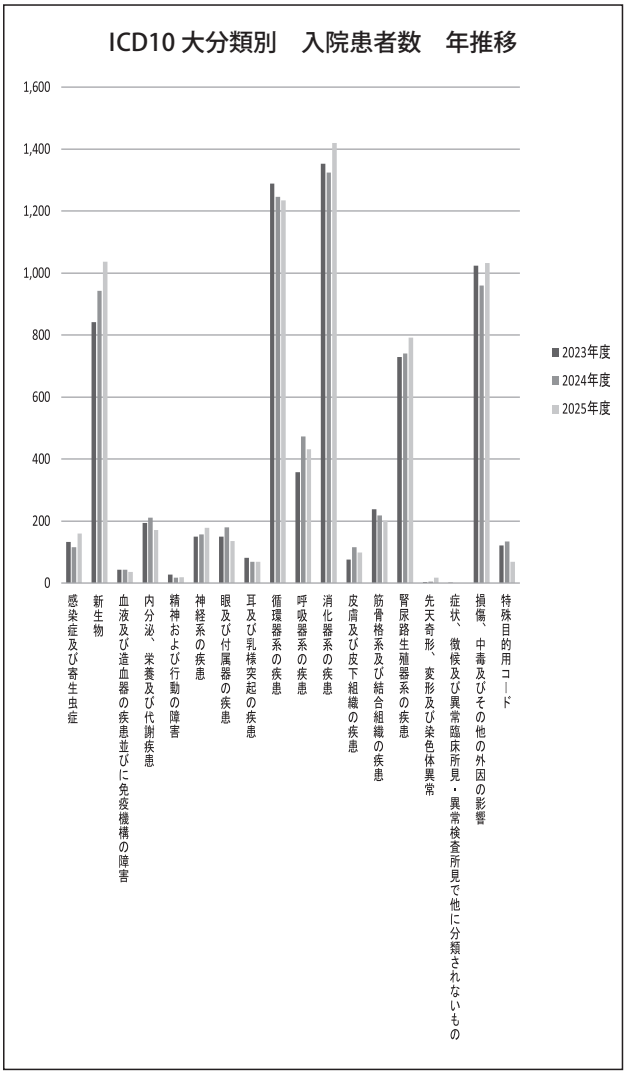
	糖尿病	脳内	消内	肝内	腎臓	心内	呼吸器	総診	外科	乳外	心外	整形	形成	脳外科	泌尿器	眼科	救急	歯科	全体
退院数	239	381	654	417	328	686	265	2	947	146	156	746	244	678	956	112	13	163	7133
作成数	231	375	646	417	328	677	265	2	947	146	156	746	244	678	903	112	13	162	7048
作成率	96.7%	98.4%	98.8%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.5%	100.0%	100.0%	99.4%	98.8%





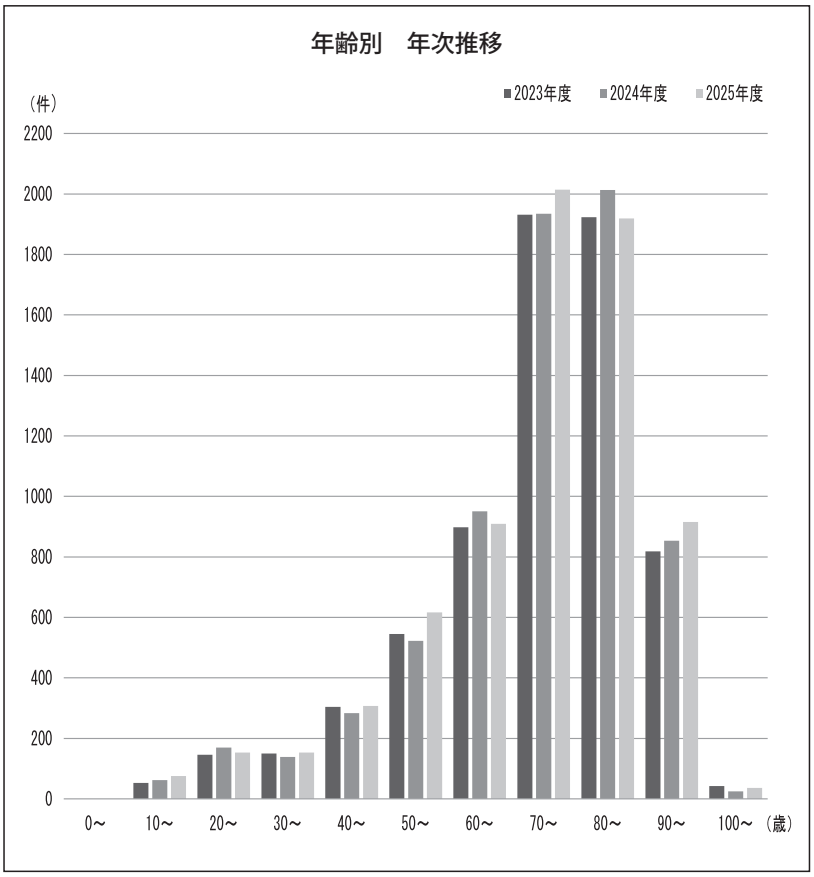
【2025 年度　ICD10 大分類別　入院患者数　年推移】

大　分　類		2023 年度	2024 年度	2025 年度
第Ⅰ章	感染症及び寄生虫症	132	115	159
第Ⅱ章	新生物	842	943	1,036
第Ⅲ章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	43	43	36
第Ⅳ章	内分泌、栄養及び代謝疾患	194	211	171
第Ⅴ章	精神および行動の障害	27	18	19
第Ⅵ章	神経系の疾患	150	157	178
第Ⅶ章	眼及び付属器の疾患	150	180	136
第Ⅷ章	耳及び乳様突起の疾患	81	69	69
第Ⅸ章	循環器系の疾患	1,288	1,246	1,235
第Ⅹ章	呼吸器系の疾患	358	473	431
第Ⅺ章	消化器系の疾患	1,353	1,325	1,419
第Ⅻ章	皮膚及び皮下組織の疾患	76	115	99
第XIII章	筋骨格系及び結合組織の疾患	238	218	201
第XIV章	腎尿路生殖器系の疾患	729	740	792
第XVII章	先天奇形、変形及び染色体異常	3	5	17
第XVIII章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	0	0
第XIX章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,024	960	1,033
第XXII章	特殊目的用コード	121	134	68
総　　計		6,810	6,952	7,099



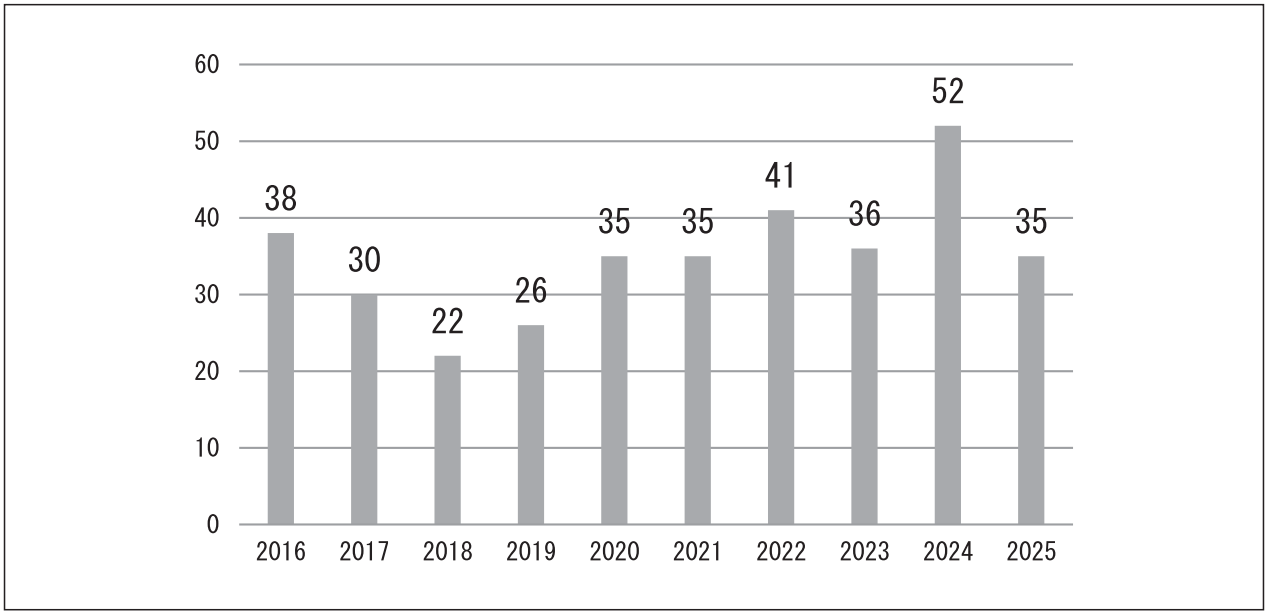
【年齢階級別退院患者数】

年齢	2023 年度	2024 年度	2025 年度
0 ～	0	0	0
10 ～	53	62	75
20 ～	146	170	153
30 ～	150	139	153
40 ～	304	283	307
50 ～	545	522	617
60 ～	898	951	909
70 ～	1931	1934	2014
80 ～	1923	2013	1919
90 ～	818	853	916
100 ～	42	25	36
合計	6810	6952	7099



【診療情報提供（カルテ開示）件数】

年度別開示件数（過去 10 年）



5．各診療科実績

●糖尿病内科

岩瀬　正典

Ⅰ：構成員

医師　6人

Ⅱ：臨床活動

糖尿病センターの項をご参照ください。

Ⅲ：業績

九州大学と共同で福岡県糖尿病患者データベース研究（Fukuoka Diabetes Registry）を継続するとともに、いくつかの症例報告を行った。

【論文発表】（当院所属以外の著者省略）

1）Milk and yogurt consumption and its association with cardiometabolic risk factors in patients with type 2 diabetes: The Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2025 Jan;35(1):103772.

2）Alcohol consumption, alcohol-metabolizing enzyme genotypes, and glycemic control in type 2 diabetes: Sex-specific findings from the Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. J Diabetes Investig. 2025 Oct;16(10):1941-1949

3）Sex differences in the risk of vascular and non-vascular complications in type 2 diabetes: the Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. Diabetes Res Clin Pract. 2025 Aug;226:112335.

【学会発表】（当院所属以外の著者省略）

1）2型糖尿病患者のマグネシウム摂取量や血清濃度が高いほど血糖コントロールは良好である：Fukuoka Diabetes Registry（FDR）．岩瀬正典、井手　均ら　第68回日本糖尿病学会年次学術集会，岡山，2025. 5.

2）膵癌を合併した定期通院中の糖尿病患者の4 例．岩瀬正典 第63回日本糖尿病学会九州地方会，北九州，2025. 11.

3）インスリンアナログによる低血糖昏睡を繰り返した詐病性低血糖の1例．西崎愛佳、長倉祐紀、横溝舞子、髙木可南子、井手　均、岩瀬正典ら　第63回日本糖尿病学会九州地方会，北九州，2025. 11.

4）ニボルマブ治療中に好酸球増加を認めその後劇症1 型糖尿病を発症した1例． 長倉祐紀、横溝舞子、西崎愛佳、井手　均、岩瀬正典ら　第63回日本糖尿病学会九州地方会，北九州，2025. 11.

Ⅳ：現状と展望

糖尿病センターの項をご参照ください。

作成者：岩瀬正典　確認者：井手　均

● 脳・血管内科

熊井　康敬

Ⅰ：構成員

医師 5 名

Ⅱ：臨床活動

検査：MRI 検査 655 件（脳血管内科　外来のみ）

頸動脈エコー 1040 件（当院）

手術：血栓回収術 28 件（脳血管内治療科）

頸動脈ステント留置術（CAS：carotid artery stenting）5 件（脳血管内治療科）

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）九州大学病態機能内科学　大星研究室の思い出～ Gene transfer ～

熊井康敬

脳修復研究会～臨床の現場から～，東京，2025. 4. 6

2）要介護度別にみたポストコロナ時代における介護供給トレンドの変化

入江克実

第 67 回日本老年医学会学術集会，千葉，2025. 6. 27

3）地域中核病院における急性期脳梗塞治療の取り組み

東　英司

脳卒中地域連携講演会，福岡，2025. 7. 11

4）ポストコロナ時代における介護供給・救急搬送のトレンド変化と超過死亡との関連

入江克実

第 63 回日本医療・病院管理学会学術総会，東京，2025. 10. 4

5）医療秘書の勤務体制整備と職場環境改善による医師の負担軽減への効果

田中美智、工藤麻里、小林啓子、黒木恭子、加茂美穂、長原裕子、加治木和恵、松本　潤、熊井康敬、渕野泰秀

第 14 回全国学術集会，高知，2025. 10. 19

【座長】

1）抗血小板療法の BEST レジメンを考える

熊井康敬

Acute Stroke Specialist Meeting，福岡，2025. 10. 30

2）画像診断－超音波

入江克実、小野秀明

第 51 回日本脳卒中学会学術集会，大阪，2026. 3. 12

Ⅳ：現状と展望

【入院患者内訳】

脳血管内科診療実績（入院）					
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
急性期虚血性血管障害					
アテローム血栓性脳梗塞	34	35	43	50	48
ラクナ梗塞	29	30	31	40	43
心原性脳塞栓症	53	57	62	63	65
その他の脳梗塞	138	96	118	121	109
一過性脳虚血発作（TIA）	7	9	11	13	16
虚血性脳血管障害精査	32	18	23	21	20
小　　計	293	245	288	308	301
脳梗塞以外の疾患	194	223	193	183	95
総入院数	487	468	481	491	396
＊超急性期 rt-PA 血栓溶解療法	18	10	12	10	25
血栓回収術	26	21	24	22	28

脳・血管内科では、福岡市西区周辺から糸島市にかけて虚血性脳卒中患者を主体に対応しています。2022 年 10 月に一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）コア施設に認定され、多職種協働で脳卒中相談窓口を設置しています。当科は脳神経外科と脳血管内治療科と協力して脳卒中診療を展開し、超急性期脳梗塞に対して血栓溶解療法や血栓回収術を行っています。さらに、リハビリテーションを急性期から積極的に行い、日常生活に復帰できるように注力しています。なお 2025 年のみ人員 1 人減で対応いたしました。これからも、当科は地域の脳卒中診療に貢献できるように努めて参ります。

作成：熊井康敬　確認：徳永敬介

● 腎臓内科

木村　廣志

Ⅰ：構成員

医師 6 名

Ⅱ：臨床活動

入院　422 名（腎臓内科　299 名、内科総合　123 名）

慢性糸球体腎炎	12 名	低カルシウム血症	1 名
ネフローゼ症候群	9 名	低アルブミン血症	0 名
急性腎不全	14 名	多発性嚢胞腎	7 名
慢性腎不全	48 名	腎生検	16 名
血液透析導入	31 名	腎臓病教室目的の入院	26 名
腹膜透析導入	1 名	内シャント造設術	39 名
血液透析患者の合併症	32 名	長期型カテーテル留置術	13 名
腹膜透析患者の合併症	5 名	腹膜カテーテル留置術	1 名
高カリウム血症	10 名	SMAP	0 名
低カリウム血症	7 名	PET 検査	5 名
低ナトリウム血症	7 名	シャント PTA（入院）	25 名
高カルシウム血症	3 名	シャント PTA（外来）	25 名

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）チアプリドによる薬剤性 QT 延長症候群から Torsades de pointes を発症した血液透析患者の一例：東　和樹、木村廣志、奥　美裕、岩田寛子、酒匂哲平、平野直史（第 55 回日本腎臓学会西部学術大会、奈良、2025. 10. 11）

2）血液透析導入 3 年後に診断に至った偽性 Bartter 症候群の一例：岩田寛子、木村廣志、奥　美裕、東　和樹、酒匂哲平、平野直史（第 16 回福岡県透析医学会学術集会・総会、福岡、2025. 10. 26）

3）低 Na 血症を契機に診断されたシェーグレン症候群の一例：奥　美裕、酒匂哲平、岩田寛子、東　和樹、木村廣志、平野直史（第 352 回九州地方会、福岡、2026. 1. 24）

Ⅳ：現状と展望

腎臓内科では、腎臓内科常勤医 6 名（腎臓専門医 3 名）で、平日午前中に毎日外来診療を提供しています。国民の 5 人に 1 人は慢性腎臓病（CKD）と診断され、CKD ステージは 5 段階に分類されます。CKD 外来では、腎臓の機能が低下しているが、まだ進行を遅らせる可能性がある段階で患者さんを管理し、適切な治療やケアを提供することを目的としています。

2024 年度、新たに開設した慢性腎臓病透析予防指導プログラム（非糖尿病患者を対象）では、外来診療の際、医師に加え、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士が協力して患者さんの指導を行います。CKD の治療は、食事・飲水、体重・血圧管理、運動、睡眠など日々の過ごし方が重要です。生活習慣を見直し改善することで、腎機能を守り、生活の質を改善できるよう多職種で支援しています。

腎臓病教室は全 3 日間の入院受講形式で、年 4 回開催しています。専門のスタッフが CKD の治療や運動療法、食事療法について説明します。透析患者さんの体験談の時間も設けており、充実した内容となっています。

さらに CKD ステージが進行した場合は、腎療法選択外来（毎週火・木曜日）で、説明支援ナース（法人内認定）を中心に、患者さんのライフスタイルに合わせた治療方法選択の支援を行っています。

このように、外来および入院で一貫した保存期支援が確立されています。今後高齢化が進み、CKD 患者の増加が見込まれます。透析進展予防に尽力し、地域医療の更なる貢献を目指します。

作成：木村廣志　確認：平野直史

● 肝臓・胆のう・膵臓内科

福永　篤志

Ⅰ：構成員

医師 2 名

Ⅱ：臨床活動

外来：3001 名

入院：426 名

【入院患者内訳】

急性肝炎、肝障害	19 例
慢性肝炎	5 例
肝硬変症（腹水、肝不全、脳症）	75 例
食道静脈瘤	31 例
食道静脈瘤＋肝癌	2 例
肝癌	20 例
胆膵疾患①膵癌	12 例
胆膵疾患②胆管癌	4 例
胆膵疾患③胆嚢癌	2 例
胆膵疾患④総胆管結石	113 例
胆膵疾患⑤膵炎	26 例
胆膵疾患⑥胆管炎	10 例
胆膵疾患⑦胆嚢炎	4 例
肝胆膵疾患その他	4 例
その他	99 例
入院総患者数	426 例

【肝臓領域処置】

内視鏡的静脈瘤治療（EVL・EIS）	35 例
ラジオ波焼灼術（RFA）	9 例
肝動脈化学塞栓術（TACE）	4 例
肝生検	9 例
腹水濾過濃縮再静注法（CART）	30 例

【胆膵領域処置】

超音波内視鏡検査（EUS）	34 例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）	300 例

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

近隣の諸先生方におかれましては、大切な患者様をご紹介いただき誠に感謝申し上げます。

2025 年度は医員は代わりましたが前年度に引き続き 2 名体制での診療となりました。2024 年度から肝臓内科から肝臓･胆のう･膵臓内科となり、当院外科の診療分野の一部を当科でも担わせてもらっておりました。

まず肝疾患としては、やはり C 型肝炎に対する抗ウイルス療法が奏功し、同疾患を基礎疾患とした慢性肝炎・肝硬変・肝がんの疾患数は明らかに減ってきている状況です。その中で比率として増えているのが、以前は非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と呼ばれていた代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）の患者様になります。すべての MASLD 患者様を診ることは難しいため、当科では線維化進行が疑われる方を中心に診療させていただいております。また、以前から当院周辺地域はアルコール性肝障害をベースとした方も多くいらっしゃいます。これらの疾患をお持ちの方に対し上記表のように診療を行ってまいりました。

この 2 年間での大きな変化は診療科の名前の変化が示すように胆膵領域の診療になります。以前は当院外科で診療しておりました胆膵の内視鏡的処置の一部を当科でも併診させて頂くようになりました。2025 年度は内視鏡処置の件数が前年度を超えましたが、その約半数を当科で受け持ち致しました。内容につきましては上記をご参照ください。

今後の展望として、肝臓領域では断酒できないかたの減酒に積極的に取り込んでいきたいと考えています。また、胆膵領域では 2026 年度には EUS-FNA を当院でも行い診療の幅を広げていく予定でおります。

近隣の諸先生方に引き続きご指導いただくとともに、地域医療の充実に貢献できるよう尽力してまいります。白十字病院肝臓・胆のう・膵臓内科を引き続きよろしくお願い申し上げます。

作成：福永篤志　確認：高田和英

● 消化管内科

井浦　登志実

Ⅰ：構成員

医師 4 名

Ⅱ：臨床活動

★　近隣医療機関よりの紹介件数

892 件（2025 年度）

852 件（2024 年度）

774 件（2023 年度）

★　入院患者数

677 名（2025 年度）

★　当科（当センター）で検査、治療にあたっている疾患

上下部消化管悪性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管良性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管出血（胃十二指腸潰瘍、憩室出血、虚血性腸炎など）

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）

感染性腸炎（細菌性、ウィルス性）

ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法（保険適応疾患に限る）

逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、過敏性腸症候群、便秘など

消化管異物、胃ろう造設・交換

★　検査と治療実績（2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日・カルテベース）

検査：上部消化管内視鏡検査　2207 例

　　下部消化管内視鏡検査　1307 例

治療：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）43 例

　　内視鏡的大腸ポリープ切除術（EMR ＋ポリペクトミー）587 例

　　内視鏡的止血術　　143 例

　　内視鏡的異物除去術　13 例

　　胃ろう造設、交換　　54 例

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）非機能性（無症候性の）インスリノーマと考えられた十二指腸神経内分泌腫瘍の一例：工藤哲司、中尾　凛、岡村活揮、井浦登志実、大谷　博（第 119 回　日本消化器内視鏡学会　九州支部例会、佐賀、2025. 5. 16）

2）乳房浸潤性小葉癌の胃、大腸転移を内視鏡的に確認し確認を追えた一例：岡村活揮、中尾　凛、工藤哲司、井浦登志実、大谷　博、梅野淳嗣（第 120 回　日本消化器内視鏡学会　九州支部例会、大分、2025. 11. 28）

Ⅳ：現状と展望

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医 2 名、専門医 1 名、学会員 1 名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。

2025 年度の診療実績としては、紹介件数は 892 件、上部消化管内視鏡検査は 2, 207 例、下部消化管内視鏡検査は 1, 307 例、内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は 43 例、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミーは合計 587 例、内視鏡的止血術は 143 例、異物除去術は 13 例、胃瘻造設と交換は 54 例でした。新型コロナウィルス感染症は収束しつつありますが、当科では引きつづき日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

作成：工藤哲司　確認：井浦登志実

● 心臓血管内科

三戸　隆裕

Ⅰ：構成員

医師 5 名

Ⅱ：臨床活動

		2023 年度	2024 年度	2025 年度
カテーテル検査・治療	PCI	135 件	131 件	139 件
	内 Diamondback、ロータブレーター、IVL	9 件	16 件	31 件
	PTA	0 件	0 件	0 件
	CAG	288 件	262 件	250 件
	心筋生検	1 件	0 件	0 件
	心のうドレナージ	2 件	1 件	0 件
不整脈検査治療	カテーテルアブレーション	10 件	30 件	36 件
	ペースメーカー植込	25 件	37 件	26 件
	内リードレスペースメーカー	1 件	6 件	10 件
	ペースメーカー交換	8 件	6 件	9 件
	心臓電気生理学的検査	1 件	0 件	0 件

		2023 年度	2024 年度	2025 年度
入院患者数		636 名	649 名	686 名
虚血性心疾患	虚血性心疾患（急性冠症候群を除く）	141 名	118 名	124 名
	急性冠症候群	44 名	58 名	47 名
うっ血性心不全		107 名	115 名	127 名
弁膜症		9 名	7 名	3 名
心膜心筋炎および心筋症		3 名	9 名	3 名
動脈疾患	閉塞性動脈硬化症	2 名	0 名	0 名
	大動脈解離	8 名	6 名	5 名
	大動脈瘤	0 名	0 名	2 名
静脈疾患	静脈血栓塞栓症	7 名	5 名	8 名
不整脈	房室ブロック・洞不全症候群	31 名	32 名	34 名
	心房細動・心房粗動・発作性上室頻拍	22 名	49 名	45 名
	心室頻拍・心室性期外収縮	2 名	1 名	4 名
睡眠時無呼吸症候群		11 名	21 名	24 名

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）Impact of the atrial functional mitral regurgitation and atrial cardiomyopathy in HFpEF : Takahiro Mito, Erina Fujinuma, Masashi Mikagi, Yuki Inada, Masaya Yano, Kiyoyuki Eishi, Miura Ogawa, Shin-Ichiro Miura（第 71 回日本不整脈心電学会学術大会、神奈川、2025. 11）

2）僧帽弁閉鎖不全症と虚血性心疾患を合併した患者における新たな治療選択肢：御鍵昌史、藤沼絵里奈、稲田悠希、矢野雅也、三戸隆裕、三浦伸一郎、徳永峻吾、江石惇一郎、住　瑞木、尾長谷喜久子、尼子真生、和田秀一、江石清行（第 139 回日本循環器学会九州地方会、福岡、2025. 12）

Ⅳ：現状と展望

2025 年度は不整脈に対するカテーテルアブレーションの手術件数も順調に増加し、日本不整脈心電学会が認定する不整脈専門医研修施設にも認定されました（2026 年 4 月 1 日付）。

虚血性心疾患に対する PCI の手術件数に関しても順調に増加しました。今後も、福岡市西部地区と糸島地区の心血管疾患や心臓救急に尽力していきます。

作成：三戸隆裕　確認：安心院勇佑

● 呼吸器内科

松本　武格

Ⅰ：構成員

医師 3 名

Ⅱ：臨床活動

入院：266 名（死亡退院 21 名）

【入院疾患内訳】

感染性肺炎・気管支炎	102	(10)
誤嚥性肺炎	18	(2)
慢性閉塞性肺疾患	8	
喘息	8	
気管支拡張症	0	
間質性肺炎	16	(3)
肺悪性腫瘍	14	(1)
肺悪性腫瘍疑い	2	
胸膜炎・膿胸・胸水	6	(2)
気胸	4	
肺膿瘍	1	
結核	1	
肺非結核性抗酸菌症	2	
声帯浮腫	0	
喀血	0	
呼吸リハビリ	2	
縦隔気腫（特発性）	3	
一般内科	79	(3)

【呼吸器内科処置】

胸水穿刺	16
胸腔ドレナージ	6
IPPV	1
NIPPV	8

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

当院の呼吸器内科では気管支喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎といった特有の疾患と呼吸器感染症など呼吸器疾患全般にわたって診療をおこなっています。

胸部異常陰影の診療にあたっては放射線科医と連携を取りながら、患者さんにとってより最適な診療をおこなうことを目指しています。

悪性疾患（特に肺がん）については、近隣の病院と連携して検査、治療をおこないます。

作成：矢次　博　確認：松本武格

● 総合診療科

最勝寺　佑介

Ⅰ：構成員

医師１名

Ⅱ：臨床活動

入院患者数		２名
入院コンサルト数		33 名
外来患者数	新患	284 名（救急搬送 63 名）
	再診	85 名

入院患者疾患内訳

メニエール病疑い	1
機能性腹痛疑い	1
計	2

入院コンサルト内訳（主訴）

発熱	14
炎症反応高値	4
電解質異常	3
炎症反応上昇	3
背部痛	2
酸素化低下	1
食思不振	1
多関節痛	1
脱力	1
しびれ	1
疼痛	1
血球減少	1
総計	33

入院コンサルト内訳（最終診断：ICD 分類）

第 1 章	感染症及び寄生虫症	6
第 2 章	新生物、腫瘍	0
第 3 章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1
第 4 章	内分泌、栄養及び代謝疾患	3
第 5 章	精神及び行動の障害	0
第 6 章	神経系の疾患	1
第 7 章	眼及び付属器の疾患	0
第 8 章	耳及び乳様突起の疾患	0
第 9 章	循環器系の疾患	0
第 10 章	呼吸器系の疾患	5
第 11 章	消化器系の疾患	0
第 12 章	皮膚及び皮下組織の疾患	1
第 13 章	筋骨格系及び結合組織の疾患	8
第 14 章	腎尿路生殖器系の疾患	2
第 15 章	妊娠、分娩及び産褥	0
第 16 章	周産期に発生した病態	0
第 17 章	先天奇形、変形及び染色体異常	0
第 18 章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見でほかに分類されないもの	2
第 19 章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	4
第 20 章	傷病及び死亡の外因	0
第 21 章	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
第 22 章	特殊目的用コード	0
総計		33

外来患者内訳（主訴）

発熱	90
意識障害	17
貧血	17
浮腫	15
食思不振	14
胸痛	9
倦怠感	8
酸素化低下	8
その他	7
しびれ	7
腹痛	7
その他血液検査異常	7
皮疹	6
炎症反応上昇	6
嘔吐	5
頭頸部痛	4
腰痛	4
血圧低下	4
四肢痛	4
筋力低下	4
炎症反応高値	3
めまい	3
関節痛	3
嘔気	3
体重減少	3
リンパ節腫脹	3
チアノーゼ	3
呼吸困難	3
感覚異常	3
背部痛	3
嚥下障害	3
胸水貯留	2
心窩部痛	2
下痢	2
血圧高値	2
総計	284

外来患者内訳（最終診断：ICD 分類）

第 1 章	感染症及び寄生虫症	42
第 2 章	新生物、腫瘍	19
第 3 章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5
第 4 章	内分泌、栄養及び代謝疾患	14
第 5 章	精神及び行動の障害	15
第 6 章	神経系の疾患	14
第 7 章	眼及び付属器の疾患	0
第 8 章	耳及び乳様突起の疾患	1
第 9 章	循環器系の疾患	24
第 10 章	呼吸器系の疾患	40
第 11 章	消化器系の疾患	24
第 12 章	皮膚及び皮下組織の疾患	13
第 13 章	筋骨格系及び結合組織の疾患	24
第 14 章	腎尿路生殖器系の疾患	22
第 15 章	妊娠、分娩及び産褥	0
第 16 章	周産期に発生した病態	0
第 17 章	先天奇形、変形及び染色体異常	1
第 18 章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見でほかに分類されないもの	9
第 19 章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	15
第 20 章	傷病及び死亡の外因	0
第 21 章	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
第 22 章	特殊目的用コード	0
	なし	2
総計		284

Ⅲ：業績

【論文発表】

1）Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y. Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis: a prospective cohort study. Emerg Med J. 2025 Jul 22;42(8):519-525.

2）Saishoji Y. Platysma Hypertonia in Facial Aberrant Reinnervation Syndrome. Intern Med. 2025 Oct 16.

3）Saishoji Y, Suzuki T, Nonaka S, Suya S, Kitagawa T. Screening for asymptomatic carotid artery stenosis: A draft uptodate of the systematic review adapted from the USPSTF review for the Japan Preventive Services Task Force. MedRxiv. Preprint posted online July 10, 2025.

4）Saishoji Y, Kim S, Banno M, Kohmura K, Kataoka Y, Tsujimoto Y. HMG-CoA reductase inhibitors (statins) versus placebo for people with schizopherenia. Cochrane Database Syst Rev. 2025 Sep 19;9(9):CD014565.

【学会発表】

1）シンポジウム「不明熱診療の質向上を目指して～不明熱という不確実性に向き合う～」
最勝寺佑介
第 32 回日本病院総合診療医学会学術総会　長崎　2026 年 2 月 21 日

Ⅳ：現状と展望

2024 年度より新設された総合診療科は 2 年目となりました。初年度に引き続き、一人体制で週 3 日のみの診療日となっていることもあり、外来診療を中心に運営され、入院患者についてはコンサルト対応を行っています。

＜現状の強みと課題＞

現在は外来診療が主となっており、外来受診や救急受診での最初の受け皿として機能しています。しかし、入院患者の対応がコンサルト対応に限られているため、入院加療を必要とする急性期医療や慢性新患のマネジメントに関してさらに活躍の場があると考えます。スタッフの増員ならびに診療体制の強化が求められます。

＜今後の展望＞

2024 年度の新設以降所属していた医師が異動となる関係で、来年度からは福岡大学病院総合診療科の非常勤医師で週 2 日の診療体制となります。診療日は少なくなりますが、大学病院との連携を維持することで今後診療体制の強化につながればと思います。

作成：最勝寺佑介　確認：木村廣志

● 外科

肝胆膵外科部長　谷　　博樹

Ⅰ：構成員

7 名

Ⅱ：臨床活動

外来：4, 744 名

入院：1, 022 名

2025 年度外科手術症例数

【手術症例数】

臓器	手術術式	症例数	腹腔鏡数	ロボット数
食道・胸部	食道悪性腫瘍手術	0		
	胸腔鏡下肺切除術	0		
	食道裂孔・横隔膜ヘルニア手術	0		
胃・十二指腸	局所切除術	1	(1)	
	幽門側胃部分切除術	11	(11)	
	噴門側胃部分切除術	1	(1)	
	胃全摘術	1	(1)	
	胃空腸バイパス術	2	(2)	
	穿孔性潰瘍の閉鎖	4	(4)	
小腸・大腸	結腸部分切除術	38	(18)	(18)
	半結腸切除術	12	(7)	(5)
	前方切除術	23	(3)	(20)
	Miles 手術	0		
	イレウス解除術	12	(12)	
	経肛門的直腸腫瘍切除術	0		
	小腸切除術	16	(5)	
	虫垂切除術	43	(43)	
	人工肛門造設術	15	(15)	
	人工肛門閉鎖術	6	(1)	
	ハルトマン手術	4		
	バイパス術	1		
肝臓	肝切除術	17	(14)	
	肝嚢胞天蓋切除術	1	(1)	
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術	152	(151)	
	胆管切除術	0		
	総胆管切開切石術	2		
膵臓	膵頭十二指腸切除術	13		
	膵尾側切除術（鏡視下）	13	(3)	
	バイパス術	0		
その他	鼠径・大腿ヘルニア根治術（鏡視下）	131	(117)	
	腹壁瘢痕・臍ヘルニア根治術（鏡視下）	20	(8)	
	閉鎖孔ヘルニア根治術（鏡視下）	3	(3)	
	腹膜炎手術（鏡視下）	5	(4)	
	痔核根治術［PPH］	0		
	直腸脱手術	1		
	その他（鏡視下）	61	(25)	
	合計	599	(452)	(43)

【特殊検査・治療】

検査・治療	症例数
経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）	6（外科施行症例のみ）
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	305（詳細は胆石症センターの項参照）
経皮経肝胆嚢・胆管ドレナージ（PTGBD、PTBD）	4（詳細は胆石症センターの項参照）

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）休日・深夜・時間外加算Ⅰ取得を契機に当科ですすめた働き方改革について：浅生義人、増原紗希、中村勇太朗、梶谷竜路、武富啓能、谷　博樹（第 87 回日本臨床外科学会学術集会、東京、2025. 11. 20 ～ 11. 22）

2）サイトメガロウイルス（CMV）腸炎に伴う回腸末端狭窄、イレウスの 1 例：武富啓能、増原紗希、中村勇太朗、梶谷竜路、浅生義人、谷　博樹、大谷　博（第 87 回日本臨床外科学会学術集会、東京、2025. 11. 20 ～ 11. 22）

3）結腸癌で稀な肉腫様癌の一例:中村勇太朗、増原紗希、梶谷竜路、武富啓能、浅生義人、谷　博樹（第 87 回日本臨床外科学会学術集会、東京、2025. 11. 20 ～ 11. 22）

4）ポリスチレンスルホン酸カルシウム長期投与により発症した急性虚血性小腸炎の一例:増原紗希、中村勇太朗、梶谷竜路、武富啓能、浅生義人、谷　博樹（第 87 回日本臨床外科学会学術集会、東京、2025. 11. 20 ～ 11. 22）

5）ダブル SMV 症例に対してロボット支援下回盲部切除術を行った症例：梶谷竜路、増原紗希、中村勇太朗、武富啓能、浅生義人、谷　博樹（第 38 回日本内視鏡外科学会総会、神奈川、2025. 12. 11）

6）上腸間膜静脈の血管走行異常のある腹腔鏡下回盲部切除術の 1 例：中村勇太朗、増原紗希、梶谷竜路、武富啓能、浅生義人、谷　博樹（第 38 回日本内視鏡外科学会総会、神奈川、2025. 12. 11）

7）腹腔鏡下幽門側胃切除術膵上縁郭清：中村勇太朗、増原紗希、梶谷竜路、武富啓能、浅生義人、谷　博樹（第 29 回七隈癌治療フォーラム、福岡、2026. 1. 16）

8）胃全摘術後摂食障害に対し約 6 か月間の経腸栄養後、経口摂取が可能となった高齢者胃癌の 1 例:浅生義人、増原紗希、中村勇太朗、梶谷竜路、武富啓能、谷　博樹（第 98 回日本胃癌学会総会、沖縄、2026. 3. 4 ～ 3. 6）

Ⅳ：現状と展望

2025 年度は渕野泰秀（病院長：1985 年卒）、谷　博樹（肝胆膵外科部長、肝胆膵センター長：1993 年卒）、浅生義人（消化管外科部長：福大消化器外科：1993 年卒）、武富啓能（副部長：福大消化器外科：2006 年卒）、梶谷竜路（医長：福大消化器外科：2013 年卒）、中村勇太朗（福大消化器外科:2021 年卒）、増原紗希（福大消化器外科:2022 年卒）による合計 7 名の陣容で診療を行いました。

手術症例は一般・消化器外科 599 例（腹腔鏡下手術 452 例・ロボット手術　43 例）で、乳腺外科 86 例を加えると合計 685 例でした。腹腔鏡下手術は、近年とくに大腸手術とヘルニア手術に力を入れて、症例数は年々増加しています。2024 年 5 月より大腸がん（結腸がん、直腸がん）に対するロボット支援手術を開始し、2024 年度は 39 例、2025 年度は 43 例の手術を行いました。腹腔鏡下およびロボット支援下大腸手術は、福岡大学病院消化器外科長谷川傑教授を当院に招き、手術室における実際の指導や、動画を用いた講義を受けており、手術技術の飛躍的な向上が得られています。腹腔鏡下ヘルニア手術は、若手外科医の登竜門であり、手術時間が長いことが課題でしたが、日々研鑽し技術が向上し時間を短縮しています。2025 年 2 月には全国的にも手術症例数の多い、聖隷浜松病院（静岡県）

に手術見学の機会を得て、ポートサイズを 5 mm、3 本に変更することで安定して手術翌日退院が可能となりました。腹腔鏡下胆嚢摘出術は、当院では高度炎症を伴う困難症例が多い特徴がありますが、開腹移行や合併症は少なく、安全で確実に手術しています。ERCP 技術を利用した胆膵内視鏡治療は、当科において手術と両輪であり、305 例行いました。急性胆道炎や胆石性膵炎に対する緊急治療が多く、地域の救急医療に大きく貢献し、超高齢者にも安全で優しい治療を行っています。肝胆膵の悪性腫瘍に対しても、内視鏡技術を用い精細に診断し、高難度の肝切除術や膵頭十二指腸切除術を 33 例（腹腔鏡下手術 17 例）行いました。緊急手術は 2024 年度 106 例から 2025 年度 121 例と増加しました。これは一般・消化器外科手術の約 20%を占めており、地域の救急医療に貢献しています。

外科合同カンファレンスを毎週月曜日、水曜日、金曜日に行っており、外科、乳腺外科、消化管内科、肝胆膵内科、放射線科、麻酔科、手術室看護師、外科病棟看護師が参加しています。この合同カンファレンスにより院内の診療科間で良好な連携を確保しチーム医療を実践しています。毎週金曜日には、術後手術カンファレンスを行い、手術の振り返りをして、手術技術の向上とチームワークの強化を図っています。金曜日は化学療法カンファレンスも行い、血液腫瘍内科、薬剤師、がん看護専門看護師、外来化学療法室看護師、病棟看護師と伴に症例検討を行い、病状の進行や副作用など問題を把握し、適切な治療方針を緩和医療に至るまで幅広く話し合い、より良い医療を提供出来るように努力しています。2018 年度よりがん看護専門看護師が就業しており、医師・多職種と連携して患者・家族のケア・サポートを充実させています。また診療と多職種連携を円滑に行うために、外科医師の一日のスケジュール、診療予定を毎朝 9 時のミーティングで確認し共有しています。

外科病棟には、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、メディカルソーシャルワーカー 1 名が専属配置されており、多職種協働による円滑な質の高いチーム医療を行っています。

英語論文の抄読会を、病理医、研修医を含めて毎週水曜日に行い、外科と乳腺外科の最新の医療情報を全員で共有するように努めています。薬剤や医療機器の勉強会も不定期開催し、また参加した学術集会で得た最新情報を報告し、全員にフィードバックしています。

外科・乳腺外科の医療秘書は、工藤麻里、加茂美穂、木村幸子、古寺和恵、秦すみれ、城後沙也加の 6 人体制で務めています。医療秘書業務は、医師の診療外業務を高い質で分担することにより、負担を軽減し、診療業務に専念する環境を作ることに大きく寄与し、医療の質の向上に繋がっています。

これからも白十字病院外科は“地域の中で頼りにされる外科”であるために、今後も「紹介を断らない。しっかり治す。きちっと報告する。」の 3 原則を遂行して行きます。また“充実した修練ができる外科”であることも任務と考え、チーム全員で努力を続けます。

作成：谷　博樹　確認：浅生義人

● 乳腺外科

乳腺外科部長　**松尾　文恵**

Ⅰ：構成員

医師 1 名

Ⅱ：臨床活動

外来：2395 名

入院：148 名

検査

マンモグラフィー	外来	: 929
	福岡市検診	: 126
	自費検診	: 10
	職員検診	: 69
エコー	外来	: 1239
	自費検診	: 94
細胞診		: 51
針生検		: 72
ステレオガイド下生検		: 13

手術

臓器	手術術式	手術件数
乳腺	乳房温存術	16
	乳房切除術	47
	腫瘤摘出術	4
	ラジオ波焼灼術	6
	その他（再発など）	12
	同時乳房再建術（形成外科）	1
合計		85

化学療法

症例数　：49

施行回数：494

Ⅲ：業績

【学会発表】

術前 EC 療法初回投与当日に重篤な低ナトリウム血症を発症した 1 例：松尾　文恵（第 33 回日本乳癌学会学術総会、東京、2025. 7）

Ⅳ：現状と展望

当科では乳がんを中心に乳腺症、乳腺炎、乳腺腫瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応、診察しています。特に乳がんの治療については検診、診断から手術、薬物療法、およびその治療後のフォローアップを一貫して行っています。再発症例に対しても、患者さんやご家族も含めた身体的・精神的な支持療法を積極的に行い、安心して癌の治療を受けられるように努めています。また、乳腺専門医のみではなく、腫瘍内科医、形成外科医、病理医、リハビリテーションなどの関係各科との密接な連携のもと、集学的治療を行っています。

作成：松尾文恵　確認：松尾文恵

● 心臓血管外科

住　瑞木

Ⅰ：構成員

常勤医師　5 名

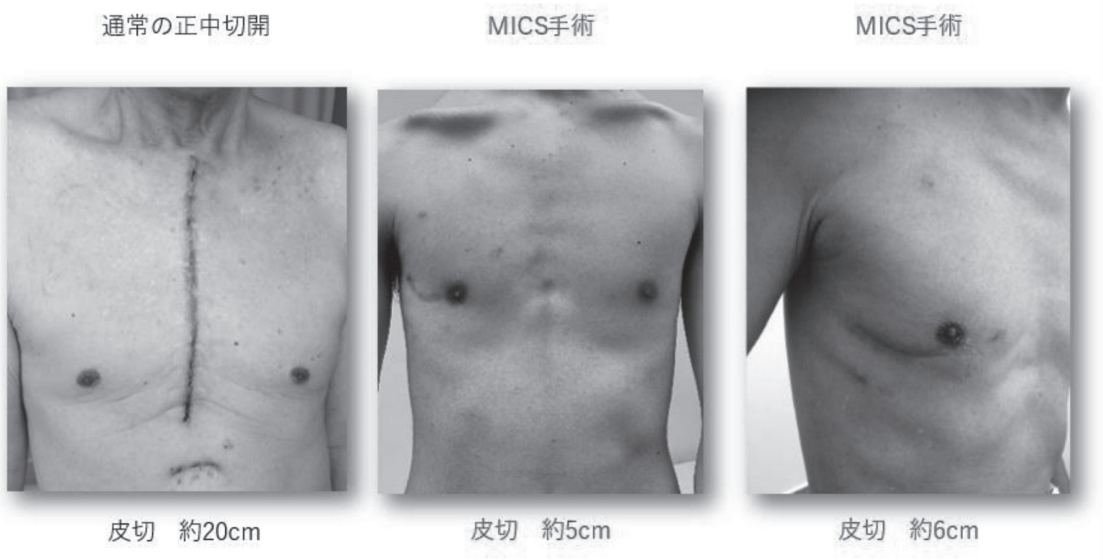
非常勤医師　3 名

診療看護師　1 名

Ⅱ：臨床活動

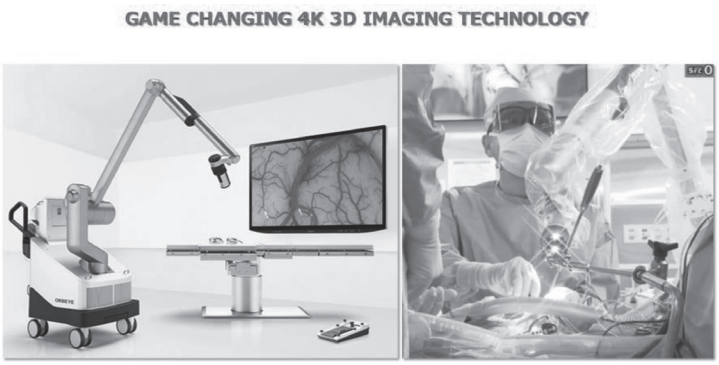
低侵襲心臓手術（MICS 手術）

・当科では 低侵襲心臓手術（以下 MICS：Minimally Invasive Cardiac Surgery）に力を入れています。MICS は手術創が小さく、術後の回復が早く、美容的にも優れた手術です。胸骨を切断しないので術後の運動制限もなく、回復も早いため、高齢者へもお勧めします。 対象疾患は、心臓弁膜症全般（特に僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁疾患）、心房中隔欠損症および心臓腫瘍です。MICS が可能かどうかは患者さんの体型や全身状態で判断しますが、単独僧帽弁形成術、大動脈弁置換術はほぼ全例 MICS での手術をおこなっています。

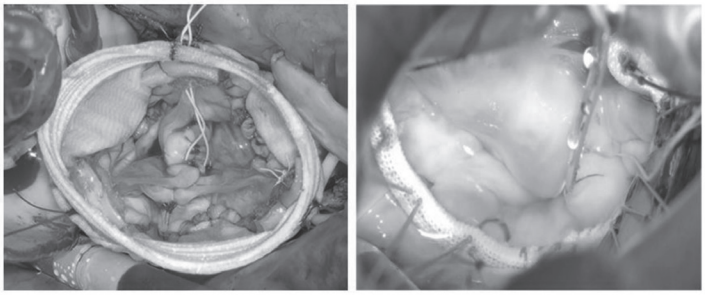


手術用顕微鏡　ORBEYE（オーブアイ）

・弁膜症手術は手術用顕微鏡システム　ORBEYE（**オーブアイ**）を用いておこないます。ORBEYE はオリンパスの手術用顕微鏡の技術とソニーの美しい画像処理半導体技術が癒合した 4K3D の手術顕微鏡システムで、これまでの肉眼や拡大鏡（手術用ルーペ）では見ることが出来なかった弁の組織学的変化までを、確認しながら精緻な手術をおこなう事ができるため、良好な遠隔成績が得られます。（500 円玉位大きさの心臓の弁を 55 インチのモニターに写し、手術をおこないます。）



ORBEYEにて観察した大動脈弁および僧帽弁



大動脈弁輪拡張症に対する
David手術および大動脈弁形成術

僧帽弁閉鎖不全症に対するMICSでの
僧帽弁形成術

診療実績：2025 年度

○心大血管手術数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
弁膜症	**26**	**30**	**46（併施 5）**	**42**	**45**	**41**
MICS	18	17	28	21	29	22
僧帽弁形成術	15	15	23	18	25	18
大動脈弁置換術	1	2	4	3	4	4
冠動脈バイパス手術	**9（併施 3）**	**12（併施 1）**	**35（併施 6）**	**21（併施 6）**	**23（併施 4）**	**16（併施 6）**
Off-pump	5	11	28	10	19	5
On-pump beating	1（EF35%↓）	0	1（EF25%）	5（EF35 以下）	0	5
Conventional	3（併施）	1（併施）	6（併施）	6（併施）	4（併施）	6
胸部大動脈瘤	**1**	**17**	**10**	**13**	**9**	**10（併施 6）**
TEVAR		11	6	7	4	1
その他	2 （MICS- 腫瘍摘除）	2	1 （MICS 血栓摘除） 1 心膜剥離		2 （MICS 腫瘍摘除）	
心大血管総数	**35**	**57**	**87**	**69**	**73**	**55**
入院死亡数 （手術）	1（0）	3（1）	1（0）	2（1）	2（2）	1（1）

○抹消血管手術数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
腹部大動脈瘤	4	24	15	13	19	14
（EVAR）		（17）	（12）	（6）	（14）	（9）
心嚢ドレナージ	3	0	0	0	0	0
下肢バイパス術	14	14	3	7	1	12
血管内治療	17	25	22	38	32	47 （併施 1）
動脈血栓除去術	7	5	3	5	5	7（併施 2）
下肢静脈瘤 （レーザー）	14（10）	18（12）	7（5）	7（6）	4（4）	2（0）
その他血管	23	17	16	14	10	15
その他					7	19
末梢血管手術＋ etc	**81**	**100**	**64**	**86**	**80**	**113**
入院死亡数（手術）	0	0	0	2（1）	2（2）	1（1）

施設認定

・心臓血管外科専門医認定機構基幹施設（2022 年 1 月 1 日より）
・日本脈管学会認定研修関連施設
・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設
・胸部ステントグラフト実施施設（2021 年 5 月より）
・腹部ステントグラフト実施施設（2021 年 4 月より）

Ⅲ：業績

【著書】

1）この画像所見，術中ではどう見える？第 1 回：尾長谷喜久子、江石清行（Journal of Clinical Echocardiography　心エコー Vol. 26 No4 422-423, 文光堂，2025. 4）
2）この画像所見，術中ではどう見える？第 2 回：尾長谷喜久子、江石清行（Journal of Clinical Echocardiography　心エコー Vol. 26 No5 532-533, 文光堂，2025. 5）
3）この画像所見，術中ではどう見える？第 3 回：尾長谷喜久子、江石清行（Journal of Clinical Echocardiography　心エコー Vol. 26 No6 634-635, 文光堂，2025. 6）

【論文発表】

1）Efficacy and Safety of Edoxaban in Anticoagulant Therapy Early After Surgical Bioprosthetic Valve Replacement: A Randomized Clinical Trial
Chisato Izumi, Masashi Amano, Yusuke Yoshikawa, Satsuki Fukushima, Hitoshi Yaku, Kiyoyuki Eishi, Taichi Sakaguchi, Nobuhisa Ohno, Arudo Hiraoka, Kenji Okada, Yoshikatsu Saiki, Takashi Miura, Tatsuhiko Komiya, Manabu Minami, Haruko Yamamoto, Katsuhiro Omae; ENBALV Trial Investigators
Circ Cardiovasc Interv. 2025 Jul;18(7)
2）Clinical Outcomes of Anticoagulation Therapy With Direct Oral Anticoagulants or Warfarin in Patients With Atrial Fibrillation and Renal Impairment After Bioprosthetic Valve Replacement
Miwa Ito, Misa Takegami, Yutaka Furukawa, Makoto Miyake, Tomoyuki Fujita, Tadaaki Koyama, Hidekazu Tanaka, Kenji Ando, Tatsuhiko Komiya, Masaki Izumo, Hiroya

Kawai, Kiyoyuki Eishi, Kiyoshi Yoshida, Takeshi Kimura, Ryuzo Nawada, Tomohiro Sakamoto, Yoshisato Shibata, Toshihiro Fukui, Kenji Minatoya, Yasushi Sakata, Masayuki Fukuzawa, Kunihiro Nishimura, Shozo Kaneko, Tadashi Hoshiyama, Hisanori Kanazawa, Kenichi Tsujita, Chisato Izumi; BPV-AF Registry Group
Circ Rep. 2025 Nov 20;8(1):58-67.

3）Combined Aspirin Study for Mechanical Prosthetic Valve in Kyushu and Ryukyu by Inter-University Hospital Network (ASPIRIN-Trial)
Yuki Tsuda, Koichi Arinaga, Takashi Shuto, Hiromichi Sonoda, Kazuhisa Matsumoto, Shuhei Sakaguchi, Go Kuwahara, Masataka Eto, Jun Takaki, Hitoshi Inafuku, Masanori Takamatsu, Ichiro Matsumaru, Kazuyoshi Takagi, Takayuki Kawashima, Tomoki Ushijima, Hideaki Kanda, Kunihide Nakamura, Hiromitsu Teratani, Toru Yasutsune, Takashi Yoshinaga, Yuya Kise, Hiroyuki Morokuma, Kiyoyuki Eishi, Takashi Miura, Keiji Kamohara, Kojiro Furukawa, Toshihiro Fukui, Yosuke Nishimura, Hideichi Wada, Koji Furukawa, Yoshiharu Soga, Akira Shiose, Shinji Miyamoto, Eiki Tayama, Yoshihisa Fujino, Yutaka Otsuji, Masaharu Kataoka ; ASPIRIN-Trial Investigators.
Circ J. 2026 Jan.

4）Papillary muscle relocation for mitral regurgitation attributable to flail but tethered commissure associated with a left ventricular aneurysm
Hiromitsu Teratani, Kiyoyuki Eishi, Kikuko Obase, Yuko Nakao, Kazuki Hisatomi, Takashi Miura
JTCVS Tech. 2025 Nov.

【学会発表】

1）Multimodality imaging for management of functional MR from a surgeon's perspective：Kikuko Obase（日本心エコー図学会第 36 回学術集会、愛知、2025. 4）

2）三尖弁閉鎖不全の弁形態評価:尾長谷喜久子、江石清行(日本超音波医学会第 98 回学術集会、京都、2025. 5)

3）Kommerell 憩室に対して弓部置換術、左鎖骨下動脈塞栓術を行った 1 例：徳永峻吾、尼子真生、金城章泰、江石惇一郎、住瑞木、江石清行、和田秀一（第 122 回日本血管外科学会九州地方会、福岡、2025. 8）

4）三尖弁逆流の画像診断：尾長谷喜久子（第 73 回心臓病学会学術集会、高知、2025. 9）

5）Functional TR に対する Spiral Suspension 法のピットフォール：江石清行、三浦崇（第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会、大阪、2025. 10）

6）A case of Successful Septal Myectomy with Mitral Valve Triangular Resection and Artificial Chordae Reconstruction for a Patient with Severe Systolic Anterior Motion of the Mitral Valve Leaflet Despite Mild Septal Hypertrophy : Shungo Tokunaga, Mizuki Sumi, Junichiro Eishi, Mau Amako, Akiyasu, Kinjo, Erina Fujinuma, Masashi Mikagi, Yuki Inada, Masaya Yano, Takahiro Mito, Kikuko Obase, Kiyoyuki Eishi, Hideichi, Wada（第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会、大阪、2025. 10）

7）術前画像で二尖弁と診断した一尖弁の 1 例：交連部観察の重要性：尾長谷喜久子、住　瑞木、江石惇一郎、徳永峻吾、尼子真生、金城章泰、藤沼絵里奈、御鍵昌史、稲田悠希、矢野雅也、三戸隆裕、和田秀一、江石清行（第 139 回日本循環器学会九州地方会、福岡、2025. 12）
8）三尖弁閉鎖不全の弁形態評価：尾長谷喜久子（第 15 回日本弁膜症学会、広島、2025. 12）
9）心エコーからは捉えにくい弁形態異常－外科医が見つめ続けた“見えない弁病変”：江石清行，尾長谷喜久子，三浦　崇（日本心エコー図学会第 30 回冬期講習会，大阪，2026. 1）

【講演】

1）最適な外科手術を考える TAP?Clover ？弁下組織への介入？：江石清行（ストラクチャークラブ JAPAN Focus Mitral and Tricuspid，web，2025. 5）
2）僧帽弁の解剖及び Physio Flex を用いた手技の技術指導（Restoration Technique 含む）：江石清行（Edwards Heart Valve Workshop in kurume-Procedure Training Program，福岡，2025. 5）
3）Physio Flex を用いた僧帽弁形成術の基本手技　Physio 三尖弁リングを用いた三尖弁形成術：江石清行（Edwards Heart Valve Workshop in Osaka-Procedure Training Program，大阪，2025. 6）
4）心臓手術における ORBEYE の基本的操作および活用方法：江石清行（第 1 回 ORBEYE 心臓手術セミナー，福岡，2025. 7）
5）Physio Flex 及び Physio Tricuspid を用いた弁形成術の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Program，山梨，2025. 7）
6）Physio Flex を用いた長期耐久性を目指した MVP・僧帽弁形成術技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Program，愛知，2025. 8）
7）Physio Flex 及び Physio Tricuspid を用いた弁形成術の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Program，東京，2025. 9）
8）Physio Flex 及び Physio Tricuspid を用いた弁形成術の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Program，神奈川，2025. 10）
9）Physio Flex 及び Physio Tricuspid を用いた弁形成術の技術指導 Restoration & Spiral suspension：江石清行（Edwards Procedure Training Program，福井，2025. 11）
10）Physio Flex および Physio Tricuspid を用いた弁形成術の技術指導 Restoration & Spiral suspension：江石清行（Edwards Heart Valve Workshop -Procedure Training Program，熊本，2025. 12）
11）僧帽弁の解剖及び Physio Flex の弁形成術の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Program，茨城，2026. 1）
12）僧帽弁及び三尖弁の解剖講義と Physio Flex，Physio Tricuspid の弁形成術の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training in Chiba-Nishi General Hospital，千葉，2026. 2）
13）僧帽弁形成術における Physio Flex を用いた適正使用の技術指導：江石清行（Edwards Procedure Training Mitral Valve Plasty Workshop，東京，2026. 3）

【座長・司会・コメンテーター】

1）第 11 回九州心臓弁膜症カンファレンス，長崎，2025. 4：江石清行

2）弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会@ web，宮崎，2025. 5：江石清行

3）第 15 回日本心臓弁膜症学会，広島，2025. 12：江石清行

4）第 56 回日本心臓血管外科学会学術総会，千葉，2026. 2：江石清行

Ⅳ：現状と展望

2021 年、西部市場跡地に新病院を設立し、心臓・弁膜症センターを立ち上げました。

心臓病（心疾患）は、悪性新生物（がん）に次ぐ日本人の死因で、全死亡者に占める割合は 15％を占め、日本人の 6 ～ 7 人に 1 人は心臓病で亡くなっていることになります。また心臓病のうち、約 20％から 30％が心臓弁膜症であり、人口高齢化を背景に増加しています。

心臓・弁膜症センターでは、あらゆる心臓病（心臓弁膜症、虚血性心疾患、不整脈）そして全身の血管（大動脈、末梢動脈、静脈系）を総合的、効率的に診療し、当院で治療が完結できることを目標としています。内科医・外科医が垣根を越え、コメディカルスタッフ（薬剤師、看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、リハビリ師等）とカンファレンスをおこない、各々の得意な分野で、または協同し、その患者さんに合った高度な医療を提供いたします。

2022 年 4 月より、前長崎大学病院　心臓血管外科の**江石清行（えいし きよゆき）**名誉教授を心臓･弁膜症センターのセンター長としてお招きし、精緻で高度な心臓弁膜症手術（大動脈基部形成術; David 手術や total root remodelling，低侵襲心臓手術 ;MICS 手術、Ebstein 病に対する三尖弁形術; Leafletization や spiral suspension 等）をおこなっています。（江石　清行医師 ; 2022 年 3 月に長崎大学病院　心臓血管外科教授を定年退官し、名誉教授となる。これまで心臓・弁膜症手術 4500 例の手術件数を経験、2020 年に発表された日本循環器学会　弁膜症ガイドライン作成の班長）

2025 年度は MICS 手術を含めた心臓大血管手術を 55 例、（うち開心術を 54 例、胸部大動脈瘤に対するステント治療 1 例）、ステント治療を含めた腹部大動脈瘤 14 例を含めた末梢血管手術、その他の手術を 113 例おこないました。救急患者に対する緊急手術も多数おこなっております。

多くの手術をきっちりとおこなう事で、手術室、ICU、病棟、スタッフともにいつも通りの準備、治療をおこなう事が可能になりました。白十字病院コメディカルの総合力の高さによるものと思います。これからも病気になり不安を抱えている患者さんに対し、スタッフ一同で親身に向き合い、きちんとした治療をおこない、信頼される関係を築いて行けるよう心掛け、福岡の心臓・弁膜症の治療を担う責任と確かな実績を目標として掲げ、その実現のために新たな医療体制の構築をおこなっていきます。

作成：住　瑞木　確認：尼子真生

● 脳神経外科

脳神経外科副部長　**天本　宇昭**

Ⅰ：構成員
医師：8 名
診療看護師：1 名

Ⅱ：臨床活動
外来：4492 名（ 新患 1076 名、再来 3416 名 ）
入院：677 名
利用ベッド数：ICU（12 床）、SCU（6 床）、4 階南病棟（39 床）
手術症例：477 例

Clipping	未破裂	3	血管内	未破裂	14
	破裂	2		破裂	16
CEA		6		血栓回収	24
EDAS		1		CAS	8
STA-MCA bypass		6		AVM	0
脳腫瘍摘出術		4		AVF	2
脳動静脈奇形摘出術		2		頭蓋内 PTA/S	0
VP shunt		11		頭蓋外 PTA/S	0
LP shunt		8		spasm	2
頭蓋内血腫除去術	AEDH	3		脳腫瘍	0
	ASDH（内視鏡）	2（ 0）		CSDH	14
	脳出血（内視鏡）	25（15）		その他	1
CSDH	（両側）	142（24）			
脳室ドレナージ		12			81
外減圧術		1			
頭蓋形成		5			
脊椎	頚椎椎弓形成術	18			
	頚椎前方固定術	3			
	頚椎後方固定	2			
	胸腰椎後方除圧術	46			
	胸腰椎後方固定術	5			
	脊髄腫瘍摘出術	1			
	末梢神経手術	16			
	BKP	47			
	制動術	1			
	その他	6			
その他		18			
直達		396	直達 + 血管内		477

Ⅲ．業績

●学会発表 / 研究会

1）HAL® リハビリテーション温故創新：井上亨（第 1 回四国 HAL @研究会 2025. 2）

2）遠隔多発同時性脊髄硬膜動静脈瘻に対して二回の経動脈塞栓術にて根治し得た一例：松田浩大（第 41 回日本脳神経血管内治療学会九州地方会 2025. 2）

3）RIST を用いた解離性椎骨動脈瘤の治療：松田浩大 iED コイル症例検討会 2025. 2
4）慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術単独治療成績：平尾宜子 第 149 回日本脳神経外科学会九州地方会 2025. 3
5）肘部管症候群術後にギオン管症候群を呈した 2 症例：入江由希乃 第 8 回末梢神経の外科研究会 2025. 3
6）Radicular artery dissection による胸髄硬膜外血腫の 1 例：入江由希乃 第 22 回九州・山口ニューロスパイン 2025. 4
7）脳卒中片麻痺と Cybernics Treatment Unit（CTU）：井上亨（第 2 回甲信 HAL® 研究会 2025. 5）
8）緩徐に進行した胸椎黄色靭帯血腫の一例：入江由希乃 第 40 回日本脊髄外科学会 2025. 6
9）脊髄硬膜外血腫 3 例の治療経験：田尻崇人 第 40 回日本脊髄外科学会 2025. 6
10）化膿性脊椎炎に病的骨折を併発した 2 例：田尻崇人 第 40 回日本脊髄外科学会 2025. 6
11）特発性足根管症候群に対する後脛骨動脈移所術の長期成績：藤原史明 第 40 回日本脊髄外科学会 2025. 6
12）地域医療支援病院脳卒中センターの役割 急性期血圧管理と早期機能回復を目指して：井上亨（釧路脳神経外科研究会 2025. 8）
13）脳卒中様症状を呈する脊椎・末梢神経疾患の鑑別と診療：藤原史明 脳卒中地域連携講演会（2025. 8）
14）特発性足根管症候群に対する後脛骨動脈移所術の長期成績：藤原史明 第 84 回日本脳神経外科学会総会 2025. 10
15）化膿性脊椎炎に病的骨折を合併した 2 例の治療経験：田尻崇人 第 84 回日本脳神経外科学会総会 2025. 10
16）CTU（Cybernics Treatment Unit）と Q’HAL（Quick HAL）が開拓する脳卒中：井上亨（第 1 回日本サイバニクス医療研究会 2025. 11）
17）慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術単独治療成績：平尾宜子 第 41 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2025. 11
18）椎間孔に遊離した L3/4 椎間板ヘルニアに対し transpars approach で摘出を行った一例：入江由希乃 第 23 回九州・山口ニューロスパイン 2025. 11
19）当院における OPTIMA coil の使用経験：松田浩大 大阪血管内治療座談会 2025. 12
20）末梢神経疾患：藤原史明 第 24 回 脳神経外科勉強会

●論文 / 著書

1）腰椎後方除圧術後の腰下肢末梢神経障害併発への対応：田尻崇人 脊髄外科 39（3）258-263 2025
2）腰椎後方除圧術後に見られた総腓骨神経障害で外科手術が奏功した 4 例：入江由希乃 SpinalSurgery39（1）：59-63 2025
3）Bacteremia Associated With Delayed Cerebral Ischemia After Interventional Treatment of Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.：Irie Y., Yoshinobu H. Cureus18（1）：e100861. 2025
4）Two Cases of Flow Diverter Placement for Early Recurrence Following Stent-Assisted

Coil Embolization for Ruptured Dissecting Cerebral Aneurysms. : Watanabe E, /Journal of Neuroendvascular Therapy 19（82）: 1–7, 2025

5）Einzelgelenk HAL: Toru Inoue（監修・編著 2024. 12 第 1 版のドイツ語版）

Ⅳ. 現状と展望

2025 年度を迎え、当院は新病院開設から 5 年目となり、当科は引き続き脳卒中、脊椎疾患を主軸とした診療を行っております。脳卒中に関しましては SCU（脳卒中ケアユニット）、開業医の先生方からの「脳卒中ホットライン（緊急紹介）」を整備し、昨年度も積極的に活用されており脳卒中の紹介症例数および手術件数は、前年と同等の水準を維持しています。

脊椎疾患に関しては、近隣医療機関や院内からの紹介も安定しており、前年度を超える脊椎手術を実施しています。2025 年度は当科スタッフの入江、田尻が日本脊髄外科学会技術認定医を取得し、さらに診療の質が向上しております。変性疾患から急性外傷まで幅広く対応が可能で、脊椎外傷に対しては固定術を、低侵襲治療としては脊椎内視鏡手術や BKP（Balloon Kyphoplasty）を導入。また、末梢神経障害に対しては神経剥離術を行うなど、患者さんの早期回復と満足度向上を重視した治療を提供しています。特に BKP においては当院のハイブリッド手術室（Hybrid OR）を全例活用することで、従来の C アームを用いた手術と比較し、術中合併症の軽減につながると考えられ、今後も積極的に取り組んでいく予定です。

リハビリテーション部門では、当科はロボットスーツ HAL® を用いた最先端リハビリテーションにも積極的に取り組んでおり、専任スタッフによる研究活動や学会発表も活発に行われており、治療と研究の両輪による質の高いリハビリの提供を目指しています。さらに、脳神経外科においては、福岡大学病院の脳神経外科および救急救命センターと密接に連携し、重症例や高難度症例にも適切なタイミングで最善の治療が行える体制を構築しています。

作成：田尻崇人　確認：天本宇昭

● 整形外科

整形外科部長　**小林　知弘**

Ⅰ：構成員

医師 5 名

Ⅱ：臨床活動

☆	入院患者数	752 名
☆	外来患者数	
	★ 初診	503 名
	★ 再診	5, 158 名
☆	手術数	511 例
	★ 骨折・偽関節の手術	
	・上肢	102 例
	・下肢	156 例
	・骨盤	0 例
	・その他	28 例
	★ 関節の手術	
	・人工関節	19 例
	・人工骨頭	113 例
	・肩	6 例
	・膝	6 例
	・その他	3 例
	★ 脊椎の手術	0 例
	★ 腱の手術	13 例
	★ 腫瘍摘出術	0 例
	★ 抜釘術	57 例
	★ 神経の手術	1 例
	★ その他	7 例

Ⅲ：業績

【学会発表】

1 ）生物学製剤使用中に腱板内部に膿瘍が発生し CLAP 治療を行った症例：金澤和彦　他
（第 149 回 西日本整形・災害外科学会学術集会、久留米、2025/6/7-8）

Ⅳ：現状と展望

2025 年度より整形外科は 1 名増員となり、5 人体制で診療を行いました。増員の影響もあり手術件数は 511 件と昨年度の 442 件を大幅に上回ることができました。当院は救急病院であり当科としては外傷症例を最大限受入れ、紹介患者さんを極力断らないよう努力していますが、外来や手術などで対応困難なため、お断りせざるを得ない状況も多少ありました。2025 年度は増員により基本的には全てお受けするチーム体制が整ったことが手術増加の主因と考えています。また、昨年度までは働き方改革の影響もあり、当直明けの手術は困難でしたが、主治医交代制を取ることにより翌日に手術を行うことが出来たことも手術数増加の一因と考えます。

本年度も整形外科は 5 人体制で診療を行います。当科的には外傷患者は断らない体制を継続しますが、満床で救急車の受け入れやご紹介いただいた手術症例の受け入れが困難な場合も少なくありません。マンパワーによるメリットを最大限に生かしながら、病棟や回復期とより密な連携を取りながらベッド数の確保に寄与し、救急患者を断らない体制づくりを強化し、昨年度を上回る手術件数確保に尽力しようと考えています。

作成：小林知弘　確認：矢野竜大

● 形成外科

形成外科部長　眞鍋　剛

Ⅰ：構成員

医師　2名

Ⅱ：臨床活動

入院：　261名

手術：2025年4月1日～2026年3月31日

①新鮮熱傷	10
②顔面骨骨折及び顔面軟部組織損傷	75
③唇裂・口蓋裂	0
④手、足の先天異常、手、足の外傷	63
⑤その他の先天異常	4
⑥母斑、血管腫、良性腫瘍	183
⑦悪性腫瘍及びそれに関連する再建	9
⑧瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド	15
⑨褥瘡、難治性潰瘍	109
⑩美容外科	0
⑪その他（陥入爪、炎症・変性疾患、手、足以外の外傷など）	109
合計	577

Ⅲ：業績

【学会発表】

1）手背に生じた皮膚ノカルジア感染症の一例：眞鍋　剛、山田　綾太郎
（第47回　九州手外科研究会、福岡、2026. 1）

Ⅳ：現状と展望

当院形成外科では、手の外傷（切断指や手指骨骨折、腱断裂）を中心として化膿性腱鞘炎などの感染症、弾発指などの炎症性疾患、手根管症候群や肘部管症候群などの絞扼性神経障害も含めた手外科領域を専門に治療しています。手根管症候群の手術は皮切1 cmで内視鏡を用いた手術を行っています。その他、形成外科領域一般に扱う疾患も対象に診療活動を展開しております。疾患領域は新鮮熱傷、顔面骨骨折を含めた顔面外傷、良性・悪性腫瘍、瘢痕拘縮や肥厚性瘢痕、ケロイド、陥入爪、巻き爪、糖尿病性皮膚潰瘍、褥瘡潰瘍などです。当科の方針として心がけていることは、患者さんが納得して治療を受けられるように診断根拠をしっかり提示し、説明することです。またご高齢の患者さんは形成外科疾患以外に重篤な内科的疾患を合併していることが多く、他科との連携が必要になることがあります。全身的局所的治療を他科と協力して診療活動を行っています。今後は手外科の教育関連施設を目指しています。

作成：眞鍋　剛　確認：大塚　駿太

● 泌尿器科

副院長　泌尿器科部長　**阿部　裕典**

Ⅰ：構成員

医師 5 名

Ⅱ：臨床活動

入院：964 名

入院患者数、疾患名については電子カルテの退院サマリー主病名から抽出した。

入院患者は 964 人で昨年に比べ 172 人増加した。臓器別では前立腺、尿管、腎、膀胱の順に多かった。疾患順では腫瘍、結石、炎症の順に多かった。後腹膜、副腎、腎、尿管疾患での入院患者は 422 人で尿管結石が 198 人で最も多く、次いで腎盂腎炎 74 人、腎結石 44 人の順となった。

膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容疾患での入院患者は 542 人で、膀胱腫瘍が 128 人と最も多く、次いで、前立腺癌疑いが 120 人、前立腺肥大症 94 人、前立腺腫瘍 44 人の順であった。

手術：577 件

手術数、手術名については電子カルテの手術登録から抽出した。

手術室で施行された手術は 577 件で昨年と比べ 99 件増加した。また、2025 年 5 月から当院に手術支援ロボット「ダビンチ」が導入されより低侵襲な手術が可能となり、当科では腎癌と前立腺癌に対し合計 34 件施行した。後腹膜、副腎、腎、尿管の手術では腎癌に対し、ロボット支援下根治的腎切除術を 3 件、ロボット支援下根治的腎部分切除術を 3 件施行した。また腎盂尿管癌に対しロボット支援下腎尿管全摘 + 膀胱部分切除を 1 件、後腹膜鏡下腎尿管全摘を 17 件施行した。腎および尿管悪性腫瘍に関しては 2025 年度からロボット支援手術 + 腹腔鏡下手術が第一選択になり、開腹手術より腹腔鏡手術が定着している。

膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容の手術では TUR–BT が 110 件と最も多く、次いで 2020 年より導入した治療レーザ【ツリウムレーザ】による前立腺蒸散術（ThuVAP）は 42 件であり、前立腺核出術は 43 件、TUR–P　11 件であった。またロボット支援腹腔鏡下前立腺根治術を 25 件施行し、Total 270 件を超えた。

体外衝撃波結石破砕術（ESWL）はドルニエ Delta Ⅱを使用して新患 61 件の尿路結石に対し ESWL を 102 回（1 例につき平均 1. 6 回）施行した。

Ⅲ：業績

●学会発表

1．この三年間に剥離用スパチュラで剥離せず TUR 切除鏡で経尿道的前立腺核出術を施行した 130 例の検討：吉田一博、松尾勇輝、中谷和貴、藤川愛子、阿部裕典（第 316 回日本泌尿器科学会福岡地方会、福岡、2025. 7. 26）

2．BPH 外科的治療のトレンド～前立腺肥大症に対する ThuVAP の有用性～：藤川愛子、中谷和貴、松尾勇輝、阿部裕典、吉田一博（第 32 回日本排尿機能学会、佐賀、2025. 9. 4）

3．cT1b におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（RAPN）の検討：中谷和貴、松尾勇輝、藤川愛子、阿部裕典、吉田一博（第 39 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会、東京、2025. 10. 30）

4．維新企画としての医療革新　前立腺肥大症治療の未来～短時間・低侵襲を実現する ThuVAP の可能性～：藤川愛子、中谷和貴、松尾勇輝、阿部裕典、吉田一博（第 77 回西日本泌尿器科学会、高知、2025. 11. 13）

Ⅳ：現状と展望

2021 年 4 月より女性泌尿器科医師が一人加わり、また 2025 年 4 月より 5 人で診療を行っています。高齢者の入院患者の多い科ですが全国平均在院日数より少なく社会復帰をされています。

年間 450 ～ 500 件程度手術施行し、副腎摘除、根治的腎摘除、腎尿管摘除、腎盂形成などに対してより低侵襲で短期間入院が可能な腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。また 2024 年 5 月より当院にダビンチ Xi が導入され、糸島市、西区にお住まいの方により身近にロボット支援手術が可能となりました。尿路結石に対しては従来の身体に傷つけることなく結石を破砕する体外衝撃波結石破砕術（ESWL）と経尿道的尿管結石砕石術（TUL）を行っています。また高齢者男性の排尿障害の前立腺肥大症に対しては従来からの経尿道的前立腺切除術に加えて、2020 年より超高齢者や合併症のある患者でも行える低侵襲なツリウムレーザーによる経尿道的前立腺レーザー蒸散術も行っています。膀胱癌に対しては、膀胱温存のための各種治療法（経尿道的腫瘍切除、抗癌剤、膀胱注入療法など）から根治的膀胱全摘術、多剤併用化学療法、免疫チェックポイント阻害剤まで行い、根治的手術の際は QOL（生活の質）を重視した自然排尿型代用膀胱、各種尿路変更が選択可能としています。

作成：中谷和貴　確認：阿部裕典

● 眼科

眼科部長　藤原　恵理子

Ⅰ：構成員

医師　1 名

Ⅱ：臨床活動

外来：新規患者数：404 名

　　再来患者数：2, 791 名

入院：113 名

手術・注射：267 例

【外来・外来処置室で施行された手術・注射：152 例】

アイリーア硝子体注射	80 例
ルセンティス硝子体注射	5 例
バビースモ硝子体注射	35 例
網膜光凝固術	11 例
後発白内障手術（YAG レーザー）	19 例
隅角光凝固術	2 例

【手術室で施行された手術：99 例】

白内障手術	83 例
硝子体手術	2 例
緑内障手術（フリザーフロマイクロシャント）	1 例
緑内障手術＋白内障手術（iSTENT）	29 例

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

眼科の入院でもっとも多い症例は白内障です。全例手術を施行しており、日帰り手術や 1 泊入院で行います。また特殊症例（認知症やパニック障害）で局所麻酔での手術が難しい方は全身麻酔で同日両眼手術も行っています。次に多い症例は糖尿病黄斑浮腫で抗 VEGF 薬の硝子体注射を施行しています。当院では糖尿病センターがあり今後治療症例はますます増加するものと思われます。それ以外に増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術も行っております。また加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬の硝子体注射も行っています。

2022 年度から緑内障手術と白内障手術同時施行の水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術を始めました。

その他緑内障手術も行っております。

作成：伊﨑亮介　確認：伊﨑亮介

● 歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　嶋村　知記

Ⅰ：構成員

常勤歯科医師 2 名

非常勤歯科医師 4 名

Ⅱ：臨床活動

外来：8073 名

入院：163 名

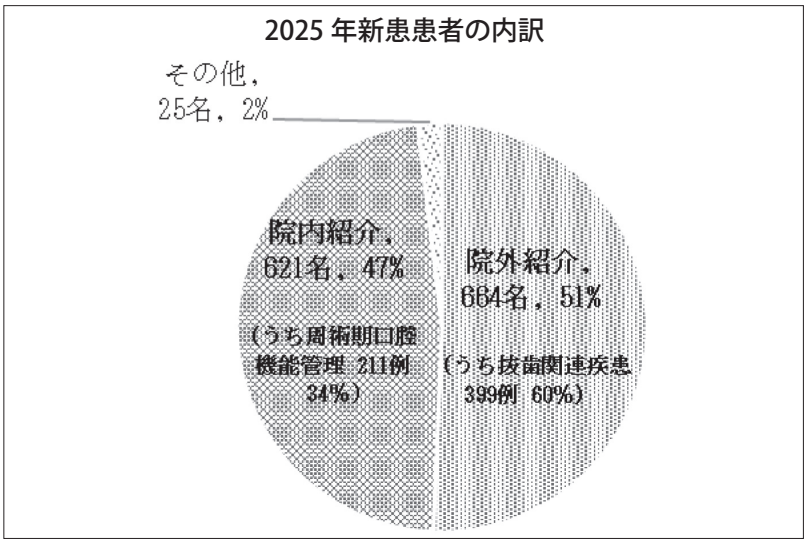
手術：121 件（手術室利用）

病棟往診口腔ケア件数（延べ）：1696 件

NST 介入件数（延べ）：1160 件

＜過去 3 年間の診療データ＞

		2023 年度	2024 年度	2025 年度
新患患者数	（名）	1155	1346	1310
院外紹介患者数	（名）	598	684	664
紹介率	（%）	52	51	51
院内紹介新患患者数	（名）	498	604	621
入院患者数	（名）	136	166	163
手術件数（手術室利用）	（件）	100	128	121
周術期等口腔機能管理患者数	（名）	223	244	211
嚥下機能検査件数	（件）	25	38	47
白十字リハビリテーション病院への訪問診療患者数	（名）	830	746	755



Ⅲ：業績

●学会発表

１．口腔咽頭病変を契機に梅毒と診断された 1 例：青柳直子・近藤誠二・嶋村知記（第 35 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会、東京、2026. 3）

Ⅳ：現状と展望

2025 年度歯科診療体制は、これまで通り常勤医 2 名、非常勤医 4 名の構成で行った。

診療活動実績は表に示す通りである。その中で誤嚥性肺炎入院患者パスに口腔ケア介入が組み込まれ、歯科衛生士が中心となって口腔衛生管理を担うようになった。しかしながら、歯科衛生士は一昨年から定員より一人少ない 4 名体制が続いている。歯科衛生士の人員確保は増患対策にも関連するため歯科衛生士の採用難の解消が喫緊の課題である。

作成：嶋村知記　確認：青柳直子

● 救急科

救急センター長　西田　武司

Ⅰ：構成員

医師 1 名

Ⅱ：臨床活動

(1) 救急車受け入れ台数

2023 年度：4, 308 台

2024 年度：4, 430 台

2025 年度：4, 593 台

(2) 救急外来における臨床活動：

救急センター化により看護体制の強化、病院救命士の複数人配置などにより、救急車到着から迅速な処置が必要となるような脳卒中や虚血性心疾患をはじめ、各種緊急手術症例の実施までの時間短縮が図られました。救急室では福岡大学病院救命救急センター医師と連携を図り、軽症から重症患者の容体把握およびバイタルサインの安定化を行います。適切な診療料と迅速な診療連携を行うため、救急室での勉強会および各科ともに積極的に意見交換を行っております。2024 年度より採用した病院救命士によって、タスクシフトの実施、急患対応力の充実、入院までの迅速化が実行でき、救急応需の増加ならびに、残業時間短縮が実現できています。その他、福岡市救急病院協会への参加や福岡県病院救急救命士連絡協議会の参加、地域の消防との合同勉強会ならびに、意見交換会などを通して、地域医療機関・地域消防との連携強化も合わせて行っております。

(3) 集中治療室（ICU）における臨床活動：

心肺停止蘇生後や重症敗血症、ならびに人工呼吸器管理を必要とする重症患者の治療介入など行っております。そのほか、各種診療科からの集中治療管理の応援要請に応じて連携を行い、共同で治療にあたっています。早期離床カンファレンスを平日毎日行い、積極的なリハビリテーション介入に努めています。また、今年度より重症患者さんのご家族へのサポート体制として専門のメディエーターを配置し、集中治療室での治療方針や御意向への支援体制を開始しました。

(4) 当直業務：内科当直、外科当直、ICU 当直対応

Ⅲ：業績

1）福岡地域救急業務メディカルコントロール協議会　参画

2）福岡県 DMAT 認定チーム 1 隊（医師 1 名、看護師 2 名、病院救命士 1 名）

3）福岡県病院救急救命士連絡協議会参画

4）日本救急医学会九州地方会　評議員 1 名

Ⅳ：現状と展望

地域医療：消防救急隊との連携強化のため対応地域消防署訪問を行い、以下の事項について実行する

Ⅰ）当院救急外来担当医療従事者の救急車同乗実習、Ⅱ）消防との症例検討会・勉強会の開催、Ⅲ）消防救急隊の訓練の見学および参加。

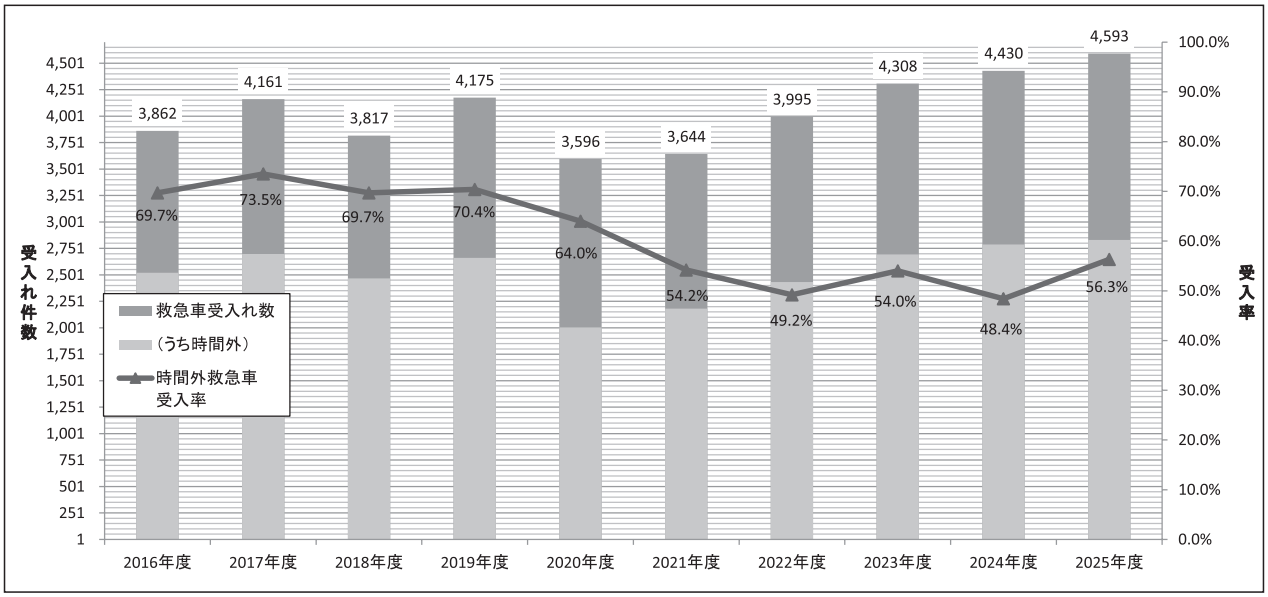
救急センター：救急対応訓練、災害教育・訓練への参加を通した地域医療を意識した救急対応・災害時対応体制への参画。それらを通して救急患者・救急車対応・災害時対応力の強化と救急患者対応力の強化による救急患者受け入れ対応力の向上。

現在、救急医療は働き方改革に伴う研修医の時間外就業の制限および、他科専門領域診療の増加による応援医師確保の低下などにより、三次救急医療機関に救急医師の集約化の傾向にある。そこで当院救急センターは、三次救急医療機関である大学病院救命救急センターとの連携強化及び、地域医療救急機関との連携を通して地域支援病院としての機能の充実を図り、一次救急症例を地域医療機関同士で分散し合い、患者さんに適切な医療機関に救急外来から直接他の医療機関へ搬送などを行い、二次救急医療担当施設として地域病院からの紹介受入れの体制構築の再編成を行うことで、機能的・合理的な相互の医療提供体制を計画しています。

作成：西田武司　確認：山﨑玲子

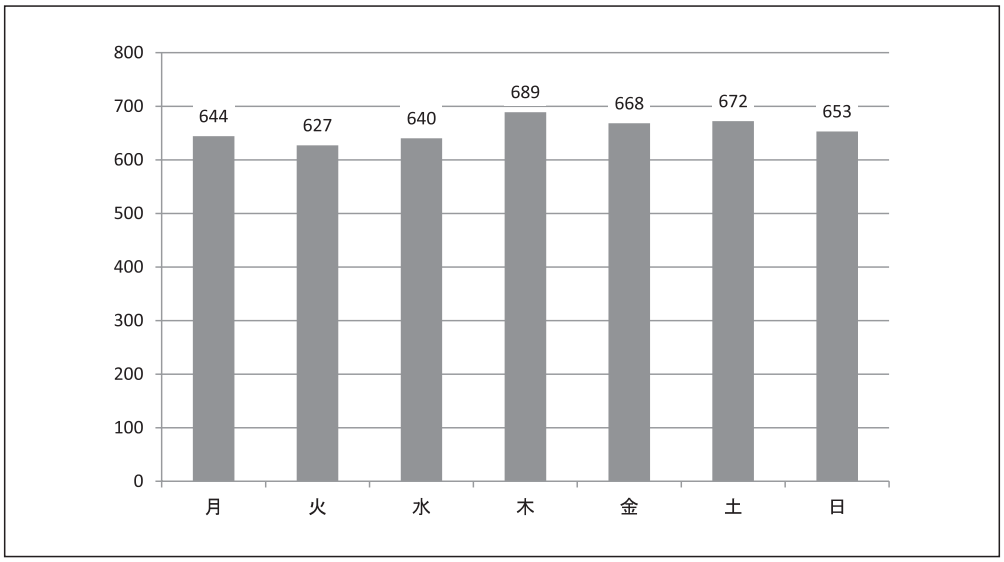
【救急車受入れ台数年次推移（2016 年度～ 2025 年度）】

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
救急車受入れ数	3,862	4,161	3,817	4,175	3,596	3,644	3,995	4,308	4,430	4,593
（うち時間外）	2,521	2,698	2,468	2,662	2,005	2,183	2,433	2,695	2,788	2,832
時間外救急車受入率	69.7%	73.5%	69.7%	70.4%	64.0%	54.2%	49.2%	54.0%	48.4%	56.3%



【2025 年度　曜日別救急搬送件数】

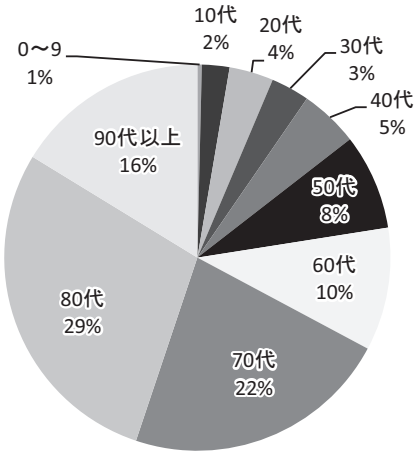
曜日	搬送件数	入院件数	入院率
月	644	372	57.8%
火	627	366	58.4%
水	640	324	50.6%
木	689	373	54.1%
金	668	368	55.1%
土	672	369	54.9%
日	653	327	50.1%
計	4,593	2,499	54.4%



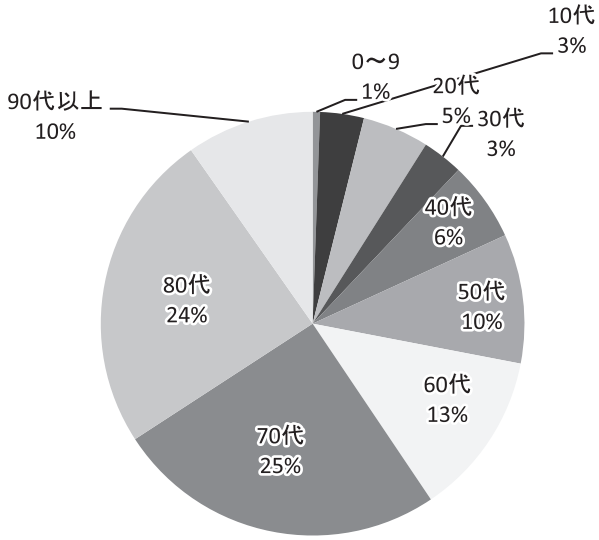
【2025 年度　性別・年齢別の救急搬送件数】

年齢	全体			男性			女性		
	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
0 ～ 9	17	0	0.0%	12	0	0.0%	5	0	0.0%
10 代	106	17	16.0%	71	14	19.7%	35	3	8.6%
20 代	170	38	22.4%	108	26	24.1%	62	12	19.4%
30 代	148	39	26.4%	66	22	33.3%	82	17	20.7%
40 代	225	63	28.0%	129	37	28.7%	96	26	27.1%
50 代	368	156	42.4%	210	95	45.2%	158	61	38.6%
60 代	473	232	49.0%	267	125	46.8%	206	107	51.9%
70 代	1,026	590	57.5%	537	320	59.6%	489	270	55.2%
80 代	1,313	827	63.0%	520	342	65.8%	793	485	61.2%
90 代以上	747	537	71.9%	207	143	69.1%	540	394	73.0%
全体	4,593	2,499	54.4%	2,127	1,124	52.8%	2,466	1,375	55.8%

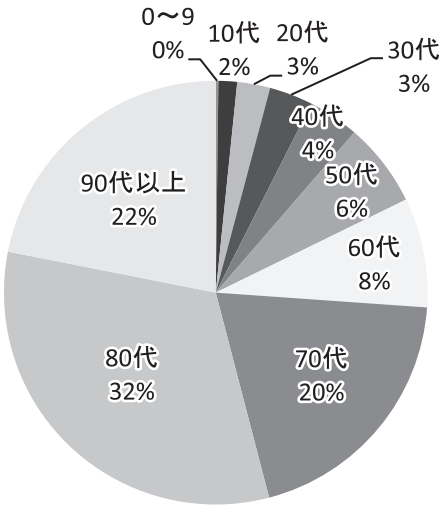
救急搬送件数年齢別割合（全体）



救急搬送件数年齢別割合（男性）



救急搬送件数年齢別割合（女性）

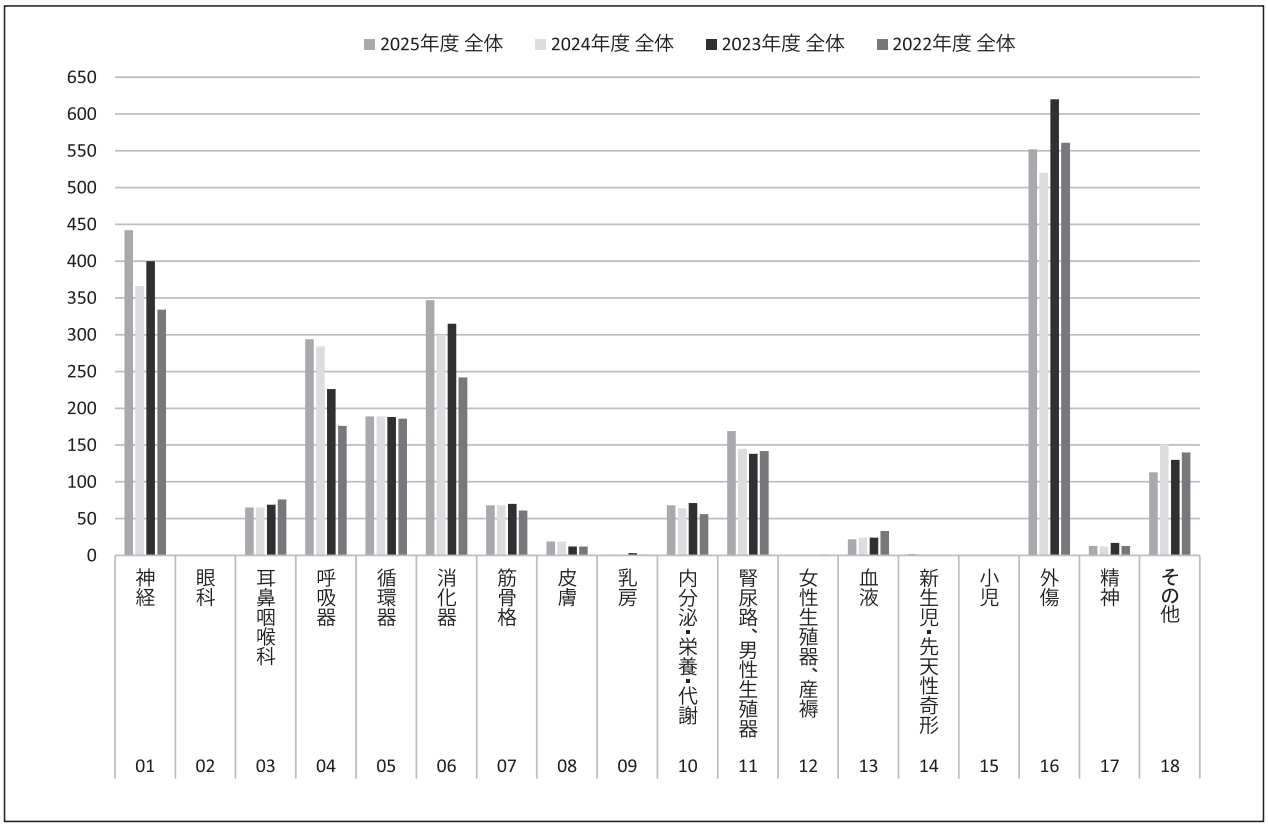


【2025 年度救急隊別搬送数と入院率】

			2025 年度									2024 年度		
			時間外			時間内			計			計		
			搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
			2,832	1,441	50.9%	1,761	1,058	60.1%	4,593	2,499	54.4%	4,430	2,377	53.7%
福岡市消防局	西	西本署	384	183	47.7%	242	141	58.3%	626	324	51.8%	564	307	54.4%
		姪浜出張所	462	218	47.2%	254	133	52.4%	716	351	49.0%	607	271	44.6%
		壱岐出張所	493	237	48.1%	281	157	55.9%	774	394	50.9%	730	374	51.2%
		元岡出張所	167	90	53.9%	106	59	55.7%	273	149	54.6%	308	145	47.1%
		計	1,506	728	48.3%	883	490	55.5%	2,389	1,218	51.0%	2,209	1,097	49.7%
	早良	早良本署	133	73	54.9%	136	83	61.0%	269	156	58.0%	301	144	47.8%
		田隈出張所	236	125	53.0%	110	76	69.1%	346	201	58.1%	339	173	51.0%
		東入部出張所	135	66	48.9%	86	43	50.0%	221	109	49.3%	199	99	49.7%
		計	504	264	52.4%	332	202	60.8%	836	466	55.7%	839	416	49.6%
	城南	城南本署	56	26	46.4%	41	25	61.0%	97	51	52.6%	110	66	60.0%
		飯倉出張所	139	76	54.7%	69	41	59.4%	208	117	56.3%	221	128	57.9%
		計	195	102	52.3%	110	66	60.0%	305	168	55.1%	331	194	58.6%
	その他		88	49	55.7%	117	70	59.8%	205	119	58.0%	232	148	63.8%
合計			2,293	1,143	49.8%	1,442	828	57.4%	3,735	1,971	52.8%	3,611	1,855	51.4%
糸島市消防本部	糸島	糸島消防本部	222	123	55.4%	154	116	75.3%	376	239	63.6%	297	197	66.3%
		前原出張所	153	90	58.8%	83	63	75.9%	236	153	64.8%	246	165	67.1%
		志摩出張所	98	52	53.1%	51	31	60.8%	149	83	55.7%	149	88	59.1%
		二丈出張所	63	30	47.6%	30	19	63.3%	93	49	52.7%	122	67	54.9%
		計	536	295	55.0%	318	229	72.0%	854	524	61.4%	814	517	63.5%
その他			3	3	100.0%	1	1	100.0%	4	4	100.0%	5	5	100.0%

【2025 年度　救急搬送入院　疾患別件数（DPC 2 桁分類）】

	2025 年度			2024 年度			2023 年度			2022 年度		
	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島
01 神経	442	325	117	366	250	116	400	285	115	334	231	103
02 眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
03 耳鼻咽喉科	65	58	7	65	58	7	69	59	10	76	69	7
04 呼吸器	294	245	49	284	232	52	226	187	39	176	134	42
05 循環器	189	148	41	189	131	58	188	146	42	186	145	41
06 消化器	347	265	82	300	230	70	315	259	56	242	197	45
07 筋骨格	68	57	11	68	57	11	70	59	11	61	50	11
08 皮膚	19	16	3	19	15	4	12	10	2	12	11	1
09 乳房	1	1	0	1	1	0	3	1	2	1	1	0
10 内分泌・栄養・代謝	68	52	16	64	53	11	71	55	16	56	46	10
11 腎尿路、男性生殖器	169	139	30	145	122	23	138	117	21	142	114	28
12 女性生殖器、産褥	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0
13 血液	22	17	5	24	17	7	24	18	6	33	27	6
14 新生児・先天性奇形	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
15 小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 外傷	552	413	139	520	393	127	620	490	130	561	445	116
17 精神	13	12	1	12	11	1	17	15	2	13	11	2
18 その他	113	91	22	151	123	28	130	101	29	140	111	29



作成：宮﨑由佳　確認：西田武司

● 放射線科

中島　力哉

Ⅰ：構成員

医師　4 名

Ⅱ：臨床活動

検査：

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
CT 検査	15, 099 件	14, 961 件	15, 785 件
MRI 検査	4, 603 件	4, 375 件	4, 737 件
RI 検査	431 件	424 件	489 件
IVR 検査	29 件	29 件	18 件

Ⅲ：業績

【論文発表】

1）Pathogenesis of Chronic Subdural Hematoma/Fluid Collection in Adults from the Perspective of the Dural Border Cell Layer: Akinobu Osame, Hidetsuna Utsunomiya, Yukie Higuma, Kenji Fukuda, Shuji Hayashi, Toru Inoue（SN Compr. Clin. Med. 7, 193(2025)）.

【学会発表】

1）造影 Dual energy CT による慢性硬膜下血腫活動性の評価：血腫結合織の病理組織所見との対比検討 / 納　彰伸、宇都宮英綱、日隈由紀枝、中島力哉、渡邊恵理子、平尾宣子、松田浩大、林　修司、井上　亨、大谷　博、山口広之（第 55 回日本神経放射線学会、名古屋、2026. 2）

2）透析用動静脈シャント由来の頭蓋内静脈逆流と SWI で脳実質に広範な可逆性低信号域を呈した一例 / 日隈由紀枝、宇都宮英綱、納　彰伸、中島力哉、岩田寛子、木村廣志、平野直史（第 55 回日本神経放射線学会、名古屋、2026. 2）

Ⅳ：現状と展望

CT、MRI、RI 検査及び読影、血管造影検査及び TACE、動脈止血等の IVR を施行しています。院内他科との連携を密にして、臨床に役立つ診断・治療を行うよう努力しています。

また、高度画像センターの中心的役割を担うべく、常に最先端技術を意識した医療画像診断提供環境の構築を目指します。

当院内各診療科や近隣クリニックの先生方が、診断・治療を進める上で必要な診療画像情報の提供を、迅速かつ正確に行う事を目指します。

作成：中島力哉　確認：宇都宮英綱

● 病理診断科

病理診断科部長　大谷　　博

Ⅰ：構成員

医師 1 名

非常勤医師 2 名

Ⅱ：臨床活動

病理組織診断件数：3751 件

術中迅速診断件数：84 件

細胞診件数：713 件

病理解剖：1 件

Ⅲ：業績

【学会発表・講演】

1）「尿細胞診：どの分類を使用すべきか」：大谷　博（第 66 回日本臨床細胞学会春期大会　教育講演 11、東京　2025. 6. 29）

2）尿細胞診攻略法：基礎から実践まで ：大谷　博（2025 年度 筑後地区 病理細胞診研修会　講演Ⅱ、久留米　2025. 8. 30）

3）各論講義：泌尿器：大谷　博（第 50 回　細胞診断学セミナー、Web 開催　2025. 9. 8–9. 26）

4）特別講演：明日から使える尿細胞診攻略の秘訣：大谷　博（第 50 回和歌山臨床細胞学会学術集会、和歌山　2026. 2. 14）

5）講演：「乳癌取扱い規約の改訂（ 第 19 版 ）と画像との関連について」：大谷　博（第 30 回九州乳房超音波研究会、福岡　2026. 3. 28）

【座長】

1）講演（2 例）の座長・病理コメンテーター：大谷　博（第 115 回福岡乳腺カンファレンス、福岡　2025. 6. 13）

2）講演、一般演題：診断、O34 ～ O40
座長：大谷　博、櫻井早也佳（第 23 回日本乳癌学会九州地方会、久留米　2025. 9. 6）

3）シンポジウム 5 腎盂・尿管癌診療と細胞診
座長：大谷　博、有安早苗（第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会、広島　2025. 11. 28）

4）研究発表： 標本作製法と URO17 bladder cancer test について～オートスメア法と ThinPrep 法との比較～
座長：大谷　博（第 24 回泌尿器細胞診カンファレンス、久留米　2026. 2. 7–2. 8）

【社会活動】

・日本病理学会評議員
・日本臨床細胞学会評議員
・日本臨床細胞学会九州連合会雑誌編集委員、広報委員
・福岡県臨床細胞学会理事
・泌尿器細胞診カンファレンス監事

Ⅳ：現状と展望

・臨床病理活動は著明な増加傾向にある。難易度の高い手術件数および病理診断件数が増加した。臨床の先生方からの学会・論文発表用の病理画像依頼件数も著しく増加した。
・治療に直結するコンパニオン診断の件数も年々増加し、検体の取り扱い、特に臓器の固定時間の厳密な管理が求められている。病理組織分類は細分化、複雑化している。遺伝子検索なしでは診断できない症例は福岡大学に精査を依頼するか、コンサルテーションにより対応している。
・今後もこの傾向は継続するものと思われ、学会・学術活動、福岡大学との綿密な連携、重要診断症例の運用、病理スタッフとの情報共有により誤解釈されることのない丁寧で精度の高い診断を心掛けていきたい。

作成：大谷　博　確認：大谷　博

● 麻酔科

麻酔科部長　平井　孝直

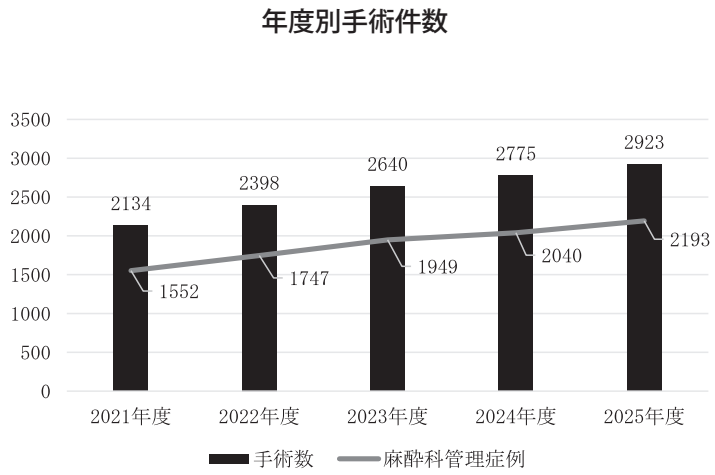
Ⅰ：構成員

医師 4 名

Ⅱ：臨床活動

主に手術中の麻酔管理業務

	全麻	硬＋全	脊＋全	伝＋全	硬＋脊	硬	脊	伝	局 (検査含む)	無麻酔	合計
外　　科	25	57	1	437	1	0	0	0	36	0	557
整形外科	56	0	194	254	0	0	2	0	5	0	511
脳神経外科	215	0	0	0	0	0	0	0	255	0	470
脳血管内科	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	40
泌尿器科	200	47	259	22	0	0	3	0	6	1	538
形成外科	78	0	18	16	0	0	2	0	138	2	254
腎臓内科	2	0	0	1	0	0	0	0	56	0	59
肝胆膵内科	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10
消化管内科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
心臓血管外科	90	0	2	8	0	0	0	0	66	0	166
歯科口腔外科	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	121
眼　　科	3	0	0	0	0	0	0	0	109	0	112
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
乳腺外科	76	0	0	0	0	0	0	0	7	0	83
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	866	104	474	738	1	0	7	0	730	3	2,923



Ⅲ：業績

学会発表：

1）大腿骨近位部骨折手術を受ける 100 歳以上の患者での麻酔法による術中血圧変動の比較：津崎朝佳・戸田志緒里・平井孝直・秋吉浩三郎（日本老年麻酔学会第 38 回学術集会、静岡、2026. 3）

Ⅳ：現状と展望

白十字病院麻酔科は、常勤 4 名、福岡大学病院からの麻酔科応援医師の計 5 名で、主に手術中の麻酔管理をおこなっている。

手術症例および麻酔科管理症例は年々増加しており、看護師、臨床工学技士、薬剤師など多職種の連携と協力によって、手術室を運営している。2025 年度の年間手術症例数は 2923 例、麻酔科管理症例数は 2193 例であった。また、心臓血管外科手術症例数は 166 例（開心術 55 例）であった。

麻酔法は、全身麻酔を主におこない、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔（腕神経叢ブロックなど）を併用している。

日本麻酔科学会認定病院であり、福岡大学病院麻酔科専門医研修プログラムの専門研修施設となっている。

作成：平井孝直　確認：丹羽紗耶加

6．看護部

看護部長　佐伯　美穂子

Ⅰ：看護部構成員（6 月 1 日時点）

部長 1 名・次長 3 名・課長 15 名・主任 21 名

平均年齢：35.6 歳　　平均勤続年数 9.2 年

	常勤	非常勤
看護師	310	24
救急救命士	4	0
介護福祉士	7	3
ケアスタッフ	12	16
病棟クラーク	2	12
外来アシスタント	2	29
産休・育休者	11	2

看護師離職率

	正規雇用看護師離職率（全国平均）	新人看護師離職率（全国平均）
2020 年度	11. 14%（10. 6%）	7. 1%（8. 2%）
2021 年度	13. 68%（11. 6%）	0%（10. 3%）
2022 年度	18. 27%（11. 8%）	20%（10. 2%）
2023 年度	16. 43%（11. 3%）	5. 8%（8. 8%）
2024 年度	12. 56%（11. 0%）	9. 3%（8. 4%）
2025 年度	11. 28%（調査中）	12. 5%（調査中）

Ⅱ：看護部活動

1．病床と看護職員配置基準

病床機能	許可病床	施設基準	職員配置
急性期病棟	225 床	7 対 1 入院基本料	看護師：7 対 1
		急性期看護補助加算 25 対 1 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算 看護補助者充実体制加算 看護職員夜間配置加算 12 対 1	看護補助者：25 対 1
ICU	12 床	特定集中管理料 5 早期離床・リハビリテーション加算	看護師：常時 2 対 1
SCU	6 床	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	看護師：常時 3 対 1
地域包括ケア病棟	45 床	地域包括ケア病棟入院料 2	看護職：13 対 1
		看護職員配置加算（50 対 1 以上）	

その他施設基準：認知症ケア加算 1　　排泄自立支援加算

2．日本看護協会専門認定看護師

がん看護専門	1名	クリティカルケア	2名
感染管理	2名	脳卒中リハビリテーション	2名
緩和ケア	2名	脳卒中看護	1名
皮膚排泄ケア	2名	手術看護	1名
がん化学療法	1名	看護管理者	2名
認知症看護	1名		

2025年度専門認定看護師による勉強会の内容と受講数（毎月第2火曜日　19：00～20：00）

研修日	研修名	講師	参加数		
			院内	院外	不明
4月8日	臨床倫理について学ぼう	浜谷千枝子	48	52	5
5月13日	重症患者の全身管理とケア	与座　優	51	20	2
6月10日	がん化学療法看護を学ぼう	熊本　良子	34	26	0
7月8日	患者をアセスメントするための思考を学ぼう	牛島めぐみ	48	29	0
8月5日	コミュニケーションスキルを学ぼう （対話力を高めよう）	浜谷千枝子	40	94	0
9月9日	呼吸困難の症状緩和を学ぼう	吉田奈津美 馬場　聖子	37	26	3
10月14日	標準予防策と感染経路別予防策 ～感染症発生時の感染対策を学ぼう～	入江　育美	25	17	17
11月11日	気道確保困難患者のアセスメント・ コンパートメント症候群を学ぼう	森友　高介	47	10	1
12月9日	意思決定支援を学ぼう	浜谷千枝子	58	63	8
1月13日	排尿ケアを学ぼう	大森　睦子 山口　寛文	23	7	1
2月10日	脳卒中ガイドラインの臨床への応用	野口　博嗣	48	17	2
3月10日	BPSDの原因と対応を学ぼう	宇佐　靖史 （白リハ）	29	26	2

3．法人内認定24名

領域	認定数	受講数	領域	認定数	受講数
説明支援ナース	6	3	ケア技術	6	1
皮膚ケア	4	0	脳卒中リハ看護	1	0
緩和ケア	0	0	急性期看護	3	3
感染管理	1	1	がん化学療法	3	0
NST	3	0	認知症ケア	1	0
周術期看護	3	0	糖尿病療養指導	3	
摂食嚥下障害ナース	―	1			

2025年度より、摂食嚥下障害ナースが新に新設された。

4．資格取得者

ACLS	15 名	看護管理（ファースト）	24 名
ICLS	34 名	看護管理（セカンド）	8 名
ISLS	10 名	看護管理（サード）	4 名
BLS	54 名	実習指導講習会	12 名
日本糖尿病療養指導士	2 名	新人看護職員研修責任者	4 名
福岡糖尿病療養指導士	7 名	新人看護職員教育担当者	14 名
呼吸療法認定士	5 名	新人看護職員実地指導者研修	15 名
認知症ケア専門士	3 名	医療安全管理者研修	15 名
栄養サポート	1 名	心不全療養指導士	3 名
消化器内視鏡技師	3 名	心電図検定 3 級	9 名
上級臨床倫理認定士	2 名	心電図検定 2 級	1 名
特定行為修了者	5 名	インターベーションエキスパートナース	2 名

5．看護部委員会活動

委員会名	活動目的	委員会メンバー	支援
教育委員会	看護部職員としての役割と責任を自覚し、主体的に看護実践・自己研鑽できる人材の育成を目的に､段階的な教育計画、実施、評価のプロセスを支援する	浜谷課長・楢崎課長・八尋課長・岩田主任・吉村主任・池田主任・月野主任	金子次長
退院支援委員会	看護部職員が退院支援の知識を深め、患者個々にあった支援ができるようシステムを構築する	中里課長・室井課長・田中主任・成松主任・住山主任・財津主任	
安全推進委員会	セーフティーマネジメントを推進し安全文化を醸成する	樋口課長・三島課長・吉村課長・大森主任・島本主任・松田主任・平田主任	吉野次長
感染対策委員会	院内感染対策委員会の方針に基づき部内の感染防止衛生管理の徹底・普及を推進する	ネルソン課長・筒井課長・山口課長・山下主任・中村主任・入江主任・森友主任・西主任	
看護の質管理委員会	看護過程の展開及び看護記録からケアプロセス評価を行い看護の質向上を図る（記録監査・パス・必要度）	馬場課長･三村課長･南課長･掛屋主任･松﨑主任・牛島主任・宮本主任・瀧本主任	藤田次長

6．看護部レベル別（ラダー別）研修計画及び参加実績

開催日		研修項目	参加数	備考
4月2, 3, 4, 7日	レベル新人	入職時研修	35	
5 月 8 日		1 か月フォローアップ研修（フィジカルアセスメント、ケア技術、振り返りのワーク）	35	
6 月 5 日		新人看護倫理研修	48	救命士、薬剤師、PT、OT、管理栄養士（計 13 名参加）
6 月 17 日		3 か月フォローアップ研修（急変対応）	36	※外部看護師 5 名参加
7 月 15 日		4 カ月フォローアップ研修（社会人基礎力）	35	
8 月 27 日		5 カ月フォローアップ研修（I-SBARC を使った報告、KYT）	33	
1 月 26 日		10 か月フォローアップ研修（認知症ケア）	30	新人 4 名欠席、2 年目 2 名出席
3 月 6 日		12 か月フォローアップ研修（リフレクション、看護観の発表）	32	

開催日		研修項目	参加数	備考
5月9日	レベルⅠ	第1回2年目フォローアップ研修（キャリアの考え方、生涯学習）	28	
7月22日		前年度繰越分　認知症ケア研修	28	看護師2名欠席
7月24日		第2回2年目フォローアップ研修（フィジカルアセスメント）	28	
10月28日		第3回2年目フォローアップ研修（経験値を語る）	28	
2月19日		第4回2年目フォローアップ研修（ケーススタディ発表）	26	
6月2日	レベルⅡ	看護倫理A	32	薬剤師、MSW、管理栄養士（計6名参加）
12月8日		看護倫理Aフォローアップ研修	30	薬剤師、MSW、管理栄養士（計4名参加）
3月24日		次年度教育担当者研修	21	
6月24日	レベルⅢ	看護教育研修	10	当日欠席1名
7月1日		退院支援研修	15	
9月30日		看護倫理B	15	管理栄養士、MSW（計3名参加）
7月4日	レベルⅣ	管理研修	3	
7月31日		意思決定支援研修	2	
3月13日		看護管理フォローアップ研修	2	

7．地域活動

日時	活動内容	担当者
5月17日	看護フェスタ2025実行委員（福岡県看護協会）	佐伯美穂子
5月31日	オンライン研修「定着化支援ライブ推論Q」解答者	牛島めぐみ
6月～7月	医師会看護学校非常勤講師（倫理学）	佐伯美穂子
7月30日	福岡国際医療大学認定看護師教育課程非常勤講師（チーム医療論）	八尋　裕美
8月21日	福岡市訪問看護ステーション連絡協議会研修会講師（感染対策）	山口　佐月
8月27日	福岡市医師会看護専門学校非常勤講師（マナー）	金子まりこ
9月1日	TENAオンライン臨床倫理セミナー9/1	浜谷千枝子
9月15日	福岡国際医療福祉大学認定看護師教育課程説明会（修了者メッセージ）	入江　育美
9月22日	西区・糸島地区訪問看護の会勉強会（意思決定支援）	浜谷千枝子
10月6日	講師：日本がん看護学会9地区会研修会（高齢がん患者の倫理的問題）	浜谷千枝子
10月12日	石丸地区運動会救護派遣	熊本　良子
10月26日	福岡県看護協会福岡5地区まちの保健室　住民対象のACP講師	浜谷千枝子
11月18日	福岡ハートネット病院（臨床倫理の基本を学ぼう）講師	浜谷千枝子
1月～2月	福岡市医師会看護専門学校非常勤講師（慢性期疾患の看護）	浜谷千枝子
4月～12月	NPO法人 肺がん患者の会ワンステップマンガ動画医療監修(12/20公開)	浜谷千枝子
1月～2月	NPO法人肺がん患者の会ワンステップマンガ動画医療監修　web座談会	浜谷千枝子
1月	「＃知る専」WEBサイト紙面インタビュー	石橋　采奈
1月7日	原三信病院「呼吸ケア」研修講師	牛島めぐみ
2月14日	福岡5地区支部研修会講師（認知症看護）	八尋　裕美
2月26日	福岡市博多区医師会在宅医療勉強会　ACPについて	浜谷千枝子
通年	福岡県看護協会職能Ⅰ委員会	佐伯美穂子
通年	福岡県看護連盟幹事（会計係）	金子まりこ

8．看護師養成校実習受け入れ　計 225 名

学校名	領域	期間	人数
福岡市医師会看護専門学校	基礎看護学Ⅰ	5 月 1 日～ 5 月 2 日	59 名
	老年看護学Ⅱ	5 月 13 日～ 8 月 22 日	24 名
	成人看護学Ⅰ	5 月 13 日～ 8 月 22 日	15 名
	統合Ⅱ	10 月 14 日～ 11 月 20 日	8 名
	基礎看護学Ⅱ	9 月 1 日～ 10 月 10 日	13 名
	基礎看護学Ⅰ	1 月 12 日～ 1 月 23 日	15 名
	成人看護学Ⅱ	1 月 26 日～ 3 月 6 日	13 名
福岡看護大学	統合実習	6 月 2 日～ 6 月 13 日	3 名
	成人・高齢者看護学Ⅱ・Ⅲ	9 月 22 日～ 10 月 10 日	4 名
	成人・高齢者看護学Ⅱ・Ⅲ	10 月 27 日～ 2 月 2 日	34 名
	成人・高齢者看護学Ⅰ	2 月 25 日	9 名
麻生看護大学校	基礎看護学	8 月 7 日・8 日	6 名
	成人看護学	11 月 27 日・28 日	6 名
	老年看護学	12 月 23 日・24 日	6 名
福岡県私設病院協会看護学校	成人看護学Ⅰ	7 月 14 日～ 9 月 12 日	10 名

インターンシップ受け入れ

2026 年度内定者向け

開催日	人数
2026 年 3 月 25 日（水）	14 名
2026 年 3 月 26 日（木）	16 名

2027 年度卒業見込み看護学生

開催日	参加数
2025 年 8 月 12 日（火）	18 名
8 月 19 日（火）	13 名
2026 年 3 月 18 日（水）	16 名
3 月 24 日（火）	22 名

Ⅲ：業績

学会発表

日時	学会	演題名	発表者
8 月 22 日	第 29 回日本看護管理学会	福岡県看護管理者が輝く会インフォメーション・エクスチェンジ演者	金子まりこ
9 月	がん看護（南江堂） vol30. 5. 541 ～ 548. 2025.	資料：長期入院を要する小児がん患児のきょうだい支援に関する文献レビュー	浜谷千枝子
3 月 21 日	第 13 回日本臨床倫理学会年次大会	認知症のある下肢切断を拒否する患者への対応に悩む相談者を臨床倫理コンサルテーションチームが支援した一例	浜谷千枝子
3 月 21 日	第 13 回日本臨床倫理学会年次大会	生活保護受給者の意思決定支援において関係者と価値の対立が生じた一事例	ネルソン咲子

Ⅳ：現状と展望

2025 年度は、年間を通じて看護部全体で精緻な病床管理に取り組みました。

その一環として、看護課長全員を対象に 1 週間の患者支援センター実習を企画・実施致しました。本実習を通して、地域における当院の役割を看護課長が再認識し、全病棟において重症個室および HUC を適切に運用しながら、緊急入院を円滑に受け入れる体制を構築することができました。その結果、平均入院患者数は 262. 2 名となり目標患者数を上回る高稼働を維持することができました。

また、看護補助者との協働推進および業務の見直しにより、看護師 1 人あたりの時間外労働は 2. 55 時間まで削減されました。一方で部署間にばらつきが見られるため、今後はさらなる平準化に向けて取り組んでまいります。

さらに、看護の質向上を目的として看護部ケアプロジェクトを立ち上げ、組織的にケアの充実に努めてまいりました。今度も、看護の質向上と働きやすい職場環境の整備に継続して取り組んでまいります。

作成：佐伯美穂子　確認：金子まりこ

7．薬剤部

薬剤部　部長　高津　宏典

Ⅰ：構成員

薬剤師：23 名

アシスタント：5 名（非常勤）

Ⅱ：臨床活動

1）診療報酬算定件数

薬剤管理指導料 1：3, 314 件

薬剤管理指導料 2：5, 248 件

麻薬管理指導加算：40 件

退院時薬剤情報管理料：2, 497 件

退院時薬剤情報連携加算：202 件

薬剤総合評価調整加算：41 件

薬剤調整加算：23 件

連携充実加算：650 件

がん患者管理指導料：23 件

周術期薬剤管理加算：354 件

病棟薬剤業務実施加算 1：DPC 係数 0. 0076

病棟薬剤業務実施加算 2：5, 385 件

2）業務実績

外来調剤件数：5, 083 件

入院調剤件数：150, 553 件

注射調剤件数：285, 297 件

持参薬鑑別件数：5, 512 件

抗がん剤調製件数：1, 516 件

術前休薬指導件数：1, 404 件

処方提案件数：2, 079 件（採択率：96. 9%）

疑義照会件数：748 件（採択率：85. 2%）

3）薬学部 5 年生実習受け入れ

福岡大学：3 名（8 月 18 日～ 11 月 2 日）

福岡大学：4 名（11 月 17 日～ 2 月 8 日）

第一薬科大学：1 名（8 月 18 日～ 11 月 2 日）

Ⅲ：業績

【講演】

1. 当院の薬剤部におけるタスクシフト・シェアの現状と課題
   高津宏典（病院薬剤師が行うタスクシフトシェアを考える会、福岡、2025. 6. 18）
2. デジタルツールで拓く薬剤師新時代
   高津宏典（福岡県病院薬剤師会中小病院研修会、福岡、2025. 10. 5）
3. 薬剤師が担う医薬品適正使用
   高津宏典（第 3 回　糸島エリア CKD 医療連携を考える会、福岡、2025. 10. 9）
4. 薬剤師が担う医薬品適正使用の新たな潮流
   高津宏典（DKD Web Seminar、福岡、2025. 10. 23）
5. PHR が拓く医薬品適正使用の新たな潮流–がん薬剤師外来の事例から見えたこと–
   高津宏典（山口薬剤師フォーラム、山口、2025. 11. 9）
6. 薬剤師力を磨くことを目指した教育研修　〜試行錯誤しながらの取り組む〜
   高津宏典（第 63 回福岡県病院薬剤師研修会、福岡、2025. 11. 13）
7. 薬剤師が支える医療　〜 2024 年を見据えた薬剤師の戦略〜
   高津宏典（福岡市薬剤師会薬薬連携セミナー、福岡、2025. 12. 23）
8. 病院薬剤師の視点から考える医療 DX と地域連携
   高津宏典（第 50 回保険薬局セミナー、福岡、2026. 2. 1）
9. 当院における術後疼痛管理チームの現状と課題
   濱　綾乃（第 7 回周術期薬剤業務研究会、東京、2026. 3. 6）
10. 薬剤師の視点で考える医薬品適正使用
    高津宏典（病院薬剤師セミナー、福岡、2026. 3. 13）
11. 医療 DX が拓く「薬剤師新時代」
    高津宏典（千葉県病院薬剤師会中小病院研修会、千葉、2026. 3. 16）
12. PHR が拓く「薬剤師新時代」
    高津宏典（地域連携セミナー、長崎、2026. 3. 26）

【学会発表】

1. 医療 DX による誤嚥性肺炎サポートチームの連携強化に関する活動報告
   高津宏典（第 16 回日本プライマリケア学会、札幌、2025. 6. 20）
2. 慢性腎臓病患者における服薬アドヒアランス阻害要因の探索
   内海紗良（第 19 回日本腎臓病薬物療法学術集会、東京、2025. 10. 31）
3. 当院における誤嚥性肺炎患者の嚥下機能に影響を与える薬剤の服薬状況調査
   小笹佑輔（第 35 回日本医療薬学会年会、兵庫、2025. 11. 22）
4. 服薬阻害要因スクリーニングシートを用いたアドヒアランス向上に向けた当院の取り組み
   福田　瞬（第 35 回日本医療薬学会年会、兵庫、2025. 11. 22）

【院外業務】

1. 福岡県病院薬剤師会理事　専門薬剤師研修会担当　高津宏典
2. 福岡地区勤務薬剤師会理事　学術委員会副委員長　高津宏典

3. 福岡腎と薬剤研究会　世話人　高津宏典
4. 日本老年薬学会　地域薬剤師連携小委員会委員　高津宏典
5. 福岡地区勤務薬剤師会中小病院委員会委員　中村恭子
6. 日本腎臓病薬物療法学会代議委員　内海紗良

Ⅳ：現状と課題

長崎県北の薬剤師不足は深刻化しており、同法人の佐世保中央病院においても薬剤師不足に陥っています。このため 2025 年度より佐世保中央病院への短期出向（週 2 名ずつ交代での出向）を開始しました。当面は人員不足を補うことが最大の目的となりますが、当院とは異なる医療圏での診療を経験すること、他施設の職員との交流は薬剤師としての成長のみならず社会人としての成長にも繋がるものと考えています。

医療の高度化に伴い薬剤師に求められる役割は拡大し診療報酬上で評価される業務も増えています。診療報酬の要件にアウトカム評価が追加される項目もあり、今まで以上に薬剤師の資質向上に取り組む必要があります。そこで 2025 年度から薬剤師教育プログラム充実のため、薬剤師 1 年を対象とした「臨床実務研修」を開始しました。この研修は研修医に同行し実地の診療を見学し、研修後の成果報告会を通じて薬剤師の臨床力（処方解析力、処方提案力）の向上を図ることを目的としています。また、鹿児島市内の病院 2 施設との 1 泊 2 日の人事交流も開始しました。薬剤部内での研修のみならず「臨床実務研修」や院外施設での人事交流を通じて、多角的に考える力を身に付けた社会人、薬剤師の育成になると考えています。さらに薬剤師教育プログラムの充実は薬剤師採用力の向上にもなると考えています。

2040 年に向けて医療は医療 DX や病院 DX など変革期にあります。これまで以上に時代を先読みする事が求められます。医療 DX の一環として PHR（Personal Record）サービスがありますが、現時点で活用している病院は非常に少ない状況です。将来を見据え、早期に PHR サービスを活用した業務体制の構築が必要と考え、PHR サービスを活用した薬剤業務を開始しました。今後の院内全体への水平展開に繋がるきっかけとなることを期待しています。

作成：高津宏典　確認：水之江峻介

8．放射線技術部

Ⅰ：構成員

診療放射線技師 16 名　看護師 1 名　受付 1 名　受付（アシスタント）1 名

課長：1 名

係長：1 名

主任：2 名

副主任：1 名

Ⅱ：臨床活動

【資格者一覧】

第 1 種放射線取扱主任者 2 名、マンモグラフィ撮影認定技師 2 名、MRI 専門技術者 1 名、
血管造影・インターベンション専門診療放射線技師 1 名、放射線管理士 7 名、
放射線機器管理士 7 名、医用画像情報精度管理士 4 名、X 線 CT 認定技師 2 名、
救急撮影認定技師 4 名、放射線被ばく相談員 3 名

【放射線技術部検査件数・2025 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2568	2623	2596	2589	2498	2696	2877	2550	2914	2807	2466	2798	31982
CT	1244	1320	1316	1446	1250	1350	1385	1229	1366	1341	1183	1355	15785
MRI	384	390	433	431	354	393	440	356	419	381	351	405	4737
RI	54	42	39	44	38	31	23	42	42	49	36	49	489
ANGIO	30	32	18	24	21	13	32	23	29	21	17	20	280
心カテ	35	24	36	25	30	29	31	30	31	31	50	35	387
胃透視・小腸透視	3	3	2	2	4	5	7	3	8	6	10	7	60
注腸	0	0	1	0	1	1	0	2	1	1	0	1	8
ERCP	18	27	22	26	29	24	41	29	29	24	17	25	311
ミエロ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
IVP・DIP	26	25	28	30	34	27	37	23	37	36	32	34	369
UG・CG	6	2	4	5	1	5	5	2	5	4	5	5	49
マンモグラフィ	79	67	98	77	57	88	95	73	96	67	65	84	946
術中イメージ	34	28	49	36	49	57	57	39	59	42	38	44	532
その他透視検査	29	39	34	30	37	22	36	39	39	29	22	31	387
骨密度（骨塩定量）	65	56	76	59	66	87	73	77	74	65	67	76	841
健診　胸部	0	0	1	0	0	0	6	0	1	2	0	2	12
〃　胃透視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃　マンモグラフィ	8	9	8	9	57	11	30	9	11	27	10	15	204
脳ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4583	4687	4761	4833	4526	4840	5175	4526	5161	4933	4369	4986	57380

【院外検査依頼数・2025 年度】

	C　T院外検査依頼数			ＭＲＩ 院外検査依頼数			ＲＩ 院外検査依頼数		
		総件数	依頼率(%)		総件数	依頼率(%)		総件数	依頼率(%)
4月	47	1244	3.8%	25	384	6.5%	11	32	34.4%
5月	28	1320	2.1%	20	390	5.1%	10	44	22.7%
6月	38	1316	2.9%	23	433	5.3%	8	37	21.6%
7月	38	1446	2.6%	13	431	3.0%	6	35	17.1%
8月	31	1250	2.5%	11	354	3.1%	7	26	26.9%
9月	39	1350	2.9%	21	393	5.3%	8	33	24.2%
10月	40	1385	2.9%	15	440	3.4%	5	41	12.2%
11月	21	1229	1.7%	13	356	3.7%	10	44	22.7%
12月	19	1366	1.4%	16	419	3.8%	4	39	10.3%
1月	24	1341	1.8%	11	381	2.9%	7	33	21.2%
2月	30	1183	2.5%	21	351	6.0%	9	26	34.6%
3月	48	1355	3.5%	20	405	4.9%	11	41	26.8%
合計	**403**	**15785**	**2.55%**	**209**	**4737**	**4.41%**	**96**	**431**	**22.27%**

Ⅲ：業績

○第 2 回福岡 AIS 研究会（2025 年 7 月）

・「白十字の血栓回収」（講演）前田悠葵

○第 122 回 MR 研究会（2025 年 8 月）

・「MRI 対応ディスプレイ（Sensa Vue）の使用経験 」 山口広之

○ 2025 年度白十字会放射線技術部 Institute（2026 年 3 月）

・「インシデント定量評価から見えた業務改善 」 平山健心

・「脳卒中スクランブル症例における体幹部単純 CT を用いた大動脈弓部 3D 画像の作成」
下田泰輝

・「MRI 対応ディスプレイ（Sensa Vue）の使用経験」 山口広之

Ⅳ：現状と展望

2025 年 4 月で開院 5 年目を迎え、検査総件数が過去最高となりました。今年度は「救急医療・地域医療への貢献」「DX を有効活用した業務の効率化」を目標に掲げ活動しました。

救急医療・地域医療への貢献では、当直時間帯における医師への STAT 画像（生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の所見がある画像）報告を積極的に行いました。また、原子力災害時に被ばく・汚染が疑われる傷病者の初期診療や救急医療、汚染測定、必要に応じた医療チーム派遣などを担う原子力災害医療協力機関に登録されました。来年度は、業務拡大においてすでに実践している大腸 CT 検査の肛門へのチューブ挿入、RI の薬剤投与に加えて造影剤使用時の静脈路確保も実践していきたいと考えております。また、RI 装置の更新も予定しております。

今後とも、最新の医療機器を駆使し、安全で安心かつ質の高い医療の提供を行い、患者さんをはじめとした地域の方々、他施設の方々および関わるスタッフから信頼される放射線技術部をめざして努力を継続します。

作成者：川口高志　確認：山口広之

9．臨床検査技術部

Ⅰ：構成員

＜医師＞

臨床検査科統括責任者 1 名、臨床検査科部長 1 名、病理診断科部長 1 名

＜臨床検査技師＞

・役職：部長 1 名、係長 1 名、主任 4 名

・スタッフ（役職除く）：臨床検査技師（常勤）18 名

＜看護師・准看護師＞

看護師（パート）3 名、准看護師（パート）1 名

＜臨床検査助手＞

アシスタント（パート）3 名

所有資格

超音波検査士 7 名（体表 2 名、消化器 5 名、循環器 6 名）、血管診療技師認定 1 名、乳がん検査超音波検査実施技師 2 名、細胞検査士 2 名、国際細胞検査士 1 名、認定病理検査技師 1 名、認定一般検査技師 3 名、二級臨床検査士 8 名（免疫血清 1 名、病理 2 名、血液 1 名、微生物 3 名、循環生理学 1 名）、緊急臨床検査士 7 名、福岡県糖尿病療養指導士 2 名、分析機器・試薬アナリスト検定 1 名、認定穿刺液細胞検査技師 1 名、臨床検査技師臨地実習指導者講習会修了 1 名、健康食品管理士 1 名、医療情報技師 1 名、第 2 種 ME 技術実力検定試験 1 名、特定化学物質作業主任者 2 名、有機溶剤作業主任者 1 名、毒物劇物取扱者 3 名、ICLS 蘇生トレーニング 4 名、上級救命講習修了 1 名、普通救命講習修了 2 名、タスク・シフト / シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了 11 名

Ⅱ：活動（各種件数）

＜検体検査＞

単位：件

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
生 化 学	9,310	9,154	9,226	9,265	8,632	8,726	8,880	8,136	8,976	9,151	8,157	8,854	106,467
免　　疫	4,728	4,735	4,849	5,017	4,468	4,701	4,996	4,318	4,824	4,833	4,228	4,887	56,584
血　　液	8,076	8,099	8,273	8,266	7,589	8,104	8,210	7,106	8,159	8,125	7,149	8,065	95,221
凝　　固	3,280	3,330	2,894	3,021	2,710	2,585	2,912	2,776	2,773	2,937	2,768	2,717	34,703
一　　般	4,230	3,955	3,900	4,039	3,534	3,922	4,099	3,476	3,905	3,891	3,571	4,147	46,669
輸　　血	591	592	564	644	518	561	634	511	667	573	519	663	7,037
外　　注	1,350	1,008	1,261	1,248	1,060	1,001	1,237	814	1,083	949	839	1018	12,868
微 生 物	838	845	920	999	952	977	811	879	1,002	919	786	799	10,727
病理組織	328	351	309	351	266	290	355	291	323	262	271	354	3,751
細 胞 診	50	56	45	56	48	64	49	82	65	61	70	67	713
合　　計	32,781	32,125	32,241	32,906	29,777	30,931	32,183	28,389	31,777	31,701	28,358	31,571	374,740

＜血液製剤使用数＞

単位：単位数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
R　B　C	316	300	238	194	188	164	248	162	340	310	216	286	2,962
F　F　P	88	80	68	70	110	36	88	26	64	134	56	188	1,008
P　　C	90	110	210	170	80	30	150	100	80	280	130	230	1,660
自 己 血	12	6	6	0	10	6	6	4	10	6	29	6	101

＜血液製剤廃棄率＞

単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平　均
R　B　C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.3	0.0	1.2	0.0	0.0	0.3
F　F　P	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
P　　C	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
自 己 血	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

＜新型コロナウイルス遺伝子検査＞

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
L A M P	0	4	26	22	20	2	0	2	5	0	0	0	81
P　C　R	192	162	214	273	312	264	217	239	244	207	187	162	2,673
合　　計	192	166	240	295	332	266	217	241	249	207	187	162	2,754

＜病理組織＞

年　度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
外来件数	1,184	850	1,024	877	1,091	1,210	1,407
入院件数	1,778	1,789	1,930	1,945	2,009	2,038	2,344
外注件数	20	13	15	26	23	34	33
合　計	2,982	2,652	2,969	2,848	3,123	3,282	3,784

＜細胞診＞

年　度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
外来件数	259	199	339	305	281	236	447
入院件数	194	196	233	238	275	211	266
合　計	453	395	572	543	556	447	713

＜病理解剖＞

年　度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
剖検数	2	0	4	1	1	2	1
剖検率	0.78%	0.00%	2.09%	0.49%	0.43%	0.92%	0.52%

剖検番号	剖検日	科・病棟	診療科	年齢	性別	主病名
HA-26-01	2026.02.03	救急センター	糖尿病内科	47	F	急性肺動脈血栓塞栓症、結腸憩室症

＜ CPC（Clinicopathological Conference）＞

開催回	開催日	司会	執刀医	主治医	診療科	参加者数
第 43 回	2025.12.26	大谷　博	大谷　博	板東　翔	心臓血管内科	27 名

＜生理機能検査＞

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
心電図	841	888	839	958	755	834	912	786	847	885	835	884	10,264
トレッドミル	2	3	2	2	4	1	2	3	3	8	9	3	42
ホルター心電図	38	29	45	41	39	30	53	33	40	44	32	49	473
心臓超音波	299	325	346	350	274	323	361	287	325	318	294	343	3,845
経食道超音波	5	5	5	4	3	4	5	4	4	7	5	5	56
腹部超音波	244	237	284	265	201	263	265	259	289	268	220	334	3,129
乳腺超音波	113	103	129	93	82	113	143	97	141	90	95	134	1,333
他表在超音波	13	15	12	15	13	23	15	17	16	7	10	11	167
頸動脈超音波	87	80	93	98	77	79	94	82	82	93	78	97	1,040
他血管超音波	41	59	53	65	60	67	73	46	68	56	51	51	690
脳波	6	17	24	13	12	11	18	14	12	11	16	23	177
肺機能	6	8	6	5	5	5	10	6	12	7	5	11	86
自律神経	4	6	4	7	4	4	7	1	5	5	5	1	53
ABI	60	80	71	80	51	65	65	71	72	59	70	66	810
SPP	5	0	0	2	5	2	2	0	2	2	5	4	29
24 時間血圧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CPX	2	3	2	2	3	1	3	4	3	2	2	7	34
合　計	1766	1,858	1,915	2,000	1,588	1,825	2,028	1,710	1,921	1,862	1,732	2,023	22,228

＜臨地実習・施設見学＞

1. 国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科 3 年次生　4 名
   2025 年 9 月 29 日～ 11 月 28 日（42 日間）
2. 純真学園大学検査科学科 3 年次生　2 名
   2025 年 11 月 25 日～ 2025 年 1 月 30 日（43 日間）
3. 純真学園大学検査科学科 1 年次生　9 名
   2025 年 2 月 26 日

Ⅲ：業績

発表・講演

報告会

1. 解析報告（尿）：尾上由美（第 54 回福岡県医師会臨床検査精度管理調査結果研修会、九州大学医学部百年講堂、福岡、2026. 2. 1）

座長

1. 一般口演 13：尾上由美（第 74 回日本医学検査学会 Tottori in Osaka、グランキューブ大阪・大阪国際会議場、大阪、2025. 5. 10–11）

症例検討

1. 症例検討　石灰化病変 2 例：古賀晶子（第 29 回九州乳房超音波研究会、アステム ME 福岡支店、福岡、2025. 6. 7）

法人内発表

1. XN-3100 における IG Present フラグ出現閾値最適化の検討：不老飛翔（第 19 回白十字会臨床検査研究会（第 12 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地＋ Web 開催、佐世保中央病院、佐世保、2026. 2. 21）
2. NT-proBNP と左室駆出率（EF）の結果解釈の課題と評価方法についての検討：大川実姫（第 19 回白十字会臨床検査研究会（第 12 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地＋ Web 開催、佐世保中央病院、佐世保、2026. 2. 21）
3. Diagnostic stewardship に基づく便培養 3 日ルールの有用性の検討：島元悠人（第 19 回白十字会臨床検査研究会（第 12 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地＋ Web 開催、佐世保中央病院、佐世保、2026. 2. 21）

関連団体活動

1. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　運営理事　管理運営部長　森　健一
2. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　福岡地区　副地区長　森　健一
3. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　臨床一般部門　部門長　尾上由美
4. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　福岡地区　臨床一般部門　副部門長　尾上由美
5. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　福岡地区　臨床検査総合部門　副部門長　森　健一
6. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　総務・発送部会　委員　森　健一
7. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会　総務・発送部会　委員　不老飛翔
8. 公益社団法人福岡県病院協会　臨床検査委員会　委員長　森　健一
9. 福岡県医師会臨床検査精度管理調査解析委員会　解析委員　尾上由美
10. 九州乳腺超音波研究会　世話人会計担当　古賀晶子

Ⅳ：現状と展望

臨床検査技術部では、患者さんの一日も早い社会復帰のために、正確かつ迅速な検査結果・情報を提供し、医療チームの一員として業務にあたることを基本目標としている。引き続き、業務改善を推進し各スタッフが一つの領域だけでなく、二つ目三つ目の領域で業務ができるように進めている。スタッフ不足時にフォローが可能となるだけでなく、スタッフ個人の視野も広がる環境を提供している。

今年度は特に、生理検査では退職や育児休暇取得により人員不足となったが、担当スタッフの努力により超音波実施件数を増加させることができた。今後も、各領域で実施できるスタッフを育成しながら互いにサポートし合い診療へ貢献していく。

昨今、材料費高騰、光熱費上昇、物流費値上げ等による検査試薬や医療材料の値上げも続いており、全国の医療施設が厳しい時期である。病院の大きな目標である経費適正化・コスト削減を当部門でも実践している。業務運用の見直し、検査試薬材料などの変更等により効果を出すことができた。

各診療科では、手術、救急、治療など高度な医療提供が増加してきており、当部門でも臨床へ貢献できるように体制を強化し対応していきたい。件数や業務量も年々増加しており、来年度も引き続き、質の向上・業務改善・効率化・コスト削減に努め、より良い効果的な臨床検査の提供を目指す。今年度進まなかったタスク・シフト／シェアへ向けて新たな業務へもチャレンジしていきたい。

作成：森　健一　確認：尾上由美

10. 臨床工学部

Ⅰ：構成員

臨床工学技士 17 名

助手 3 名

Ⅱ：臨床活動

当部門では、臨床技術提供を目的とした、血液透析業務（透析センター）、医療機器の安全管理を目的とした、ME 機器管理業務、手術室業務（人工心肺、スコープオペレーター）、心臓カテーテル検査業務（アブレーション含む）、急性期血液浄化業務（ICU）、人工呼吸器関連業務（ICU）、ペースメーカー管理業務、内視鏡業務、睡眠時無呼吸症候群管理業務等を行っている。

【資格者一覧】

体外循環認定士 2 名、呼吸療法認定士 4 名、認定血液浄化臨床工学技士 2 名

Ⅲ：業績

学会発表（日付、題名、名前、学会名（場所））

1. 2026. 1. 17　心房センシング不全に対して感度設定を変更した 1 例
　渡久地風冬　第 20 回九州沖縄臨床工学会（別府国際コンベンションセンター）
2. 2025. 11. 30　透析患者の Hb 濃度上昇を透析回路から早期発見する
　井手滉輔　第 57 回九州人工透析研究会総会（熊本城ホール）

Ⅳ：現状と展望

今後、安全な医療機器、医療技術の提供とともに専門性を生かすためチーム力、技術力アップ標準化を図り院内および地域に高度な医療を提供する。

また、DX 化の推進と医師、看護師業務のタスクシフト / シェアの推進を行い業務効率、安全性の向上に努めていきたい。

作成：小川憲太朗　確認：浦田英明

業務記録

【アフェレーシス療法　対応実績】

CHDF	PMX	CART	GCAP	PE
64 件	4 件	23 件	16 件	7 件

【透析業務シャントエコー　対応件数】

件数	44 件

【ME 機器　稼働実績】

IPPV	NPPV	NHF	輸液ポンプ	シリンジポンプ	経腸栄養ポンプ	低圧持続吸引機	パルスオキシメータ
36%	21%	32%	56%	43%	40%	28%	18%

【PM チェック業務　対応実績】

件数	404 件

【SAS 業務　対応実績】

件数	80 件

11. リハビリテーション部

Ⅰ：構成員

理学療法士：26 名（内：パート職員 2 名）　作業療法士：16 名（内：パート職員 1 名）
言語聴覚士：9 名（内：パート職員 3 名）　リハ助手　：2 名（内：パート職員 1 名）
合計：53 名

Ⅱ . 臨床活動

・概要

当部門では、超急性期から在宅復帰までの一貫したリハビリテーション提供体制を構築し、患者の機能回復と早期社会復帰を支援している。本年度も ICU・SCU・急性期病棟における早期離床・早期介入を基盤としつつ、地域包括ケア病棟における退院支援機能の強化、ならびに多職種連携による包括的アプローチの拡充に注力した。

・リハビリテーション栄養口腔連携体制加算に向けた取り組み

リハビリテーション栄養口腔連携体制加算の算定に向け、脳卒中病棟を中心とした多職種連携体制の構築を進めた。発症早期からのリハビリテーション介入に加え、管理栄養士・歯科衛生士等と協働し、栄養状態の評価と適切な栄養管理、口腔機能評価と口腔ケアを統合した包括的アプローチを実践した。また、勤務体制およびシフトの見直しを行い、休日においても可能な限り平日と同等の介入頻度を確保することで、週を通じて安定したリハビリテーション提供体制の構築を図った。

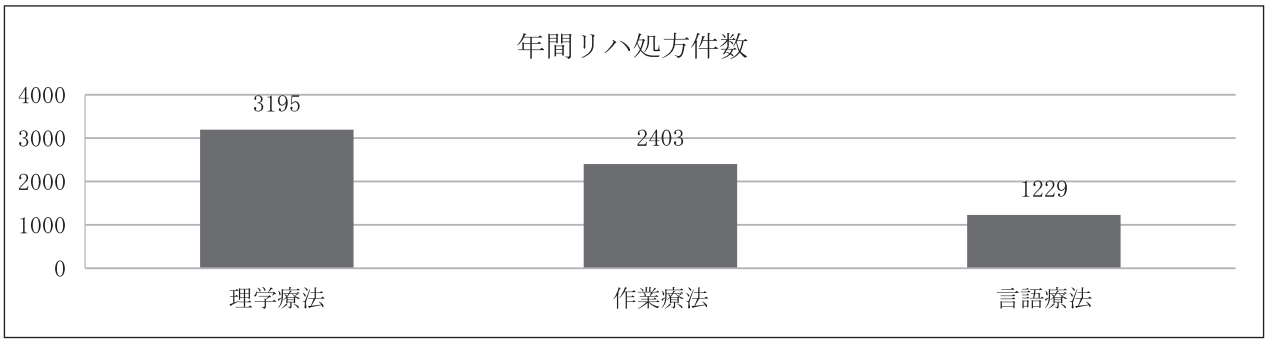
・専門領域別リハビリテーション

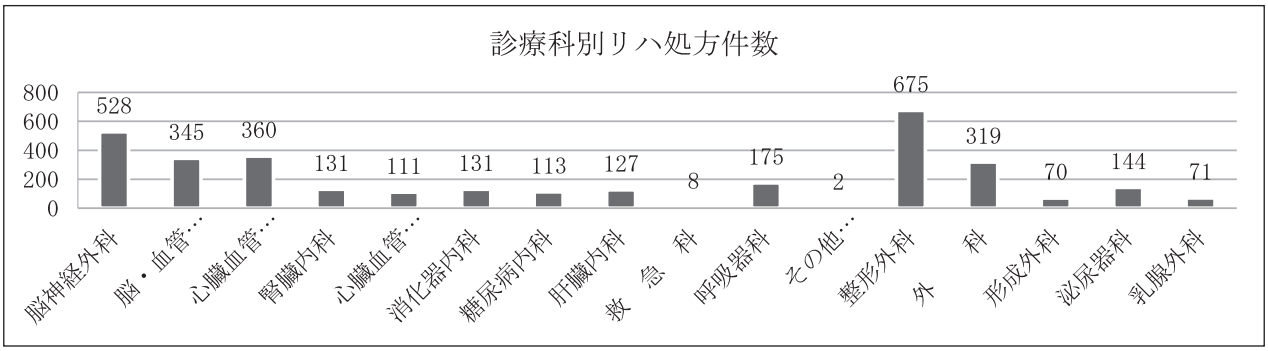
脳血管疾患をはじめ、様々な疾患に対して HAL® 医療用単関節タイプと HAL® 腰タイプ自立支援用を用いたリハビリテーションを実施した。使用スタッフの負担軽減目的でアタッチメントの組み立て動画やトラブル対応について LINE　WORKS 内で共有し、いつでも閲覧できるようにした。

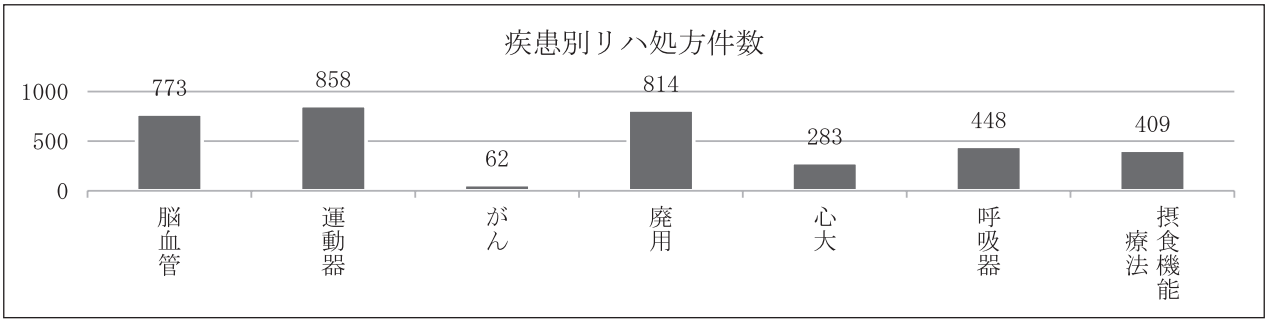
心臓リハビリテーションにおいては、心肺運動負荷試験（CPX）を用いた客観的な運動耐容能評価に基づき、患者個々の病態に応じた適切な運動処方とリハビリテーションを提供した。さらに、退院後の二次予防および身体活動量の維持・向上を目的として、外来における集団リハビリテーションを継続的に実施し、入院から外来までシームレスな支援体制を構築している。

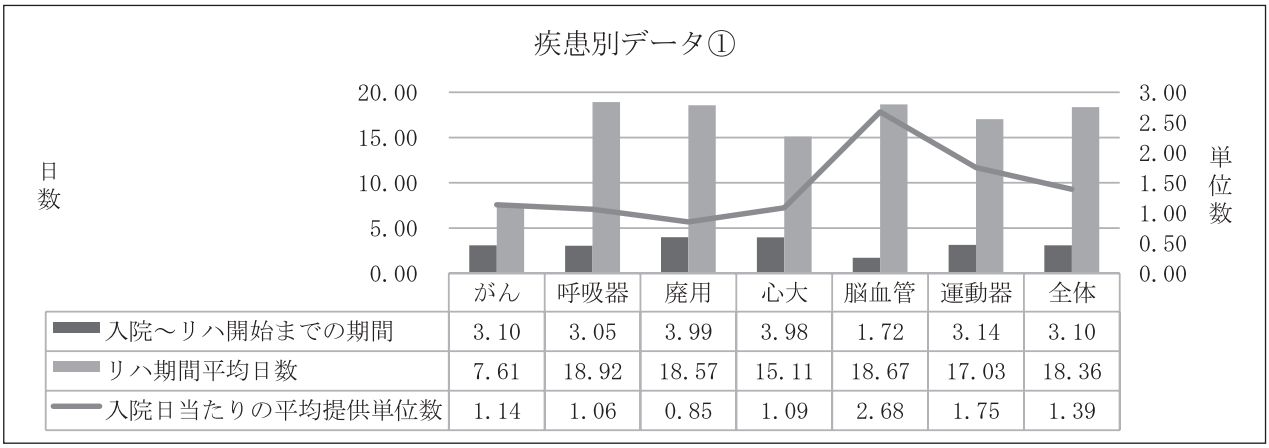
Ⅲ : 業績

【疾患別リハビリテーション】

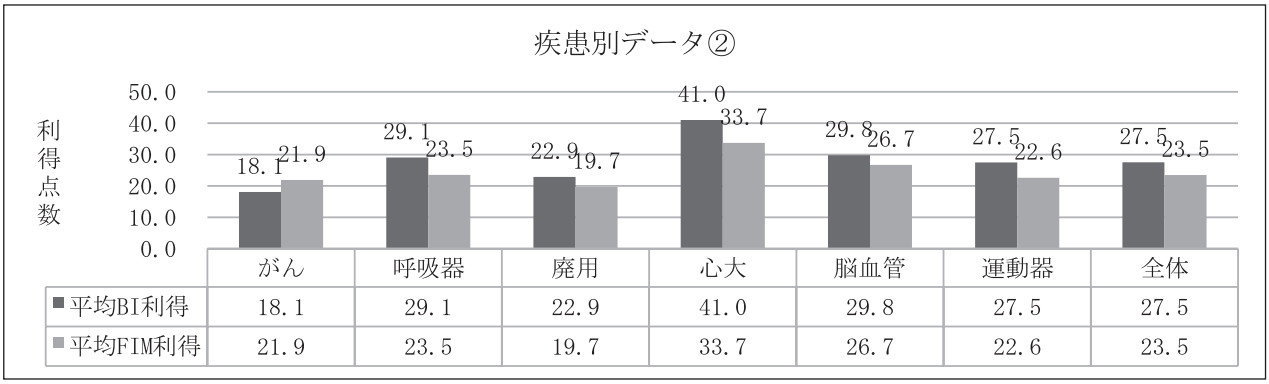








	がん	呼吸器	廃用	心大	脳血管	運動器	全体
入院～リハ開始までの期間	3.10	3.05	3.99	3.98	1.72	3.14	3.10
リハ期間平均日数	7.61	18.92	18.57	15.11	18.67	17.03	18.36
入院日当たりの平均提供単位数	1.14	1.06	0.85	1.09	2.68	1.75	1.39



	がん	呼吸器	廃用	心大	脳血管	運動器	全体
平均BI利得	18.1	29.1	22.9	41.0	29.8	27.5	27.5
平均FIM利得	21.9	23.5	19.7	33.7	26.7	22.6	23.5

【地域包括ケア病棟　リハビリテーション処方患者】

リハビリテーション対象患者数	632 名
提供単位数	2.2 単位
在宅復帰率	75.1%

【その他】

項目	合計
早期離床・リハビリテーション加算	2,924 件
リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算	7,844 件
HAL® 医療用単関節タイプ HAL® 腰タイプ自立支援用	症例数 92 名　実施 388 件
心肺運動負荷試験（CPX）	33 件

【学会発表】

1. 大腿骨近位部骨折術後鎮痛剤の差異が胃肝機能、炎症、歩行に及はす影響：三浦毅洋、坂本翔平（第 13 回運動器理学療法学会学術大会、大阪、2025. 11）
2. 脳卒中急性期で複数の関節に対して HAL® 医療用単関節タイプを使用し、早期に補助手を獲得した一例：公文達也、谷口由香理、田代千春、古賀研人、井上　亨（第 6 回九州 HAL 愛好会、福岡、2025. 4）

【新規資格取得者一覧】

2025 年度　新規取得資格

- BLS　2 名
- 離床プレアドバイザー　1 名
- 心不全療養指導士　1 名
- 実践 CI 療法講習会　1 名
- 脳卒中下肢装具アドバイザー　1 名

Ⅳ：現状と展望

本年度は、急性期から在宅復帰までの連続性を意識した質の高いリハビリテーション提供に加え、多職種連携、休日提供体制、外来支援といった複数の側面から体制強化を進めた。今後も、エビデンスに基づく介入と包括的アプローチを通じて、患者の QOL 向上と地域医療への貢献に取り組んでいく。

作成：福井　哲　確認：谷口由香理

12. 栄養管理部

Ⅰ：構成員

管理栄養士 11 名

Ⅱ：臨床活動

① 2025 年度　栄養指導件数（2025 年 4 月～ 2026 年 3 月）

	集団指導（糖尿病・腎臓病教室）				個人指導（非加算含む）	糖尿病療養支援外来（非加算含む）	透析予防指導（糖尿病・腎）	合計
	開催クール数		実施件数					
		延べ実施回数	（非加算含む）	延べ人数				
4 月	1	6	2	12	126	62	7	197
5 月	2	7	9	30	132	57	5	203
6 月	0	0	0	0	133	80	2	215
7 月	2	7	10	19	126	63	7	206
8 月	1	6	2	12	98	56	8	164
9 月	1	1	5	5	118	57	5	185
10 月	1	1	2	2	125	88	7	222
11 月	1	1	7	7	105	56	7	175
12 月	0	0	0	0	127	61	7	195
1 月	1	2	3	3	103	61	9	176
2 月	1	5	5	25	126	54	7	192
3 月	1	1	2	2	123	64	6	195
合計	12	37	47	117	1,442	759	77	2,325

【個人栄養指導内訳】

糖尿病	1,327 件（ 60. 3）	肝疾患	7 件（ 0. 3）
脂質異常症	43 件（ 2. 0）	胃切	24 件（ 1. 1）
高血圧	295 件（ 13. 4）	胃・十二指腸潰瘍	7 件（ 0. 3）
腎疾患	165 件（ 7. 6）	低栄養	1 件（ 0. 1）
透析	162 件（ 7. 5）	嚥下障害	11 件（ 0. 5）
膵炎	5 件（ 0. 2）	がん	10 件（ 0. 5）
イレウス	7 件（ 0. 3）	その他	74 件（ 3. 4）
肥満	63 件（ 2. 9）	合計	2,201 件（100. 0）

② 1ヶ月あたりの給食食数（食）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	一般食	10,067	11,209	9,893	9,592	10,092	9,651	10,884	10,300	9,778	10,081	8,669	9,977	120,193
	ハーフ食	834	1,120	1,131	893	787	658	796	571	806	1,218	750	1,200	10,764
	濃厚流動食	1,614	1,082	1,554	1,584	1,675	1655	1,679	1,720	1,712	1,443	1,060	1,604	18,382
	合　計	12,515	13,411	12,578	12,069	12,554	11,964	13,359	12,591	12,296	12,742	10,479	12,781	149,339
特　別　食		8,191	7,560	8,517	8,627	9,621	9,135	8,601	8,540	9,019	9,571	9,881	8,711	105,974
外来透析食		68	75	75	80	91	78	58	49	55	53	45	54	781
合　　計		20,774	21,046	21,170	20,776	22,266	21,177	22,018	21,180	21,370	22,366	20,405	21,546	256,094
特別食比率		39.6%	36.0%	40.4%	41.7%	43.4%	43.3%	39.2%	40.4%	42.3%	42.9%	48.5%	40.5%	41.5%

●月平均（食）

一般食：　12, 445
特別食：　8, 831
外来透析：　65
合計（月平均）21, 341

Ⅲ：業績

学会発表：なし

Ⅳ：現状と展望

2025年4月白十字病院は新人2名を含む11名体制でスタートしたが、翌1月に1名退職に伴い3月より1名補充し再スタートとなった。合わせて1名3月より産休に入った為、次年度は10名体制であることが確実となり、業務担当振り分け、変更等を行い次年度へスムーズに移行できるよう体制を整える必要が生じた。

また業務拡大としICU・SCUでの早期栄養介入管理加算取得を目標にシステム及び体制作りを開始し、次年度早々に算定開始できるよう担当者を中心に取り組みを行った。栄養指導件数は全体として個人栄養指導は若干増加傾向ではあったものの、入院時個人栄養指導が伸びなかった為、入院患者に対するアプローチや対象患者抽出方法など次年度への課題としたい。給食管理では患者満足度目標3.0点を概ね達成。今後も安定した給食管理及び業務効率化を更に図っていくとしたが、次年度給食委託会社との契約内容見直しなど業務分担や内容について検討した為、次年度以降はインシデントが起きないよう細心の注意を払い取り組んでいく必要がある。

当院電子カルテ内給食オーダリングシステムと給食支援システム（外部）との連携を進め、12月に給食オーダリングと給食支援システムの連動が稼働開始となり、大幅な業務改善に繋がった。引き続きインシデントが起こらないよう業務改善やマニュアル見直しを進めていく。

作成：島井里佳　確認：眞次亮弥

■栄養サポートチーム（NST）

Ⅰ：構成員

● NST コアメンバー（内訳）

医局	3 名
看護部	1 名
法人内認定看護師	3 名
薬剤部	1 名
検査部	1 名
リハビリ部	1 名
栄養管理部	4 名
事務部	1 名

Ⅱ：臨床活動

【NST 回診状況】

●介入症例数及び延べ回診者数（2025 年 4 月～ 2026 年 3 月）

回診回数	50 回
新規介入症例数	473 名
延べ回診者数	1,160 名
NST 加算算定件数	878 件
効果・改善あり	23.2%

【病棟別介入症例数】

ICU	SCU	4 北	4 南	5 北	5 南	6 北	6 南	計
27	19	104	71	60	62	97	21	473

（件）

【NST 講座（全職員・地域医療従事者対象講座）】

演題名「リハ薬剤の視点を含めた多職種による食欲低下と体重減少の臨床推論の実践」

講師 原土井病院 薬剤部 中道真理子先生

参加者：36 名（白十字リハビリテーション病院含む）・外部 13 名…計 59 名

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

NST 新規介入症例数は 473 例、延べ介入患者数 1,160 例、うち NST 加算算定件数 878 件（表参照）。年度内に管理栄養士、薬剤師各 1 名が 40 時間の実地研修を終了しており、引き続きチームの質向上を目指していく。また栄養に関する啓発活動の一環として実施している NST 講座を地域医療機関向けにオープン形式で開催。外部講師を招聘し、法人内外から多数の方に参加いただいた。今後も NST の質向上や院内外での研修会開催や NST 活動を通じて栄養に関する啓発活動を強化し、病院全体の栄養に対する意識向上を目指していきたい。

作成：島井里佳　確認：眞次亮弥

13. 眼科技術部

眼科技術部係長　岩﨑　聡

Ⅰ：構成員

視能訓練士３名

Ⅱ：臨床活動

【2025 年度　眼科技術部検査件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
矯正視力検査	291	261	247	249	241	237	241	228	54	190	242	195	2676
眼鏡処方箋交付	1	0	2	5	2	3	1	1	1	0	1	1	18
屈折検査	108	88	78	112	91	86	90	79	66	53	94	61	1006
角膜曲率半径計測	98	81	78	113	91	87	91	79	66	53	94	61	992
精密眼圧測定	294	247	248	249	243	239	238	230	235	190	243	195	2851
眼底三次元画像解析	147	149	117	119	128	115	120	110	130	84	117	94	1430
光干渉断層血管撮影	5	6	4	1	2	4	1	1	1	1	1	1	28
前眼部三次元画像解析	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
眼底カメラ撮影	77	36	34	45	34	34	39	38	44	29	44	30	484
静的量的視野検査	17	15	16	15	10	10	14	14	9	9	12	17	158
動的量的視野検査	9	11	15	11	6	10	10	15	13	15	15	16	146
角膜内皮細胞顕微鏡検査	14	18	9	17	10	13	11	8	9	8	5	4	126
光学的眼軸長測定	5	6	2	9	2	8	5	2	3	4	3	1	50
超音波検査（Aモード法）	2	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	11
超音波検査（Bモード法）	2	1	0	3	6	1	4	0	0	3	2	1	23
網膜電位図	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	5
眼球運動精密検査	5	5	5	2	4	5	4	5	5	5	8	2	55
蛍光眼底造影検査	3	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	6
自発蛍光眼底カメラ撮影	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
角膜形状解析検査	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
精密視野検査	2	2	2	1	2	2	3	3	2	0	0	0	19
調節検査	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
中心フリッカー試験	1	2	2	0	2	2	2	1	3	0	0	1	16
全視野精密ERG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多局所網膜電位図	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4
視覚誘発電位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
小型網膜電位計（DR判定）	7	7	8	13	9	3	10	3	6	4	4	5	79
涙液分泌機能検査	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
眼球突出度測定	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
色覚検査	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	6
アデノウイルス抗原精密測定	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
ロービジョンケア	1	1	2	1	0	1	1	2	1	0	3	0	13
合計	1099	937	874	969	887	865	888	821	652	651	896	688	10227

Ⅲ . 業績

令和７年度視能訓練士ロービジョンケア研修会　ファシリテーター

Ⅳ：現状と展望

糖尿病合併症である糖尿病網膜症進行を予防するべく、積極的に糖尿病内科医師と情報共有を図り、糖尿病入院患者への糖尿病網膜症スクリーニング検査を 52 件実施した。

緑内障に関しては視野検査結果や眼圧値、治療歴等をデータ化し、病勢の把握や予後予測に役立てることを目的にデータ解析に取り組んだ。

医療安全に関する取り組みを重点課題としてあげ、院内の医療安全管理研修会受講者を中心に事例検討や KYT を実施した。

ロービジョンケアとは､視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援の総称である。発達・成長期にある小児に必要なハビリテーションあるいは主に成人の中途障害に対応するリハビリテーションを目的とし、よりよく見る工夫、視覚以外の感覚の活用、情報入手手段の確保、その他の生活改善、進路の決定、福祉制度の利用、視覚障害者同士の情報交換等ができるよう情報提供し、諸種の助言、指導あるいは訓練を行うことである。

2025 年度は延べ 12 回ロービジョンケアを実施し、視覚に障害がある患者の Quality Of Vision Life（視的生活の質）の維持・向上の助けとなるべく活動してきた。

作成：岩﨑　聡　確認：岩﨑　聡

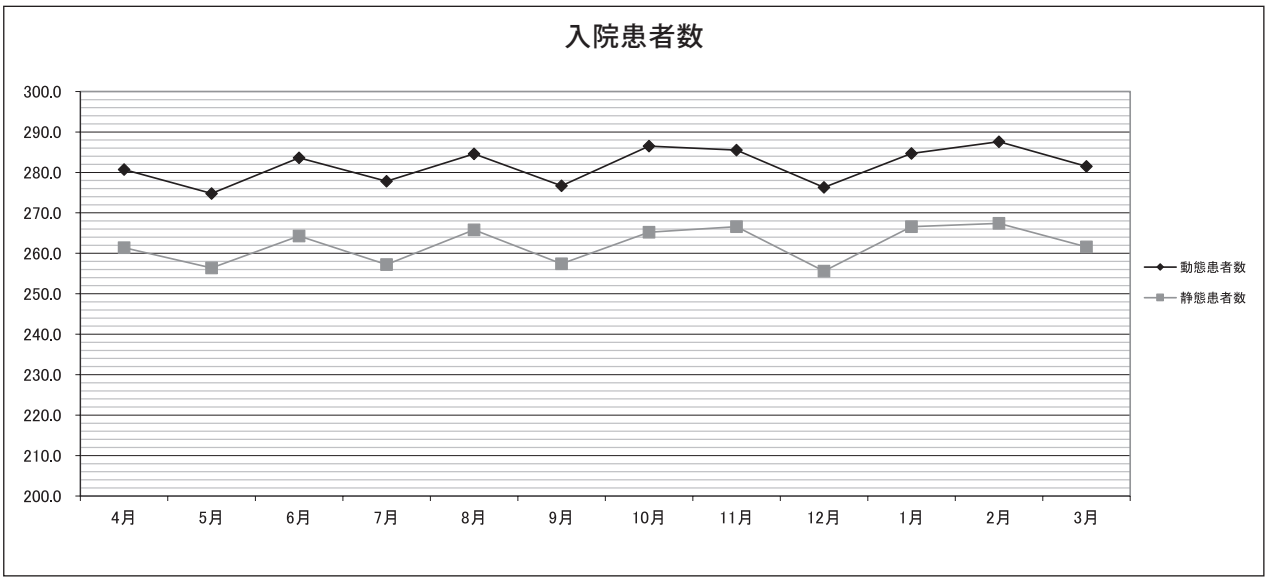
14. 事務部門

【入院動態患者数（退院を含む）】 （人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	稼働率
280.7	274.8	283.6	277.8	284.6	276.7	286.5	285.5	276.3	284.7	287.6	281.5	281.6	99.9%

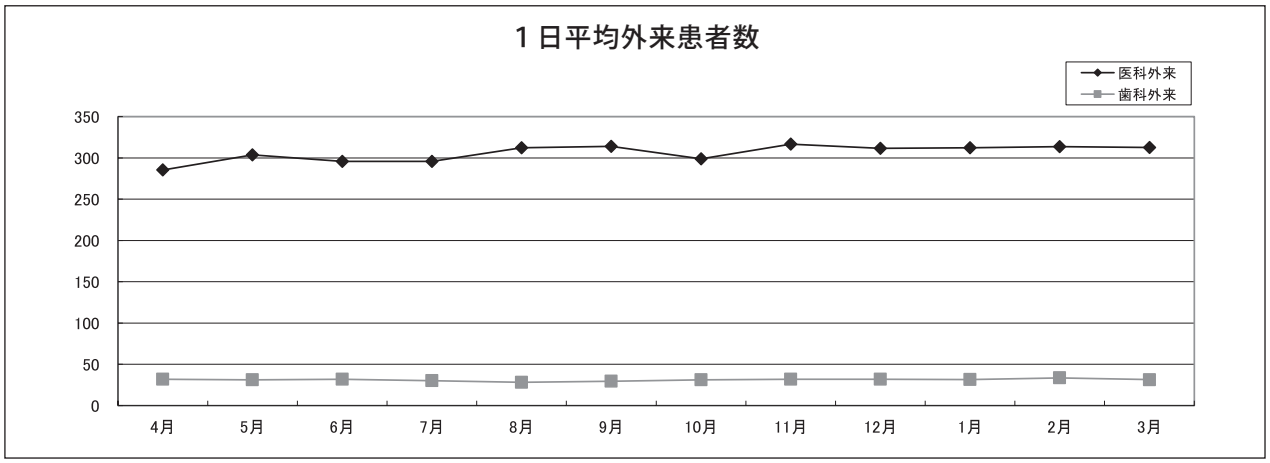
【入院静態患者数】 （人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	占床率
261.4	256.4	264.3	257.2	265.8	257.4	265.2	266.6	255.6	266.6	267.4	261.6	262.1	92.9%



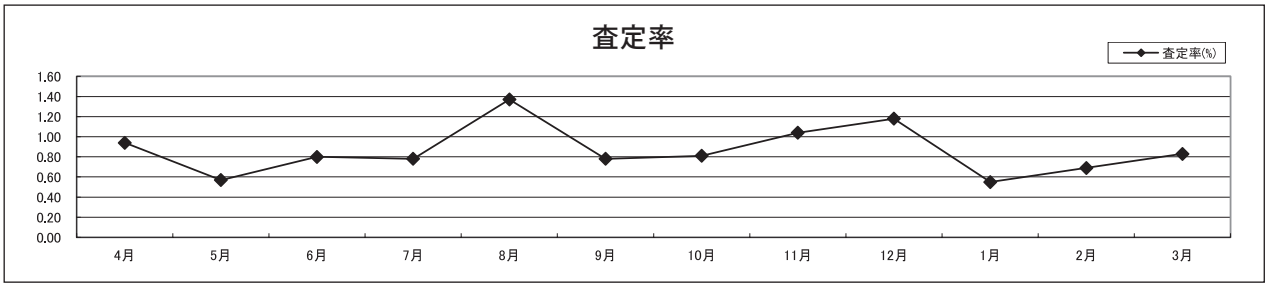
【１日平均外来患者数】 （人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	285.3	303.8	295.7	295.6	312.4	314.1	299.0	316.6	311.5	312.4	313.6	312.5	305.6
歯科外来	32.0	31.3	32.0	30.3	28.2	29.6	31.3	31.9	32.0	31.6	33.5	31.4	31.2



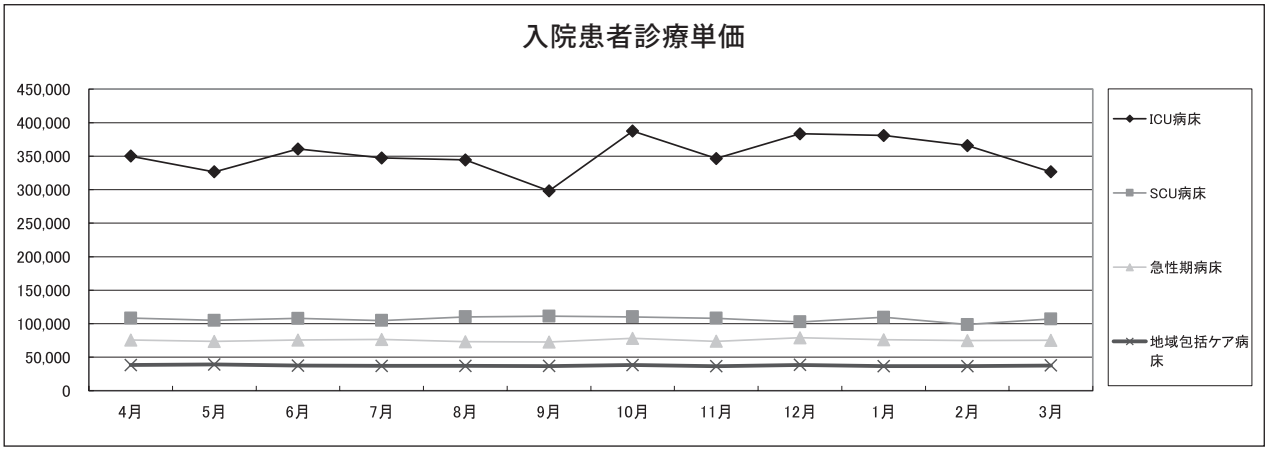
【診療報酬に対する査定率】 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
査定率(%)	0.94	0.57	0.80	0.78	1.37	0.78	0.81	1.04	1.18	0.55	0.69	0.83	0.86



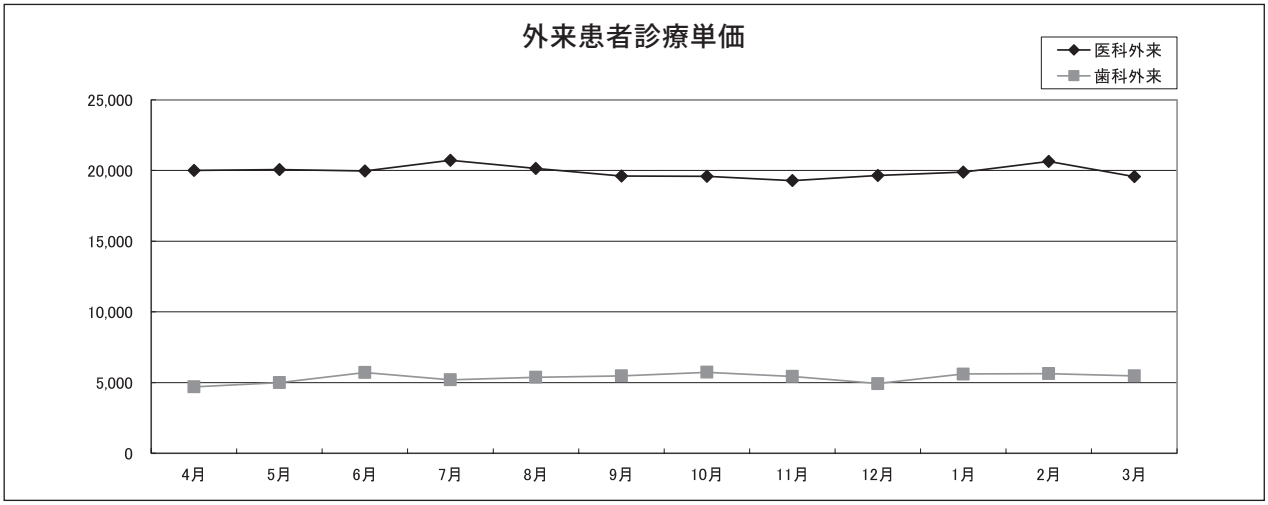
【入院患者診療単価】 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ICU病床	350,011	326,619	360,860	347,308	344,323	298,219	387,401	346,394	383,382	381,010	365,849	326,542	351,943
SCU病床	108,443	104,891	107,867	104,769	110,277	111,254	110,245	108,153	102,682	109,753	98,849	107,036	107,057
急性期病床	75,501	73,665	75,650	76,332	73,196	72,687	78,005	73,733	79,066	76,082	74,897	75,120	75,342
地域包括ケア病床	38,200	39,214	37,624	36,932	36,934	36,894	38,196	36,541	38,524	36,552	36,758	37,733	37,514
平均	67,488	63,835	66,572	70,352	63,471	62,722	70,356	67,694	68,662	66,087	66,741	68,365	66,948



【外来患者診療単価】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	20,002	20,073	19,963	20,724	20,138	19,601	19,591	19,283	19,645	19,881	20,636	19,567	19,920
歯科外来	4,696	4,997	5,720	5,199	5,369	5,470	5,725	5,442	4,926	5,602	5,626	5,480	5,350



作成：宮﨑由佳　確認：山田佳代

【2025 年度　主要医療機器・環境設備等導入一覧】

部　門	機　器（具）名
腎臓内科	透析用監視装置
乳腺外科	RFA ジェネレーター COOL-TIP
歯科口腔外科	オサダサージェリーサクセス Ip
麻酔科	CADD Solis PIB ポンプ
	超音波画像診断装置
医療安全管理委員会	インシデントレポート報告システム
災害対策委員会	半自動除細動器
外来運営委員会	リクライニングチェア
看護部	ユカリアタッチバイタル測定器連携機能システム構築
	インターネット用 PC
	ベッド・ベッド柵・オーバーテーブル
	ベッドパンウォッシャー
臨床工学部	血液粘弾性測定装置
	可搬型人工呼吸器パラパック
	輸液ポンプ
放射線技術部	CD（DVD）出力機・出力ｿﾌﾄ・主力用 PC
	3D 医用画像ワークステーション
臨床検査技術部	インターネット用 PC
	感染防止付クリオスタット
施設課	蒸気ボイラー
医療情報本部システム開発室	電子カルテ更新（仮想基盤更新）
	HOMES デスクトップ PC
	HOMES ノート PC
	内線用スマートフォン

（概ね、購入金額が 100 万円を超えたもの）

作成：長友信明　確認：田嶋夏実

15．安全管理部

安全管理部 看護部課長　吉村　節子

Ⅰ：構成員

医師　1名
薬剤師 1名
看護師 2名
理学療法士 1名
事務　2名

Ⅱ：臨床活動

【施設基準】

医療安全対策加算 1　医療安全対策地域連携加算 1

【2025 年度目標】

職員の安全に対する関心を向上させ、組織全体で安全な医療の提供に取り組むことができる。

【活動内容】

◇医療安全研修

- 新任医師オリエンテーション（4 月、6 月、10 月 ）　参加者：27 名
- 新入職時研修　参加者：61 名
- 看護部新入職時研修　参加者：39 名
- 医療安全管理研修開始（A コース 5 回開催：6 月～ 10 月）　参加者：18 ～ 23 名
- 中途採用者研修（5 月、9 月、1 月）　参加者：12 名

◇セーフティワーキンググループ活動

- 会議　第 4 金曜日開催
- 7 月「安全・安心いっぱい！月間」

  病院テーマ：規則と手順　決めて　守って　見直して　いざ　実践！

  病院テーマをもとに各部門・部署でテーマを決め取り組んだ。

  また、テーマに沿った安全カルタを作成し、投票を行った。

  1 位：看護部 4 階北病棟　　2 位：薬剤部　　3 位：診療部
- 12 月「安全・安心いっぱい！月間」

  病院テーマ：凡事徹底！

  病院テーマをもとに各部門・部署でテーマを決め取り組んだ。

  その取り組みを下記の日程で「医療安全学術集会」を開催した。

  日時；2026 年 2 月 14 日（土）9 時～ 12 時

  場所；いきいきホール 1・2、会議室 1・2

  演題数：28 演題

  参加者；146 名

◇事例検討会　11 回開催

◇白十字グループ安全管理協議会活動

◇医療安全対策地域連携

・医療安全対策加算Ⅰ－Ⅰ連携

公立学校共済組合九州中央病院、医療法人西福岡病院、
医療法人博仁会福岡リハビリテーション病院、社会医療法人大成会福岡記念病院

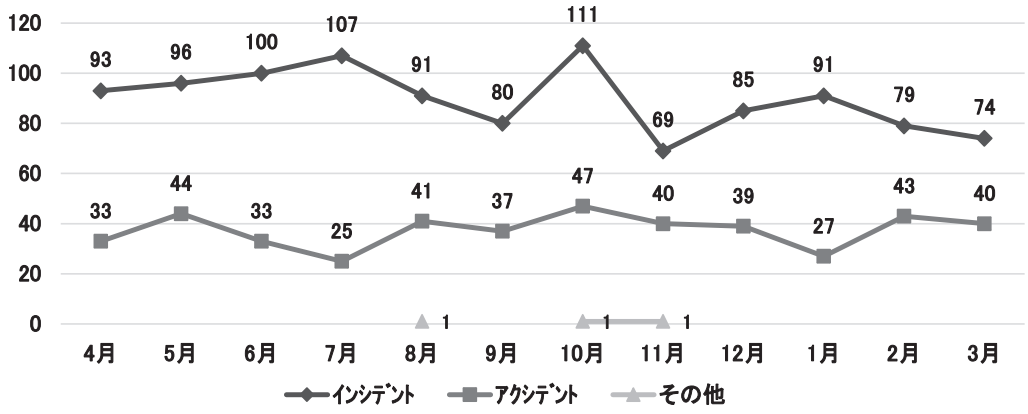
・医療安全対策加算Ⅰ－Ⅱ連携

糸島医師会病院

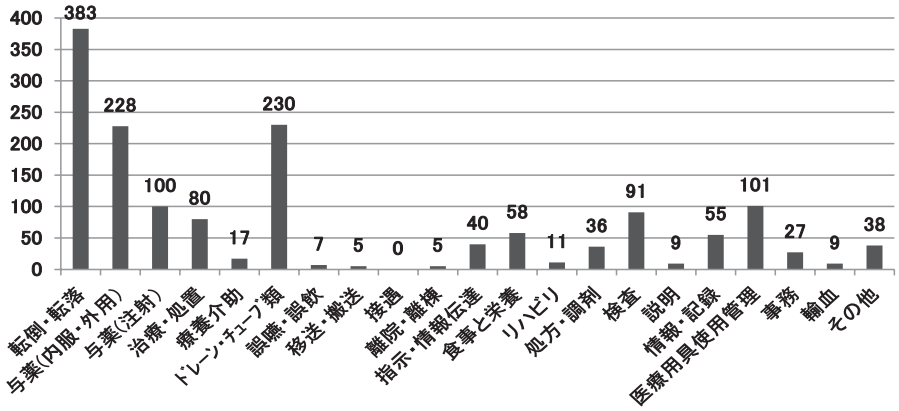
（社会福祉法人喜悦会 那珂川病院、医療法人輝松会 松尾内科病院、
日本赤十字社 今津赤十字病院、医療法人 南川整形外科病院）

Ⅲ：業績

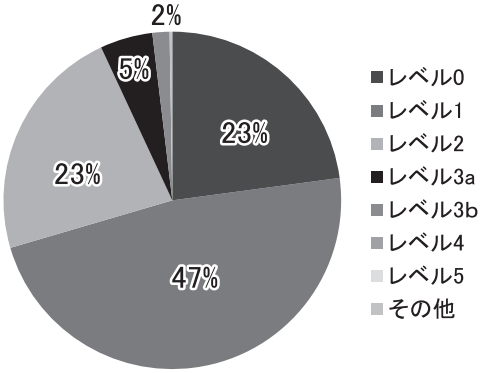
【インシデントアクシデント報告統計】



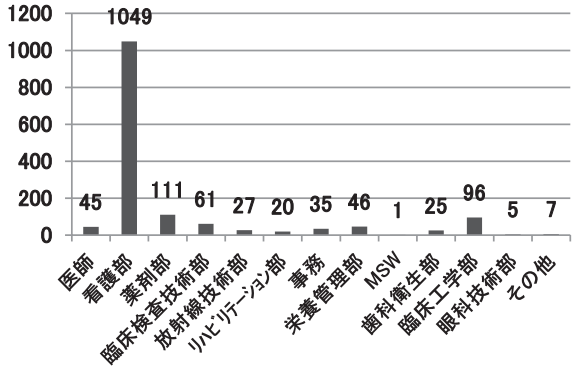
【分類別件数】



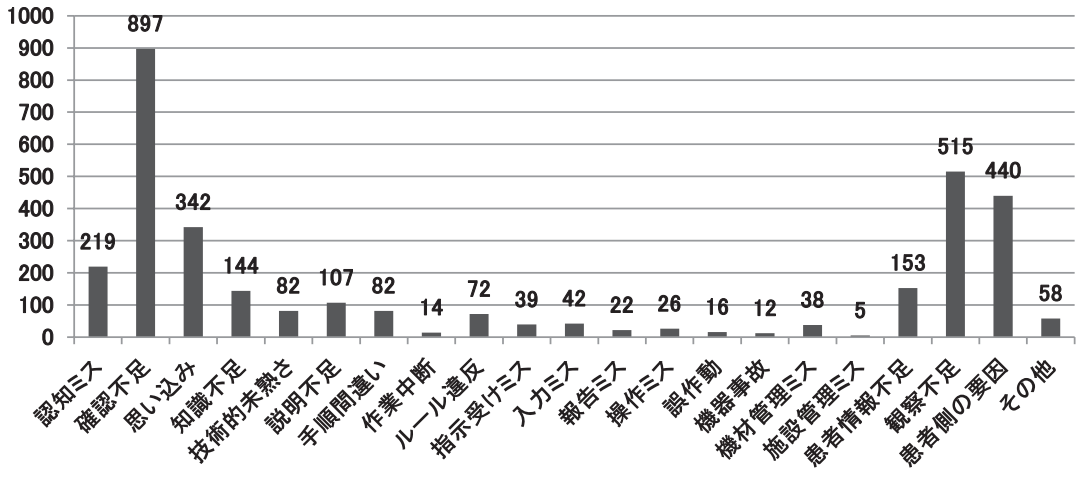
【レベル別件数】



【職種別報告件数】



【原因別件数】



Ⅳ：現状と展望

医療安全管理委員会および各部会と協働し、医療安全活動の推進に取り組んだ。アクシデントレベル 3a 以上（スキンテア事例含む）の発生件数は 102 件（前年度 114 件）であり、そのうちレベル 3b 以上の事例は 25 件（前年度 29 件）であった。

転倒・転落事例については、前年度 406 件から今年度は 379 件へと減少していた。一方で、全インシデントに占める割合は前年度 23. 6%から今年度 25%へとわずかに増加している。しかし、レベル 3b 以上の重篤事例は前年度 23 件から今年度 19 件へと減少した。この改善要因として、入院時情報を基に多職種でカンファレンスを実施し、環境調整や排泄介助などの支援方法について継続的に検討できた点があげられる。

ドレーン・チューブトラブルに関する事例は、前年度 252 件から今年度は 230 件へと減少した。一方で、NG チューブや点滴針の再挿入（レベル 2）は前年度 98 件から今年度 123 件へと増加していた。今年度はミゼアセーフ w® を新規導入して使用しているが、自己抜去の減少には十分に結びついていない。そのため、患者の状態や特性に応じた固定方法のさらなる検討が必要である。

今年度は有害事象が 3 件発生し、医事調停に提出した。このことを踏まえ 12 月の「安全･安心いっぱい月間！」では「凡事徹底！」を病院テーマとして掲げ、医療安全学術集会を開催し、各部門・部署の取り組みを発表・共有した。インシデントの原因としては、確認不足と思いこみが全報告の 37. 3%を占めている。次年度は、「確認行動の徹底」をテーマに職員全体で取り組みを進めていく。

医療安全対策地域連携では、加算Ⅰ・Ⅱ連携において施設訪問を実施し、双方の問題点や課題に関する意見交換が活発に行われ、業務改善につなげることができた。

作成：吉村節子　確認：林　修司

16. 感染制御部

Ⅰ：構成員

医師 1 名

看護師 2 名

Ⅱ：臨床活動

感染制御部部長 井手均、感染制御部課長 山口佐月（ICN、院内感染管理者）、感染制御部主任 入江育美（ICN、特定行為研修修了者）、薬剤部瀬戸山和希（PIC）、臨床検査技術部和方康貴を中心とし、病院感染対策委員会と各チームにて活動を行った。本年度の目的は、「標準予防策（手指衛生、環境整備）を遵守し ICT で活動を行った。年間を通した定型業務としては、環境整備、手指衛生、抗菌薬適正使用などのコンプライアンスに関する巡回、マニュアルの整備、院内全体および部署ごとの研修、指導、患者や職員向けの広報活動、各種ワクチンの接種などを行った。抗菌薬適正使用については、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）での活動を継続し、本年度は 108 症例に介入を行った。

新型コロナウイルス感染症については、110 症例の入院治療、インフルエンザについては、39 名の入院治療を行った。院内での感染対策については、毎月の感染対策員会にて情報共有と院内に向けては、毎週情報発信し啓発活動を行った。院内発生、水平伝播が生じたが、発生初期に検査を行って感染者を隔離し、診療に対する影響を最小限にとどめ、入退院制限を行うことはなかった。感染経路は不明であることが多かったが、職員による持ち込みが疑われる事例もあり、職員が当院で検査できる体制を整えた。

CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目細菌）のアウトブレイクが発生し、行政指導および加算 1 の支援を受けた。環境培養検査を実施したところ、手洗い場排水口からグラム陰性桿菌が検出された。この結果を受け、職員用および患者用手洗い場の清掃手順書を新たに作成し、排水口清掃の頻度と方法を強化した。また、職員および委託職員に対して清掃手順の周知と教育を行い、環境衛生管理の徹底を図った。感染対策 3 本柱「手洗いシンクの使い分け、手指衛生、環境清掃・シンク清掃」を実践した。

職員の感染予防を目的として、麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎の 4 疾患に関するワクチンプログラム体制を整備し、接種履歴の確認および必要なワクチン接種を実施できる体制を構築した。

施設基準に関しては、感染対策向上加算 3 の施設とカンファレンスを 4 回実施し感染対策向上加算 1 と相互チェックを実施した。ICT 交流会、サーベイランス報告会へ参加した。

作成：山口佐月　確認：井手　均

17. 患者支援センター

センター長　阿部　裕典

Ⅰ：構成員

センター長：阿部副院長

管理者：課長 2 名（看護・事務）、係長 1 名（事務）、主任 2 名（看護・事務）、副主任 2 名（MSW・事務）

他職員：事務職員 7 名（パート 1 名）、MSW 6 名、看護師 2 名、ケアマネージャー 1 名

Ⅱ：2025 年度活動内容

2025 年度は新入院患者数、紹介患者数、救急搬送台数において増加を認め、高稼働を維持して病床を運用する事が出来た。病床が高稼働の中積極的な救急患者の受け入れを継続する為に、軽症患者を近隣協力医療機関と連携し受け入れる「救急連携搬送（早期転院搬送）」を 6 月より本格始動し、救急受け入れ停止日数の減少につながった。また近隣連携機関より緊急受診・入院依頼時に窓口対応に時間がかかりすぎているとの長年の要望に対し、大幅に受け入れ体制を変更し時間短縮、お断り件数減少につなげる事ができた。地域連携を強化する為に前年度より診療科医師が同行しての渉外活動も再開しており、少しずつコロナ渦前の連携を取り戻す事が出来てきた。10 月に白十字会初の地域感謝祭を実施し、近隣住民からも好評を得る事が出来た。

Ⅲ：業績

業務内容：入院時支援・入院会計窓口・病床管理・前方連携・後方連携　＊（　）内は前年度実績

●病床管理

総入院患者数 7,099 名（6,952 名）/ 救急車受け入れ台数 4,598 台（4,430 台）/
病床稼働率 99. 9%（95. 6%）
平均在院日数 11. 3 日（11. 3 日）
急性期病棟：病床稼働率 100%（95. 5%）　平均在院日数 11. 4 日（11. 2 日）
地域包括ケア病棟：病床稼働率 103. 8%（100. 4%）/ 院内転床割合 60%（58%）/
在宅復帰率 84%（80%）

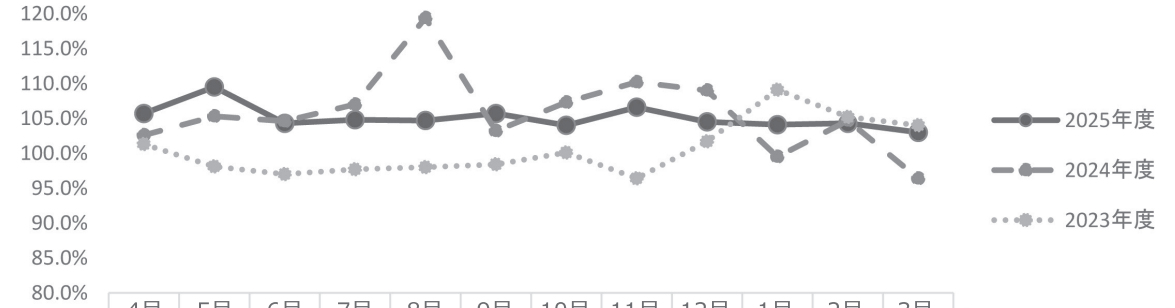
●入院時支援

入院時コーディネート介入件数　1877 件（2878 件）/ 入院時支援加算算定件数　625 件（745 件）

●前方連携業務

【登録医療機関数】 255 施設（2024 年度：251 施設　　2023 年度：256 施設）

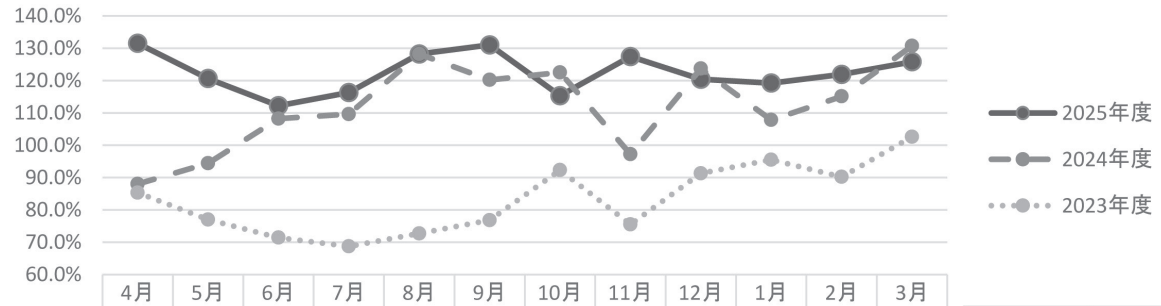
【地域医療支援病院　紹介率推移】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2025年度	105.7%	109.5%	104.3%	104.8%	104.7%	105.7%	104.0%	106.6%	104.5%	104.1%	104.3%	103.0%
2024年度	102.6%	105.3%	104.6%	107.0%	119.4%	103.2%	107.3%	110.2%	109.0%	99.5%	104.7%	96.4%
2023年度	101.3%	98.1%	97.0%	97.7%	98.0%	98.4%	100.1%	96.4%	101.7%	109.1%	105.2%	104.0%

2025年度平均	105. 1%
2024年度平均	105. 5%
2023年度平均	100. 4%

【地域医療支援病院　逆紹介率推移】



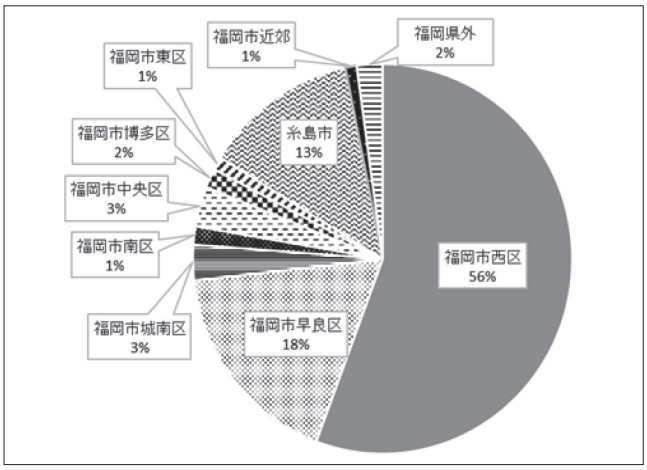
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2025年度	131.5%	120.6%	112.2%	116.3%	128.2%	131.0%	115.3%	127.4%	120.4%	119.2%	121.9%	125.8%
2024年度	88.5%	94.4%	108.2%	109.6%	128.2%	120.2%	122.5%	97.2%	123.7%	107.8%	115.1%	130.7%
2023年度	85.3%	77.0%	71.4%	68.7%	72.7%	76.8%	92.3%	75.5%	91.3%	95.5%	90.2%	102.6%

2025年度平均	122.3%
2024年度平均	111.3%
2023年度平均	82.9%

【診療科別紹介件数内訳】

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
泌尿器科	1,041	1, 053	1, 188
消化器内科	776	853	893
放射線科	733	777	697
心臓血管内科	794	746	796
外科	651	711	629
歯科口腔外科	488	545	508
脳神経外科	584	539	611
形成外科	440	507	580
整形外科	487	495	598
脳・血管内科	444	425	428
肝臓内科	283	397	326
腎臓内科	316	366	346
糖尿病内科	253	270	295
心臓血管外科	228	245	226
乳腺外科	183	212	205
呼吸器内科	187	209	274
総合診療科		198	255
救急科	121	169	121
眼科	153	149	156
血液内科	33	30	49
内分泌内科	28	29	33
皮膚科	5	2	0
精神科	1	0	0
合計	8,229	8, 927	9, 214

【紹介元所在地】



地区	件数
福岡市西区	5, 132
福岡市早良区	1, 615
福岡市城南区	271
福岡市南区	140
福岡市中央区	306
福岡市博多区	148
福岡市東区	100
糸島市	1, 212
福岡市近郊	88
福岡県外	202
合計	9, 214

【西区医師会学術講演会・啐啄会】

回数	開催年月日	演題	診療科	演者	出席者		
					院外	法人職員	合計
第130回	2025年5月21日	チームで取り組むACP	看護管理室 がん看護専門看護師	浜谷　千枝子	49	79	128
第131回	2025年7月16日	西区における骨粗鬆症連携	かつの整形外科 リハビリテーション科　院長	勝野　雷二郎	24	33	57
第132回	2025年11月19日	患者を守る　自分を守る	防犯対策室　室長	柴田　建一	24	25	49
第133回	2026年1月21日	高度肥満診療について	糖尿病内科　部長	井手　均	23	30	53
第134回	2026年3月18日	形成外科におけるオンライン診療	形成外科　部長	眞鍋　剛	13	28	41

【地域感謝祭実績】

2025 年 10 月 26 日（土）　白十字病院にて　来場：約 1,000 名

スタンプラリー・バザー・健康相談・HAL・とろみ体験・射的・キッズ医療体験

キッチンカー・めんたいこ作り体験など

【感謝の夕べ実績】

2025 年 9 月 26 日（金）オリエンタルホテル福岡　博多ステーションにて

総計　80 施設　153 名（院内出席者含む）

（1）院外　※（　）内は 2024 年の実績

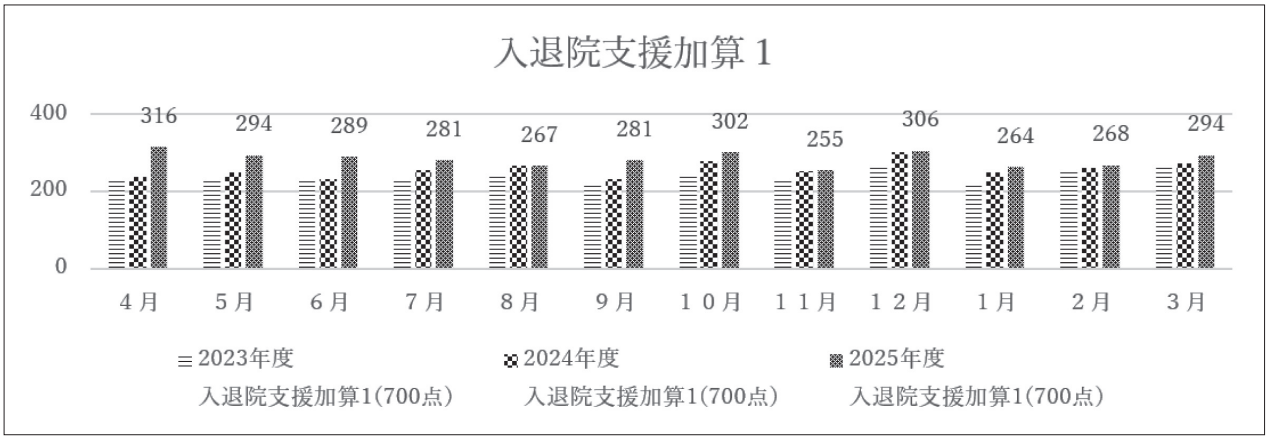
施設	施設数	出席者数
クリニック	40 施設 （44 施設）	40 名 （44 名）
病院	38 施設 （36 施設）	69 名 （74 名）
地域医療支援 病院運営委員	2 施設 （2 施設）	2 名 （2 名）
合計	80 施設 （82 施設）	111 名 （120 名）

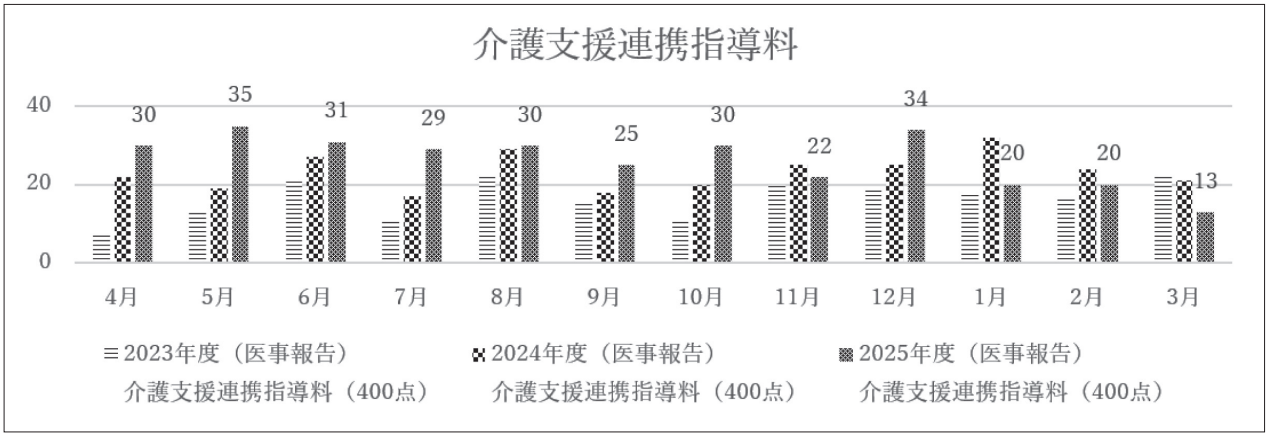
職種	人数
医師	56 名（66 名）
看護師	15 名（15 名）
薬剤師	1 名（1 名）
MSW･PSW	30 名（29 名）
事務	9 名（9 名）

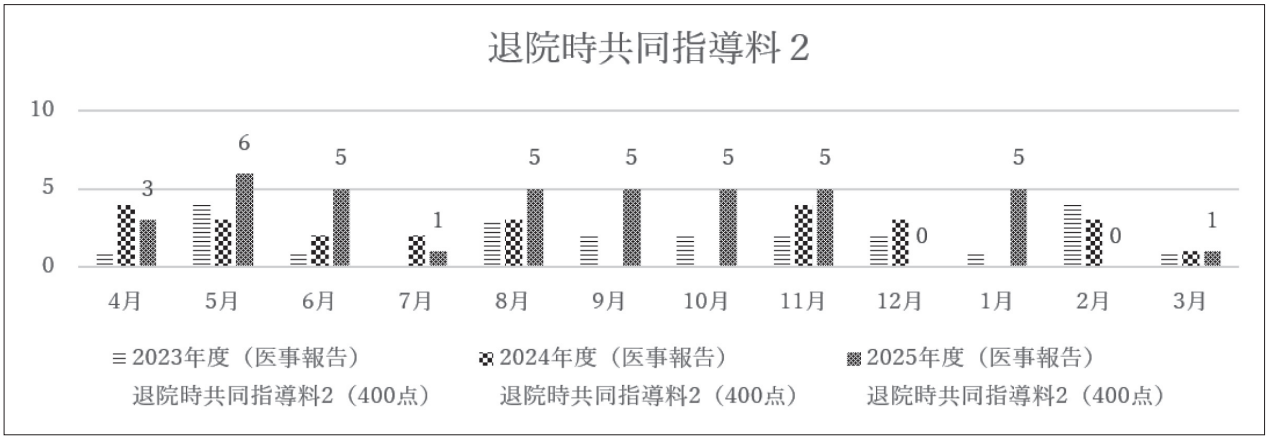
（2）院内

種別	出席者数
医師	26 名
医師以外	16 名
合計	42 名

●後方連携業績







Ⅳ：現状と展望

今後さらに高齢者急患の増加への対応、病院機能分化が求められている。福岡西部地区の基幹病院として、専門医療・救急医療・在宅療養支援の強化を図る為にも救急連携搬送を含めた地域連携の強化を行い、円滑な受け入れ体制を構築していく必要がある。

作成：ネルソン咲子　確認：阿部裕典

18. TQM センター

TQM センター長　熊井　康敬

Ⅰ. 構成員

医師 1 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 1 名、診療放射線技師 1 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名、臨床工学技士 1 名、事務員 2 名

Ⅱ. 活動内容

TQM センターミーティングを年間 12 回開催した（第 283 回 4 月 3 日～第 294 回 3 月 5 日）

1. 業務改善支援

①QC 活動

外来「内視鏡検査の業務改善」

②いい仕事人

第 47 回表彰　受賞者 2 組

2. 研修・教育支援

①全体研修会

前年に引き続き、全職員に対する研修会の計画の取りまとめを行った。

②各種委員会一覧の取りまとめ

③委員会活動報告と次年度目標

④学会発表システム運用

発表期間：2024 年 7 月から 2025 年 6 月まで　受賞者 5 名

⑤e ラーニングシステム運用

3. 職員満足度調査アンケート

外部委託により実施（2026 年 2 月 4 日～ 2 月 17 日）、集計結果は HOMES へ掲載済みである。

各部門長へアンケート結果の評価と今後の改善への取り組みを依頼した。

4. 提案制度の運用

2025 年度（2024 年 11 月から 2025 年 10 月まで） 提案 11 件（うち採用 3 件）

8 月に「提案ポイント 2 倍キャンペーン」実施

表彰は 5 年間（2020 年 11 月から 2025 年 10 月まで）に提案された 66 件から 3 名を表彰

5. 患者さんのお声・職員のお声

毎月 2 回の回収を行い、患者さんのお声は 28 件、職員のお声は 3 件であった。内容については、毎月開催している PDCA 会議で報告・検討を行い、改善事例は 3 件であった。

回答掲示（病院長返答）はこれまで印刷して掲示していたが、2025 年度からサイネージ（電子掲示板）へ表示する形式に変更して、合計 8 件であった。

①改善事例の一部事例

・（5 月）男性用病棟トイレの汚れに関するご意見を受け、適切な使用方法のポスターを掲示

・（7 月）外来会計表示が見えづらいとのご意見を受け、正面にモニターを 1 台追加

・（1 月）外来血圧測定器が車椅子利用者には使いづらいとのご意見を受け、昇降式台へ変更

※改善事例については、いずれも②回答掲示により回答を行っている。

②回答掲示事例の一部事例

・（5 月）駐車場ゲートの高さに関するご要望を受けたが構造上対応困難のため掲示にて回答

・（10 月）画像所見レポートに関するご意見に対し、当院の方針を掲示にて回答

・（1 月）CT 検査に関する感謝のお言葉に対し、謝意と今後の対応について掲示

6. 学会出張

第 66 回全日本病院学会	10/11-12	北海道　1 名
第 26 回医療の質改善活動全国大会	11/14-15	北九州　1 名

7. 掲示物管理

7 月から新たな取り組みとして、掲示物（番号のある掲示板を除く）の管理を実施

8. PDCA 会議（病院長、看護部長、事務長、TQM 委員長、TQM 事務取扱：月 1 回）

Ⅲ．業績

論文発表・学会発表等の研究業績はなし。

Ⅳ．現状と展望

当院では 2023 年度に病院機能評価の更新受審を終え、TQM センターの役割として「全体研修の管理体制の整備」が求められた。それを受けて整備した全体研修の年間計画管理について、2025 年度も継続して運用を行い、研修計画の作成、実施状況の確認、報告書の収集を通じて院内研修の把握と周知を行った。また、次年度以降の効率化を目的として、全職員必須の研修は原則として e ラーニング形式で実施する方針とし、合同研修会の開催方法についても見直しを行った。

また、職員意識調査のコメントをもとに内視鏡室の動線改善や駐輪場利用ルールの周知などの環境改善を進めるとともに、提案制度ではポイント 2 倍キャンペーンの実施や過去分を含めた表彰の実施など、職員の改善活動への参加促進を図った。病院からのお知らせをこれまでサイネージ（電子掲示板）でも行っており、「患者のお声」の回答を印刷掲示ではなくサイネージで行うようになった。今後もこれらの取り組みを継続し、研修・改善活動・職員意見の活用を通じて、医療の質の向上と働きやすい職場環境づくりに貢献していく。

作成：中島貴宏　確認：熊井康敬

19. 資格取得奨励支援制度利用状況

【2025 年度　資格取得奨励支援制度　申請結果（白十字病院）】

	部　門	資　格　名	申請者数	取得者数
支援資格	看　護　部	AHA　ACLS プロバイダー	9	5
		施設基準管理士	2	1
		認定看護管理者教育課程（サードレベル研修）	2	2
		認定看護管理者教育課程（セカンドレベル研修）	1	1
		認定看護管理者教育課程（ファーストレベル研修）	7	6
	薬　剤　部	外来がん治療認定薬剤師	1	0
		感染制御認定薬剤師	1	1
		日本糖尿病療養指導士（CDEJ）	1	1
	放射線技術部	マンモグラフィー撮影認定技師（A）	2	1
		医用画像情報管理士	1	1
		放射線管理士	1	1
		放射線被ばく相談員	1	0
	臨床検査技術部	乳がん検診超音波検査実施技師	1	1
		認定超音波検査士（体表臓器、循環器、消化器、泌尿器、産婦人科、健診、血管）	2	2
	臨床工学部	呼吸療法認定士	1	1
		周術期管理チーム臨床工学技士	1	0
	歯科衛生部	日本歯科衛生学会認定歯科衛生士 摂食・嚥下リハビリテーション	1	1
	支援資格合計		35	25
奨励資格	看　護　部	AHA　BLS ヘルスケアプロバイダー	14	13
		ICLS 蘇生トレーニング	9	7
		ISLS	2	2
		心電図検定 3 級	5	2
		心不全療養指導士	3	2
	臨床研修センター	FCCS	1	0
	薬　剤　部	日病薬病院薬学認定薬剤師	4	3
	臨床検査技術部	ICLS 蘇生トレーニング	1	1
		緊急臨床検査士	1	1
	リハビリテーション部	AHA　BLS ヘルスケアプロバイダー	2	2
		CI 療法講習会	1	1
		心不全療養指導士	2	1
		認知神経リハビリテーション・ベーシックコース	1	0
		脳卒中下肢装具アドバイザー	1	1
		福祉住環境コーディネーター（2 級）	1	0
		離床プレアドバイザー	1	1

	部　門	資　格　名	申請者数	取得者数
奨励資格	事　務　部	サービス接遇検定（2 級）	2	2
		サービス接遇検定（3 級）	6	6
		ビジネスキャリア検定（経営戦略 3 級）	1	1
		ビジネス実務マナー検定（2 級）	1	1
		ビジネス実務マナー検定（3 級）	1	0
		ビジネス文書検定（2 級）	1	1
		ビジネス文書検定（3 級）	2	1
		ホスピタルコンシェルジュ（3 級）	4	3
		医療経営士（3 級）	1	1
		院内がん登録実務初級者	1	1
		給与計算実務能力検定試験 1 級	1	1
		情報処理技術者（IT パスポート試験）	1	0
		情報処理技術者（基本情報技術者試験）	2	0
		秘書検定（準 1 級）	1	0
	奨励資格合計		74	55
総　合　計			109	80

作成：池田和幸　確認：大野和也

2025年度 白十字病院 年報

発行 社会医療法人財団白十字会 白十字病院

病院長 渕野 泰秀

--- 白十字病院 広報委員会・年報作成部会 ---